

を選ぶべし。

(3) 妊娠の初期には普通食欲減ずるのみならず、或は悪心嘔吐を催し、遂に病的となるに至るものにして、概して消化器の障害を蒙るものなり。

(4) 妊娠四五ヶ月に至れば、自ら食欲進み来るものなるを以て、消化し易き食物を適當に攝取すべし。母の食物の善悪は直接に胎児に影響を及ぼすものにあらざれども、母の血液が胎児の發育に充當せらるゝを以て、其の榮養の良否は間接に胎児の發育に關係を有するものなり。

資料

飲食物 飲食物はなるべく消化し易くして滋養に富めるものを適度に攝取し、強て平素の習慣を破るに及ばざるも、不消化物平素食へ慣れざるもの、及び峻烈なるもの、例へば芥子蕃椒、山葵等を濫用すべからず。其の他酒精飲料、濃厚なる茶及び珈琲等も用ひざるを宜しとす。殊に妊娠後半期に於ては飽食せざるやう注意すべし。

（警瀨博士新學產科學）

(三)居室

(1) 居室は空氣の流通光線の射入適當にして且閑靜なる所をよしとす。二

階は昇降に不便なると危險を伴ふものなるを以て之を避くべし。

(2) 廊下板間に長時間腰をかけ、又は敷物なくして座すべからず。

資料

新鮮な空氣と清潔は妊婦の攝生中で最も必要なことである。多量なる酸素の吸入は妊婦に必要なばかりでなく、胎児に及ぼす影響も亦大なるものがある。故に居室は日當のよい新鮮な空氣の流通する所がよい。

多人數集合する劇場などには行かぬがよい。往々卒倒を起し、陣痛を起すからである。

(四)運動

(1) 適當なる運動は便通をよくするのみならず、健康を保つ上にも必要なるを以て、日常の家事を處理するの外、屋外に出でて新鮮なる空氣を呼吸すべし。

(2) 異常なき妊娠は、屋内にのみありて座業を爲し又は横臥する時は却つて害あり。

(3) 奔馳跳躍を爲し、重き物を提げ、荷なひ、高所に物を上げ下げする等激しき運動は害あり。長途の旅行は避けざるべからず。

資料

運動。妊娠中と雖も適宜運動をしなくてはならぬ。庭園公園又は野外等を靜に疲勞せざる範囲内に於て散歩し、新鮮なる空氣を呼吸し、日光浴を爲す等は食欲を増し、食物の消化を助け、血液の循環便通をよくし、又精神を爽快ならしむる上に有效である。然し、妊娠三四ヶ月の頃は流産し易い時であるから、強い運動を避けねばならぬ。又妊娠の後半期になると腹部が前方に膨れ出て重心がとれにくいから、歩行の際に躓つてたふれ易いから、大に注意を要する。

- (1) 履物は草履の如き軽い薄いものを穿くがよい。
- (2) 雨降りの時又は雨後の泥濘なる道路を高い足駄で歩行することは宜しくない。
- (3) 散歩でも家に歸つて疲勞を感じない程度にしなくてはならぬ。度を過すと害がある。
- (4) 室内の運動は軽い程度に爲すは差支ない。平素の業務に服することはそれがよい運動である。但し劇しいものはよろしくない。

(五) 入浴 身體の清潔を保つ爲め、一日一回の入浴を必要とす。長時間の入浴は害あり。浴後感冒に犯されざるやう注意すべし。

資料

妊娠中は時々入浴するがよい。全身温浴は毎日一回位行ふても差支ない。但し長時間の入浴はよろしくない。十五分乃至二十分間位が適當である。海水浴又は熱浴は避けねばならぬ。座浴脚湯は流産を來すおそれがあるから行つてはならぬ。

(六) 睡眠 睡眠は心身の休養に必要なものなるを以て夜ふかしを爲し、又は殊更には早起を爲す等のことなく、十分に安眠すべし。

資料

蒲團は餘り重くないのがよい。妊婦は身體の養分を胎兒にとられ、神経も弱り、疲勞し易いから平素よりも多く眠らなくてはならぬ。早く寝て熟睡するやうにしなくてはならぬ。

妊娠中は神経過敏となるを以て、家事上職業上己むを得ざる場合の外精神を勞することなきやうつとむべし。無益なる心配、取越苦勞等を避け、精神を調へ感情を和らぐることにつとむべく、過度に精神を興奮せしむる稗史小説演劇の如きは避けざるべからず。偉大なる自然、高尚なる思想、優雅なる藝術によりて精神の修養につとめ、行爲を正しくして所謂胎教の一助と爲さんことを要す。

資料

精神。状態。精神は常に安靜に保持するを要する。初妊婦や又は前に困難な分娩を経験した婦人は、恐怖の念を抱くことがあるが、それはよくないことである。餘りに心配したり、腹を立てたり、悲しんだりするのは害がある。活動寫眞、演劇、寄席小説等は此の點からよくない。其の他過度に精神を勞することなく、睡眠を十分にし、なるべく精神の休養につとめねばならぬ。古來胎教に關して諸説あるも、之を要約して見れば、妊娠時に婦人の精神状態を安靜高潔ならしめんが爲めの誠めである。

(1) 心の平和なるべきこと。心に不安あれば、身體にも悪く胎兒にもよくない。心配は一番毒である。なるべく氣分を快活に持ち、物の光明方面を見るやうにしなければならぬ。快活であれば、血行もよく、健康になる。物の暗黒方面を探しまはり陰鬱に暮すことはなるべく避くべきである。

感情の激動は、身體に強く影響するものであるから、感情の波瀾を起さぬやうにつとめなくてはならぬ。怒り、妬み等は心で制し得るものである。悲しいことは早く諦めをつけ、よくせぬがよい。喜怒哀樂常なきは身體を損ひ胎兒の爲めによくない。

(2) 寡慾なるべきこと。心を平和に保つには種々の欲望を起さず、あつさり暮すが

よい。種々の欲望を起すと心に波瀾が起りがちとなる。

(3) 精神の純潔なるべきこと。妊婦は思想を高尙に持ち、不潔なることを考へ、穢れた事を思はないやうにしなければならぬ。胎内には萬物の靈長たる人の子が宿り我に其の運命を託して居ることを思ひ、已れば神の代理、現實の天使と心得、高尚純潔なる精神を持ち、胎兒を護らねばならぬ。正しく念ひ、清く考へて人の子を生むべき貴い使命を完全に果すことを心掛けねばならぬ。娛樂嗜好も上品なものを適度に取り、これは良いのである。優美な音楽を聴き、又緊張せぬ程度で唱歌をしたり、奏樂することは、精神を快活にし、暫し理想の境に我を逍遙せしめるのもよいことである。花卉を賞でて、人界以外に自然の美を樂しむこともよいことである。然し嗜好に偏し、之に溺れたり、餘り歡樂を追ふこと急にして、刺戟の強いものに満足を見出さうとすることは避けねばならぬ。演劇、寄席活動寫眞の如きも、卑猥殘酷なるもの、悲哀に過ぐるもの、肉感的挑發的にして感情を激動せしむるものは之を避けねばならぬ。

(4) 讀み物に注意すべきこと。書物は精神を養ふ食物で、精神の向上進歩を圖るものは、一日とても書物を離してはならぬ。書物は天地間のあらゆる事物を包含して居る。大なる思想、清き精神、眞なるもの、善なるもの、美なるもの、皆之れを書物の中

に求めることができる。書物は作者の眞の精神の籠る所。立派なる書物に取圍まれて居る人は、多數の良友偉人に取り圍まれて居るが如きもので、如何なる場合にも、其の中に忠實なる助言者慰安者同感者を見出し、高尚なる指導者激勵者を求めることが出来る。内容のうるはしい書物のあることは、既に心の清い喜びを誘ふものである。

文學書は純潔で上品なるものを讀むやうにし、人事の暗黒面を描いた厭な感じのするものは、手に取らぬやうにしたい。刺戟の強い感情を激動せしむる如き書も避けねばならぬ。妊婦は常に精神上春日の朗かなる光明の中に生活することを努むべきである。良書を適當に讀まねばならぬ。

書物のみならず、新聞や雑誌に就ても同様の注意を要する。婦人は書物より、新聞や雑誌を讀む方が多いから、一層其の選擇には注意せねばならぬ。悲惨残酷の感を起し、劣情を挑發し、又は罪惡を報ぜる記事などは、讀まぬやうにしないでならぬ。雑誌でも輕佻浮華なるものを避けて、實質の良いものを選ばねばならぬ。(5) 言語學動を慎むべきこと。妊婦は、たゞ内に宿す所の思想を純正にし、精神を平和ならしめるのみならず、其の外に發する所の言語學動をも慎まねばならぬ。妊婦は常に上品にいひ、上品に行ふことを心掛けねばならぬ。又他を愛し、いつくしみ

善事を行ふて、品性の高い人となることを努めなくてはならぬ。要するに妊婦は自分は今如何なる身であるか、如何に重大なる責任を有するかを自覺して、うるはしい精神と行爲とによつて來るべき楽しい日を待たねばならぬ。

(下田文學博士胎教)

胎教はほんとに大切なものか。

胎教といふ言葉は支那の小學から出た語で、「寢るに側せず、坐するにかたよらず、立つに蹕せず、邪味を食せず、割正しからざれば食せず、席正しからざれば坐せず、目に邪色を見ず、耳に淫聲を聽かず、夜は瞽をして詩を誦し、正事を道はしむ。此の如くなれば則ち生るゝ子、形容端正、才人に過ぎん」といふ事がのつてをります。

文王の母の大任はよく此の教を守つたので、あのような大聖人が生れたことは人のよ

くいふことであります。我國でも昔から胎教はやかましくいうたものであります。若し母親が妊娠中に火事をみた時、その手を洗はないで自分のからだにさはると、さはつた處に赤瘰が出來るとか、又葬式をみたら青瘰が出來るとかいひ傳へられて居ります。このようないひづたへは、よその國にもありまして、アフリカのエミオピア國の或皇后様が、懷妊の時に有名な畫家のかいた白人の繪を毎日みて居たら、生れた子供が白色であつたといふ話があ

ります。又或婦人はパプテスマのヨハネが駱駝の毛衣を着て洗札をほどこしてゐる繪をみてをりましたら、生れた子供の全身に毛が一ぱい生えてゐたといふ話があります。又出産の間際に大怪我した人を見て非常に驚いた處、生れた子供の腕に怪我した跡のようなかたがついてゐたといふ話もあります。又米國のケンタッキー洲の或牧場で政府所有の馬には左肩の下の方にUSといふ字をかきました處が、その馬と一緒に飼はれてゐた牛の中に、肩にUSといふ字のついた仔を生んだのがありましたそうです。

以上の例のように、胎児が母胎内にゐる時にうけた精神上身體上の影響を基礎として、その生活方法を教へたものを胎教といひます。さてこの例にみますように、胎教はそれほど大切なものでせうか。

母親と胎児との神経系統には其の間に何等の關係もありませんところからみましても、胎教といふことはそれほど大切なものではないと思ひます。然し母が精神に非常な苦しみをすると、そのために榮養に故障を起し、母がからだを悪くしますと、自然に胎児のからだをも悪くするのであります。ですから母の感じたことがそのまま直に胎児に影響するといふよりか、心の苦しみからからだを害し、からだの悪いといふことが胎児に影響するのであると思ひます。そして昔からいひつたへられてゐる例は、何

百人に一人とか何千人に幾人とかといふような、極く稀な例が有名になつてゐるものでありますから、その僅な例で一般を推して考へるのは無理なことであります。然し人間の知識はまだ淺薄で、これで宇宙の眞理を皆知りつくしてゐるのではありませんから、遺傳につきましても、まだく／＼知れてゐない事が澤山あるに違ひありません。この問題についてはお互に研究を要すること、今憶測から兎や角の結論をすることはあまりに輕卒であると思ひます。(太田醫學博士)

助産婦の良否は産婦及び生兒の運命にも關するものなれば、其の選擇に際しては、信用ある醫師に相談し、適當なる人を得ること肝要なり。

- (1) 經驗に富み技術優れたるものたるべし。
- (2) 人物親切、伶俐、沈着にして注意深く、清潔を好むものたるべし。
- (3) 交通便利なる所に居住するものたるべし。

資料

妊○娠○と○お○産○の○歌 (醫學博士 木下正中氏選) (家事界の智囊より)

- (1) 食物は平素の儘で差支なし、毒だちなどは無き事と知れ。
- (2) 嘔吐下痢、食欲不振、腹痛と秘結は醫者の手當受くべし。

- (3) 運動は平常慣れたる程度より控へ目にせよ、無事ならん爲め。
- (4) 乗物(汽車、電車、人力車、馬車、自動車)に長く乗るのは心せよ、散歩するのも程度よくせよ。
- (5) 轉倒なよ、梯子、階段、坂道は殊に用心するがかんじん。
- (6) 温泉や海水浴は禁物ぞ、腰湯、長時間入浴なども慎め。
- (7) 劇場、寄席、長く観るのは慎めよ、物見遊山に遠出などすな。
- (8) 呼吸、促迫、動悸、浮腫、出血を醫者に見せるは早き程よし。
- (9) 幾度も流産するは病あり、診察うけよ、醫者の許にて。
- (10) 身二つになる支度には手落なく、産衣、夜具の用意揃へよ。
- (11) 産月に近寄るまでに勝れたる技術と手慣の産婆頼めよ。
- (12) 落付きて無駄な心配せぬがよし、産の時にはそれが大切。
- (13) 早くから無理に努責みて疲れるな、自然の努責待つがよろしい。
- (14) 努責むなと言はれたならば口開けて深く呼吸をせねばならぬぞ。
- (15) 苦しとして身體動かし悶ゆるな、手當の邪魔になるばかりなり。

第五章 分娩

第一節 分娩前の準備

妊娠七八ヶ月に至れば、生兒の爲めに、衣服、襦袢、寝具等を準備し、更に出産に對する各種の準備を完全に爲しおくべし。

(一) 産室 産室は廣くして明るく、空氣の流通よき所を選ぶべし。

産室狭き時は、産婆、醫師、其の他附添人の出入、生兒の取扱、消毒等に不便を來すこと多し。

資料

産室 産室は清潔で靜で、且新鮮の空氣がよく流通し、日當のよい所がよい。室はなるべく廣い所がよい。隣室があればなほ都合がよい。湯を運んだりするのに便利な室を選ぶべきである。寒冷の時期には、隙間もる冷氣をふせぐやうにしなければならぬ。

(二) 必要な用具用品 分娩時に必要な用具用品は之を取揃へおくべし。

産時用蒲團・油紙數枚・護謨布(一米一枚)・晒木綿二三反・脱脂綿約二キロ瓦ガ
 ーゼ(三四反)・青梅綿(二包)・小さき掛蒲團・フランネル製股引・胞衣納器・差込便器
 瀬戸引手洗(三乃至五個)・バケツ(二三個)・イルリガートル・小判形湯盥石器急須
 吸呑湯タンポ(二三個)・氷嚢(二個)。

藥品としては、アルコール・リゾール水・オレノフ油・食鹽・葡萄酒・硼酸末等。
 近年分娩用具と稱し、産時必要品を一箱の中に取り揃へられたるものを藥店
 にて販賣せるも消毒の效力疑はしきものなしとせず。

資料

初生兒用具

- (1) 繙帶品消毒品 臍繙帶(初生兒の臍部に用ふる腹帶)。臍綿紗(臍部を包む)。撤布藥
 (デルマトール末・亞鉛華粉・沃度フォルム末)。脱脂綿花口又は眼を拭ひ又は臍にあ
 てる。
- (2) 沐浴具 浴鹽・石鹼手拭・大小タオル・バケツ・杓・浴用寒暖計。
- (3) 寝具 蒲團・掛蒲團・敷布・枕・衣服・襪・襦・フランネル湯婆(寒冷の候)。
- (三) 身體上の注意 出產豫定日に近づきたる時は特に身體の清潔攝生に留

意し靜に時の至るを待つべし。

資料

溫浴は妊娠中より分娩前迄無害であつて清潔法として最もよいことである。然し
 浴湯中には種々の病原菌が存在して居るものであるから錢湯などは湯水の新しい
 間に行くやうにしないでならぬ。

第二節 分娩

妊娠の期間満ちて胎兒が母體との連絡を絶つを分娩といふ。分娩は陣痛
 を以て始り後産の娩出を以て終るものとす。

(一) 開口期 分娩の準備期にして子宮口の全開迄の間をいふ。

(二) 産出期 子宮口の全開より胎兒娩出までの間をいふ。

(三) 後産期 胎兒娩出後より胎盤の脱出するまでの間をいふ。

分娩の時間は初産婦と經産婦とによりて異なるものなり。初産婦は九時
 間乃至十八時間平均十五時間とす。其の最も多くの時間は開口期に屬し、産
 出期は二時間半、後産期は半時間なるを普通とす。

經産婦の分娩時間は概ね九時間を超えず。七時間を以て平均時間とす。産出期一時間、後産期は半時間なるを普通とす。

分娩の作用は多くは天然の力によりて平易に終るものなり。異状を生じたる時は速に醫師を招くを要す。

妊娠の末期より産に慣れたる看護婦を雇ひ入れおくを便利なりとす。

資料

分。娩。 妊卵が娩出力により一定の産道を通過し、母体外に排出せらるゝをいふ。

陣。痛。 陣痛とは、分娩時周期性に反復し來る子宮の收縮をいふ。常に疼痛を伴ふものであるから此の名があるのである。陣痛は、通例分娩を開始し、之を催進せしむるものである。換言すれば、妊卵の剝離と之を排出するに作用するのみならず、胎位を變じて娩出に便なるべき位置と爲すものである。

陣痛は時として既に妊娠期中に之を見ることがある。然しこれは未だ整然たる性質を帯ぶるものではない。之を妊娠期陣痛といふ。妊娠末期に近づくに従ひ其の頻度を増し、且つ多少強劇となる。之を前驅陣痛といふ。何れも分娩とは關係の深いもののである。

分娩時陣痛は第一期に來るものを準備陣痛又は開口陣痛といひ、之によりて子宮頸管は展開せられ、内子宮に擴張せらるゝものである。

第二期に來るものを排出陣痛といふ。第三期に來るものは後産期陣痛と稱し、之によつて後産が排出せられるのである。更に産褥の初期に入つて來るものを後陣痛といふ。(磐瀬醫學博士新撰産科學による)

後。産。 胎兒娩出後に胎盤及び卵膜が排出せられるのを後産といふ。

分。娩。 次の三期に區分することができる。

(一)開口期(第一期) 前驅陣痛既に去り、兒頭を骨盤入口に固定するやうになる時は茲に初めて分娩初期となるのである。規則正しき陣痛の反覆に始まり、子宮口の全開大に至るまでを開口期といふ。

陣痛は其の發作間歇共に整調となり、子宮の收縮及び之に伴ふ疼痛は前驅陣痛に比すれば強激となり、發作持續は長くなる。當初は間歇時約十分乃至十五分、後には二分乃至五分となり、發作持續は三十秒乃至五十秒なほ其の以上に及ぶものである。

かくの如き陣痛により、子宮口は漸次開大し、其の附近は子宮壁から剝離しはじめ、其の剝離面から多少の出血を來し、血液を混ぜる粘液を排出する。これが子宮口開大の初徴で、分娩初期には必ず來る徴候である。此の剝離した卵膜は胞狀に隆起し、楔狀に

子宮口内に進入し、徐々に子宮口を開大するのである。之を卵胞又は胎胞といひ、卵胞内の羊水を前羊水といふ。

卵胞は陣痛発作の時に緊張し、間歇時には再び萎縮弛緩するのであるが、漸次陣痛が激増すると胞内の水液は愈々多くなり、陣痛間歇時に於ても緊張し、腔内に膨隆して居る。子宮口は益々開大せられて、其の邊緣は互に觸るゝことなく、卵胞は將に破綻を來さんとするの情態となる。これは兒頭が下降して子宮壁に緊接し、陣痛間歇時に於ける羊水の還流を妨げるからである。

子宮口が約八糎或は全開大して一〇糎乃至一一糎に達すると其の口縁は上方に退縮し、卵胞の緊張は其の極に達し、其の弾力性は之に堪へ得ず、遂に破綻を來し、前羊水を射出せしめるのである。之を破水といふ。

卵膜の破綻は、通常外子宮口に突隆せる部分に於てするものであるが、時としては、なほ上方に於てすることがある。破綻に際しては一種の音響を發し、産婦は何か破れたやうな感じがするものである。

破水後は、陣痛が一時休止し、次で強烈なる發作が襲來するのである。兒頭は骨盤内に箝入し、前進を始め、第二期に移行する。

要するに第一期は産道の擴張する時期で準備期である。

(二) 娩出期(第二期) 娩出期は又排出期ともいふ。此の期の陣痛は、最も強烈で然も頻繁で、發作の持続が又長い。胎兒排出に作用するのであるから排出陣痛といはれて居る。胎兒は多くは頭の方から生れるのである。胎兒下降部は深く骨盤腔内に進入し、反射的に腹壓を誘起し、胎兒の前進を助ける。胎兒の先進部が骨盤下口に達する時は會陰部は著しく膨大し、兒頭は陰唇の間に隱顯出沒するやうになつて來る。即ち陣痛時には、陰唇中に表はれ、間歇時には退行して陰唇の中に隠れる。此の状態を兒頭の排臨といふのである。

兒頭の大部分が陰唇の間に露出し、來り、間歇時にも再び退行することなきに至れば之を兒頭の撥露といふ。此の時は外陰部の緊張其の極に達し、産婦は激痛を感じ、玉なす汗を流す。呼號失神せんとする者さへある位である。爾後直に頭部は娩出せられるのが常である。然らざるも來るべき二三回の陣痛で全く排出せられるものである。頭部の娩出に次いで軀幹部が排出せられる。

兒體の娩出せられた後直に血液の混じた殘餘の羊水が流出する。之を後羊水といふ。其の血液は裂傷及び胎盤剝離に由來するものである。

産兒は母體の大腿の間に在りて、呱呱の聲をあげる。然し此の時は臍に附着して居る臍帯は尙搏動を呈し、他端は陰を通じて子宮内の胎盤に連續して居るのである。

(三)後産期(第三期) 胎兒の排出と共に、産婦は著しく輕快を覺える。再び子宮が收縮して二回乃至五回の所謂後産陣痛が發作して來ると、胎盤は子宮面から剝離し始め、其の間隙に出血すると胎盤は益々剝離せられて、十五分乃至三十分間で胎盤の剝離は全く終り、胎盤は子宮腔内に下り、終りに卵膜と共に子宮の下部又は腔に達し、遂に腹壓と腔壁との收縮及び自己の重力によつて外方に壓出せられ、これによつて分娩は完了するのである。

分娩経過の時間 我が國婦人の平均は概ね左の如くである。

(區分)	(初産婦)	(經産婦)
第一期開口期	一〇時間乃至一二時間	四時間乃至六時間
第二期娩出期	二時間乃至三時間	一時間乃至一・五時間
第三期後産期	1/4時間乃至1/2時間	1/2時間乃至1/3時間
通計	一二時間乃至一五・五時間	五時間乃至八時間

分娩開始の時間は午前二時から午前三時が多く、午前十一時から十二時の間が最も少ない。分娩完了時間の多いのは午前八時から午前九時、少ないのは午後四時から五時の間である。

第六章 復故作用と攝生

妊娠分娩の爲めに著しき變化を爲したる身體の情態が、妊娠以前の舊態に復するを復故作用といふ。産後約六週間にして復故作用は完了するものなり。

妊娠中最も著しき變化を爲せるものは子宮にして、胎兒分娩すれば二分の一に收縮し、胎盤娩出せらるゝや更に縮少す。其の後陣痛と共に次第に收縮し、産後凡そ十日乃至十二日にして全く骨盤内に入る。

産後子宮内面より出づる一種の臭氣ある分泌物を惡露といふ。最初の二三日間は血液中に粘液卵膜の殘片を混じ、三四日後に至れば血液は稀薄となり、七八日後には血色消失し、粘稠白色の液となり、三四週後に至りて分泌止む。子宮内面の創は殆んど癒えたる證なり。

資料

産褥 産褥とは、分娩終結後其の創傷の全く治癒し、且つ妊娠及び分娩によつて起つた生殖器並に全身の變化が殆ど全く復舊する迄の期間をいふ。即ち胎盤娩出後に始

まり、その後六週間乃至八週間持續するのが普通である。概して乳授婦は復舊機能迅速且つ完全であつて其の授乳期間は多くは月經が閉止するものであるが、授乳しない人は復舊作用が緩慢である。月經の再潮あらば通例之を産褥終結の徴と認めてよいのである。

生殖器の復舊は、縱令完全なりと稱するも然も全然舊態に復するものではない。創傷は其の跡を癢痕に留め、子宮は長且つ大にして厚く、腔また廣濶となり、其の壁の皺襞は著しく減少するものである。

惡露 惡露とは産褥中生殖器官より排泄せらるゝ液汁をいふ。主として子宮内創傷の分泌物(創液)より成り、之に加ふるに頸管腔及び外陰部よりの分泌物を以てし、血液脱落膜殘片、粘液及び膿を認めることができる。

(1) 血液性惡露 産褥第一乃至第二日に於て出づる血液に富み暗赤色なるもの。
(2) 漿液性惡露 第三日以後の血液著しく減少し淡紅色の稀薄なる肉汁様液となりたるもの。

(3) 白色惡露 第八日乃至第十日に以後の血液の量益々減少し、膿球及び剝離せる上皮の加はり、帶黄色又は乳脂色となれるもの。

惡露は第三週にして甚だ鮮少となり、第四週至第六週に至り全く停止するものである。

産後は復故作用の營まるゝ大切の時期なれば、褥婦は特に攝生に注意するを要す。

(一) 精神の安靜 神經過敏なること妊娠中に同じ。故に精神感動を惹起すべき原因はなるべく之を避け、つとめて安眠を爲し、心丈夫に肥立を待つべし。

(二) 身體の安靜 産後は身體を安靜にして復故作用を完からしむべし。殊に最初の二三週間はつとめて安靜に保つべし。最初の二三日間は仰臥の位置を取り、其の儘にて吸吞を用ひて食事を爲し、兩便は便器にて仕末すべし。横臥は其の後に於てすべし。

(三) 清潔 室内衣服身體を清潔にし、惡露にて汚れたる部分は消毒藥にて清潔にすべし。勿論此等は助産婦又は看護婦の任なり。入浴は産後三週間以上を經過し、全く惡露なきに至りたる後に爲すべきなり。

(四) 食物 産後二三日間は牛乳・スープ・鶏卵・お湯等の流動食をよしとす。四五日を經過し腸胃整ひたる後に至りて始めて粥・鮮魚の刺身等刺戟少なきものに移るべし。更に一週間を經過し他に故障なきに至り漸次普通の食物

を攝取すべし。

(五)便通 便通は産後三四日はなきものなるが、若しこれ以上なき時は灌腸を爲し、小水は排尿作用を施すべし。之を怠る時は子宮の復故作用を遅延せしむるものなり。

資料

産褥婦の攝生。

(一)居室 廣潤にして閑靜なるを選び、無用の什器を遠ざけ、日光は間接に之を受けしめ、空氣の流通をはかること。室温は攝氏十八度内外を適當とす。

(二)就褥 分娩後少くとも一週間出來得べくんば二週間就褥すること。初め兩三日は専ら仰臥位をとり、空氣の子宮内に竄入するを防ぎ、爾後は子宮の收縮状態可良にして惡露も之に相當する時は側臥するも可なり。一側に偏すべからず。少くとも一週間は食事授乳及び放尿便通に際するも決して起床せぬこと。

離褥期は、子宮收縮の状態及び惡露の量に鑑みて決すべきである。即ち惡露の量少く且つ其の色稀薄にして子宮既に小骨盤内に入つたならば、臥褥を辭するもよい。通常十日乃至十四日にして此の期に達する。夏季天候のよい時は三週後産室を去るもよい。冬季に於ては四五週以上産室に居らねばならぬ。褥婦は感冒に罹り易いから

である。第六週後には平素慣習の仕事に従事するも妨げない。

(三)寢具・衣服 汚染せる布片敷布等は速に之を取り去ること。蒲團は軽く柔軟で保温性に富み清潔なるべきこと。衣服は寬潤温暖なるがよろしい。乳房及び腹部を冷却せしめざるやう注意すべきである。

(四)精神の安靜 褥婦は精神感動し易いものである。欣喜憤怒哀悼耻羞等精神の興奮を促すべきものは之を避け、又複雑なる家事上のことは之に干與しないやうにしなければならぬ。

(五)飲食物 身體の運動が不足するを以て消化し易いものを選ばなくてはならぬ。飢渴飽食共に宜しくない。

(1)初三日間 牛乾ソツプ、重湯、葛湯、うすき粥、半熟卵等を用ひ、渴する時は、清鮮なる水又は温湯を飲むがよい。

(2)第三日以後 食欲増進し、便通があつたならば、徐々に麵麩、軟肉、刺身等の固形物の少量を攝取するも差支へない。

(3)第二週乃至第三週以後 常食に復してもよいが、なるべく消化し易いものを選び、べきである。肉類では、鳩肉、鶏肉、牛肉、脂肪少なき魚肉、野菜では、纖維素の少ない百合、人参、馬鈴薯、甘藷等がよろしい。

(4) 授乳婦 なるべく滋養に富める食物殊に牛乳ソップ味噌汁等を攝取すべきである。

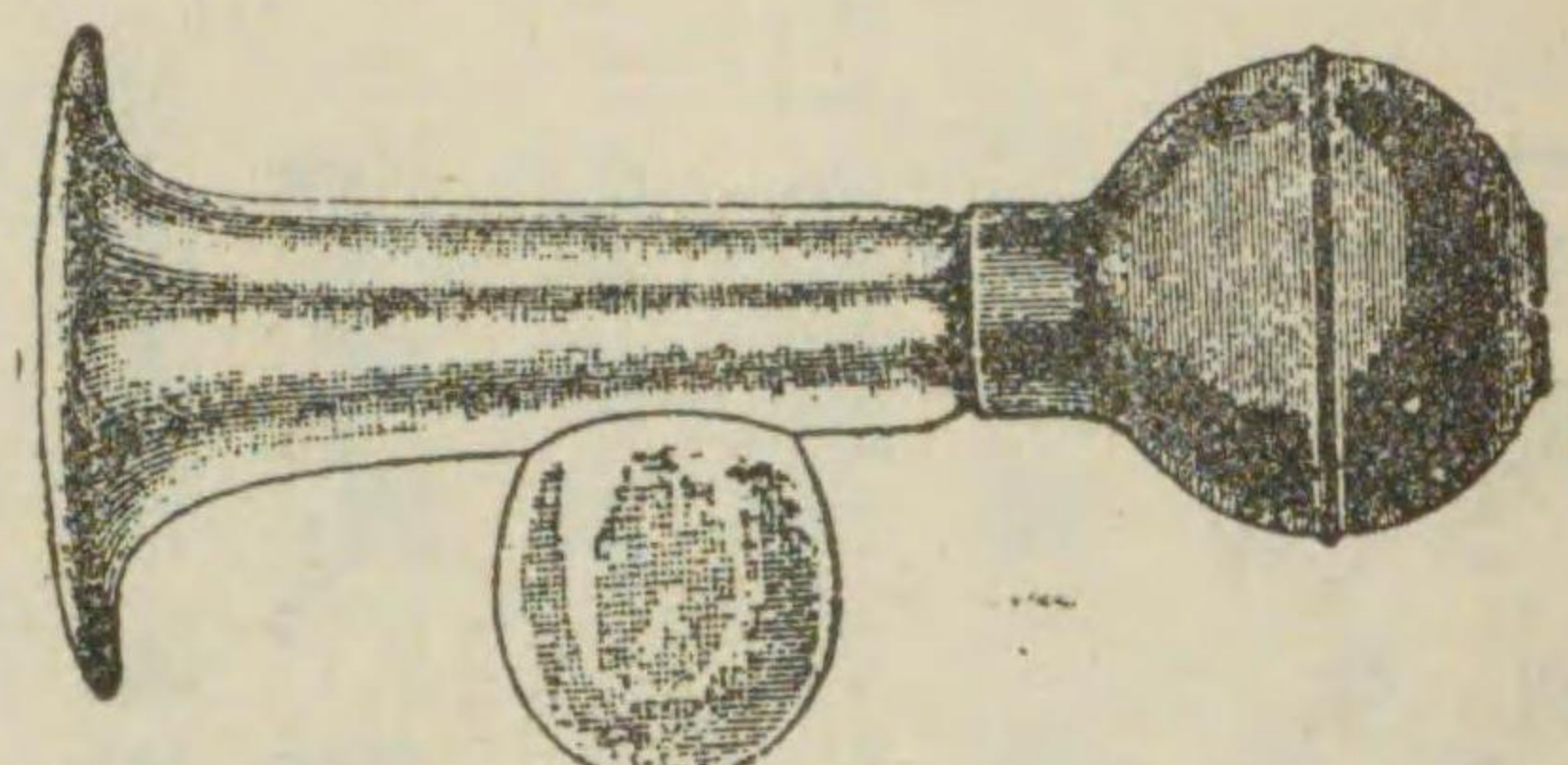
(六) 便通 褥婦は便秘の傾向がある。分娩後二三日は便通を見ないのは妨げないが三日を経てなほ無いときは、腹部按摩法を試み、なほ效なき時は灌腸を行ふとかヒマシ油を飲むがよい。

(七) 利尿 褥婦は排尿困難のことが屢々ある。分娩後六時間にしてなほ利尿なき時は膀胱部の摩擦、壓迫若くは温罨法を施すがよい。

(八) 陰部の處置 陰部を清淨にすることは最も重要である。外陰部は惡露排出の爲め汚染せられるが故に分娩後一週間は毎日二回微温の殺菌水若くは稀薄な消毒液即ち二%の石炭酸水または一%のリゾール水等をしたしたる脱脂綿でよく拭ふか、此等の液で洗滌すべきである。膣は洗滌しない方がよろしい。病原菌を内陰部の上方に輸送するの恐がある。

(九) 乳房の處置 母乳は生兒に對する最良の榮養である。又授乳することは、産後二復舊機能を佳良ならしむるものであるから、褥婦は自ら授乳するがよい。

乳嘴は授乳前後必ず三%の硼酸水又は消毒せる微温湯で拭淨せねばならぬ。乳嘴の扁平なるものは、日々之を牽出し、若しくは乳汁吸引器を以て哺乳し易からしめなく



乳汁吸引器

てはならぬ。(盤濱醫學博士新撰産科學・佐久間醫學博士産婆學教科書)

離床後の注意 離床後も重い物を提舉し、又は強激な腹壓を爲し

或は長い間直立して居るやうなことは避けたがよい。屋外へ出るには生殖器の復舊作用が完全であるか否か、子宮の位置に異常なきか醫師の診察を受け、體力も相當恢復した後にすべきである。夏季ならば四週後、冬季ならば五週乃至六週後が安全である。また入浴は分娩後三週を経た後に行ふべきである。

産褥熱 褥婦は分娩の結果として一つの負傷者たるを免れざるものである。従つて創傷傳染病を惹き起し易いのである。産褥熱

は其の一つである。産褥熱の患者は驚くべき程の多數になつて居る。而してこれが爲め死亡するものも少くはない。

産褥熱は主として分娩時の消毒のよく行き届くと否とによるものである。此の點から考へても産婆や産科醫の選擇は大に注意すべきである。

産褥熱は連鎖状球菌、葡萄状球菌、大腸桿菌、デフテリア菌、淋菌、肺炎菌、腐敗菌等種々の微菌によつて起るものである。此等の微菌は、醫師、産婆等の手指の消毒の不完全又は分娩の際用ひた器械の消毒の不完全或は不潔なる衣服、器具等の媒介により、外陰部産

道子宮腔等の新らしい創面に侵入して此の病を起すのである。此の事を発見したのは西暦一八四七年にウインのゼンメルワイス氏である。

産褥熱とは、生殖器の復舊作用を障害するすべての熱をいふのである。發熱は分娩した日に始まることもあれば翌日から始まることもあり、時としては三日乃至七日を経て發熱することもある。三日又は七日にして起るものは悪性のものが多い。

熱は持続的に毎日あることもあり、間歇性に發熱することもある。發熱する時は、突然惡寒を感じ、戰慄を起し、體温は三十八度乃至四十一度にも達する。全身灼くが如く、顔面は眞赤になり、心身不安となり、渴を訴へ、食嗜缺乏倦怠甚だしく、不眠頭痛眩暈精神朦朧等の症状を呈する。生殖器に灼熱の感あり、下腹部は大きくなり、子宮に著しい壓痛がある。直に醫師の手當を受くべきである。

第七章 初生兒の取扱

第一節 初生兒の身體狀態

月満ちて生れたる初生兒の身體狀態は左の如し。

(一)身長 男兒は四九糎、女兒は四八糎あるを普通とし、其の平均四八・五糎なり。

(二)體重 男兒は三〇・七五瓦、女兒は二九五瓦、其の平均三〇・〇瓦なり。

(三)頭部 頭部の高さは身長約四分の一、頭圍男女平均三三・八糎あり。

(四)軀幹 長さ頭部の高さの約一・七倍、胸圍は身長二分の一よりも五乃至一〇糎長し。

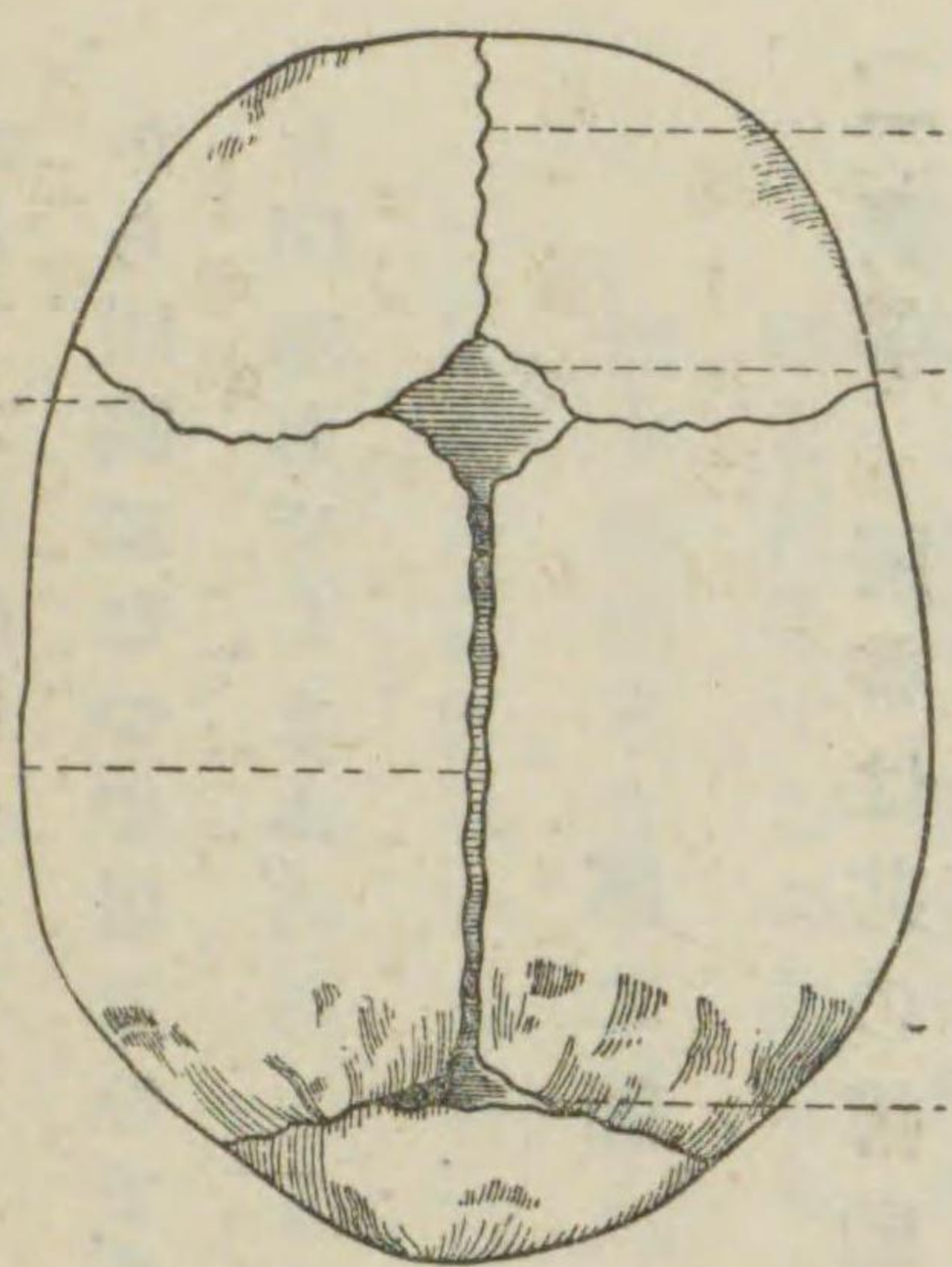
(五)四肢 上肢と下肢とは略同長にして、頭部の高さの約一・五倍あり。

(六)皮膚 軀幹四肢共に肥満し、皮膚は赤色を呈す。毳毛は殆んど消失し、僅に項部背部に存するのみ。四肢の爪は何れも硬く、指頭より長く突出す。皮膚の外氣に對する抵抗力は極めて弱し。

(七)骨 骨は軟かにして、頭蓋骨の如きは其の諸骨の縫合十分ならず、骨と骨との間に空隙を残せり。之を顛門(しんもん)といふ。

資料

顛門。頭の前の方に骨がなくて、そこをおさへると脈が觸れたり、又目に見ることも出来る場所が



冠状縫合 矢状縫合

ある。之を顛門一名をどり、ともいふ。これは未だ周囲の骨がよく發育して居ないから間隙になつて居るので、生後十五六ヶ月頃になれば周囲の骨が發育して、此の間隙を閉塞してしまふ。

第二節 初生兒の取扱

(一) 臍帶 臍帶は其の搏動の止むを待ち、消毒したる絹絲又は麻絲にて緊縛して之を切斷し、亞鉛華澱粉を撒布し、脱脂綿又はガーゼにて被ふべし。

臍帶は生後五日乃至十日にして脱落す。此の間腹部を摩擦すべからず。脱落后も亞鉛華澱粉を撒布しおくべし。創痕は十日乃至十四日にして收縮治癒す。

資料

臍帶切斷 臍帶を切斷處置する上に就て注意すべきことが三つある。

- (1) 消毒の嚴密なること。
- (2) 止血の完全なること。
- (3) 臍帶斷痕をして速に乾燥せしむること。

胎兒娩出數分後臍帶靜脈は先づ收縮し、次で動脈搏も亦觸れることができぬやうになつて後に切斷すべきである。即ち分娩後三分乃至五分若しくはそれ以上待たねばならぬ。蓋し臍帶搏動の停止を待つて結紮を施すと臍帶及び胎盤内の血液が生兒の血液に移行して、生兒の血液量を六〇瓦乃至一〇〇瓦増加することができからである。

臍帶切斷を行ふには、臍輪を距ること凡そ二三指横徑に於て結紮し、之より更に二三指横徑に於て第二結紮を施し、兩者の間に於て臍帶を切斷すべきである。

(1) 第一結紮 生兒側斷端の出血を防ぐため。呼吸活潑なるものに在りては、多くは其の虞なし。

(2) 第二結紮 胎盤側斷端の出血を止むるため。之を施さざれば、其の出血の爲め、褥瘡を汚染するのみならず、胎盤剝離を不良ならしむる虞がある。結紮糸は通常麻條木綿絹糸などを用ふ。臍帶は生後五日乃至七日頃になると乾いてとれて、あとは肉芽面になつて居る。此の肉芽面も二週間も経過すると癩痕ができて萎縮し、くぼむ。これが臍である。

臍帶の附着して居る間は、濕氣のないやうにし、清潔に保たねばならぬ。入浴の時には臍帶殘部の周圍をよく拭ひよく乾かし、ガーゼで包み、其の上に脱脂綿を置

き繻帯でくゝつて置くがよい。臍帯が落ちた後は、硼酸水で拭ひ、亞鉛華澱粉をふりかけ、脱脂綿をあて、繻帯をして置かねばならぬ。

初生兒。破傷風。破傷風菌が病原で、創傷性傳染の中猛烈なるものである。破傷風菌が創傷内に侵入し、毒素を産出し、其の毒素は血行に入り、神經中樞殊に脊髓を侵し、劇甚なる中毒症狀を起すものである。初生兒破傷風は、臍部の創傷から侵入する。臍帯脱落後一日乃至五日にして發し、哺乳時に咬筋の痙攣を發する。臍帯の處置に注意し、破傷風にかゝらぬやうにしなくてはならぬ。

(二)入浴 産湯は助産婦の仕事なり。目・口・耳・鼻等は特に注意して不潔物に觸れしめざるやう注意し、之に用ふる湯は別器に用意するを要す。以後毎日一回乃至二回温浴を施すべし。湯の温度は攝氏三十八度を標準とす。

入浴の際は湯を以て前頭部及び顔面を潤ほし、腦血管を弛緩せしめ、おくべし。入浴時間は十分間以内たるべく、浴後は直に全身を拭ひ、寒氣に觸れしめざるやう注意すべし。

入浴の時間は感冒の危険を避け、午前十一時頃より午後二時までの間をよしとす。夕方氣温の下降せる時には之を避くべし。

(1)初生兒の皮膚就中頭部・顔面には皮脂を生ずること多く、洗滌を怠る時は瘡癩を生ず。故に入浴の際は刺戟少なき石鹼にて十分洗滌すべし。若し皮脂を生じたる時はオレイン油の如きものにて柔げ置き、後石鹼にて洗ふべし。

(2)頸下・腋下・股間等たゞれは易きを以て入浴後丁寧に拭ひ、亞鉛華澱粉を撒布しおくべし。

(3)口腔を清潔にする爲め、入浴毎に之を拭ふものあれど、粘膜を毀損するの虞、それあれば注意すべし。

資料

産湯 臍帯を切斷した後、攝氏の三十八度前後の温湯で沐浴せしめ、浴槽内に於て、其の體表に附着して居る血液・粘膜炎・胎脂等を除去しなくてはならぬ。若し胎脂が多量で然も固く粘着して居るやうな場合には、先づオレイン油・卵黄若しくはワセリン等を塗り、然る後湯を以て淨洗するとよく落ちる。

胎兒が生れる時に、母體の産道で毒を受け、生後二三日にして膿漏眼といふ眼疾を起すことがある。眼は腫れ膿出で發熱し、遂に眼が潰れて盲目となることがある。點眼

藥(一%硝酸銀水の一小滴)によつて豫防しなくてはならぬ。(クレイデ氏豫防點眼法)。

入浴時の注意。入浴時には浴湯が外聽道に流入しないやうにしなくてはならぬ。

口や眼を拭ふには決して浴湯を用ふることなく、必ず別に備ふる所の清水を柔かな布片に浸し各別に之を行ふべきである。

(三)衣服 襦衣には體温の保護に適する軟かなるガーゼ・木綿織・フランネル等をよしとす。色は白地を選ぶべし。衣類はなるべく寛濶に仕立て、襦袢は縫目を裏返しとし、皺なきやうに着せ、後紐を前にて軽く結ぶべし。又衣服は餘り多く重ねべからず。手足及び身體全部を均一に温保するを理想とす。

資料

初生兒の衣服。初生兒の衣服は温暖柔軟清潔の三條件を備へて居ることが必要である。肌繻袴は白木綿の柔なものか、フランネルか、メリヤス等が最も好い。

涎掛は木綿の柔かなもので製したのが宜い。これは涎や乳で度々汚れるから乾かしたものと取換へなくてはならぬ。衣服は時季に應じて相當の保温力を有して居ることが大切である。肌着は皮膚を刺戟せぬものがよい。幼兒の皮膚は弱くて柔かいから毛織物は却てよくない。又有害の色素で染めたものも皮膚を刺戟する。汚れた

ものも皮膚を刺戟し、又空氣の流通も悪い。木綿や麻は肌着には絹よりもよい。衣服は常に乾いたものを用ふることが大切である。濕ると空氣の流通が悪くなり、臭くなり、且寒く感ずるものである。

衣服につきの注意

(1)衣服で皮膚を壓迫せぬこと。身體を衣服で緊縛すると運動を活潑にすることが出来ず、身體の發育が十分できぬ。呼吸や睡眠も妨げられる。故に帯や紐で固く身體をしめることは避けなくてはならぬ。又胸の上の方を固く縛ることは呼吸運動を害して肺の發育を妨げることなるから特に注意を要する。酷暑の時節には腹巻・腹掛・寝冷知らず等を用ふるがよい。但し冬の季節には頸部を眞綿毛等に包むことは避くべきである。

(2)衣服は常に清潔なるべきこと。衣服殊に肌着は洗濯して何時でも垢の附いて居らぬやうにすることが大切である。乳兒は發汗も多く、涎・大小便等で汚れることか多いから洗濯を怠つてはならぬ。

(3)肌着は白色のもの、肌着以外の衣服の色合は氣候に應じて適當なるものを選ぶこと。

(4)衣服の地質は適當なるものを選ぶべきこと。肌着には柔かな木綿がよい。絹は

軽くて柔であるが、汚れると瓦斯の交換が悪くなり、皮膚呼吸が妨げられ且つ保温の度が弱いから衛生上よくない。上着の地質強く且つ洗濯に適するものがよい華美に流れぬやうにしないでならぬ。

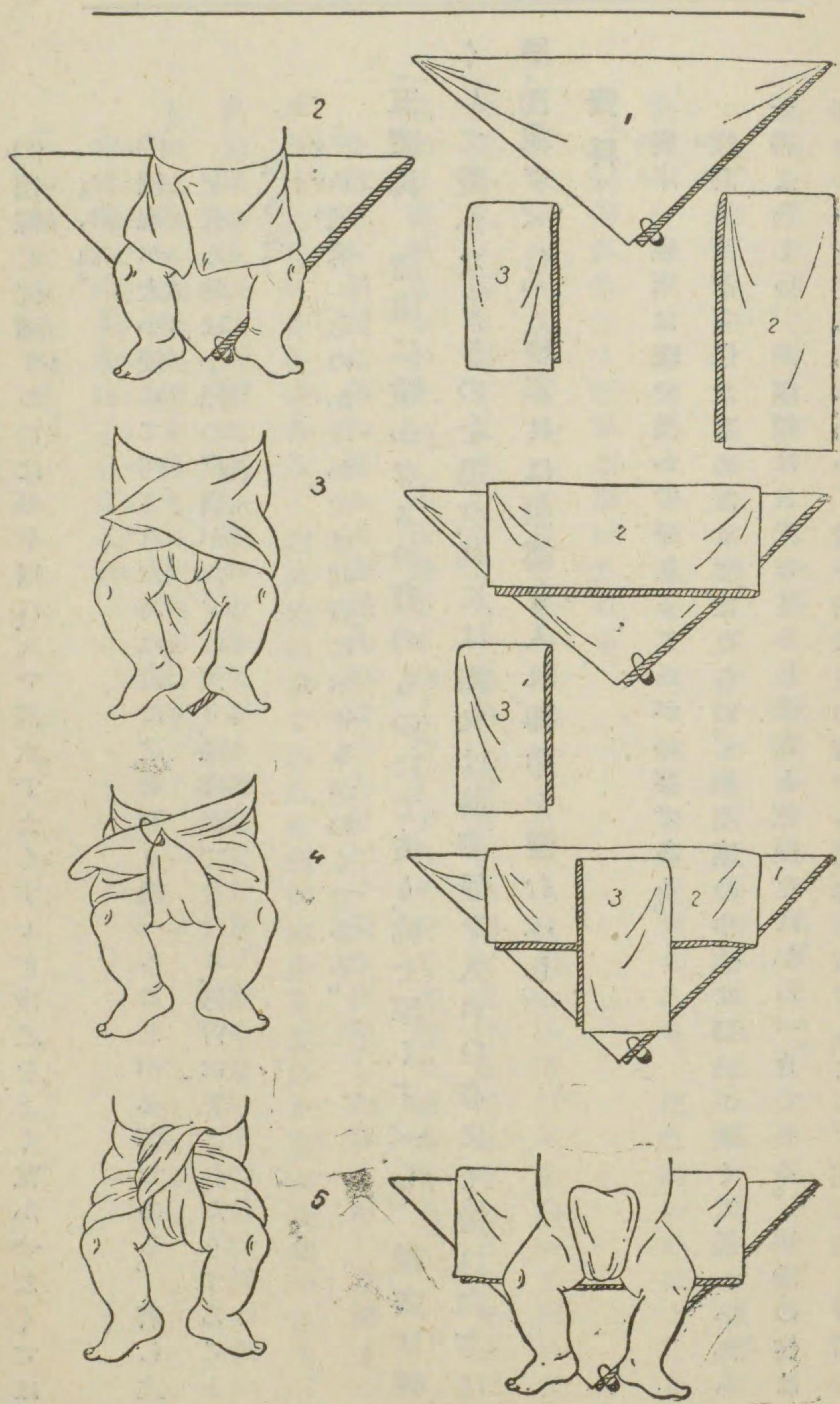
(5) 衣服の厚薄に注意すること。薄きに失して害を招くより厚きに過ぎて障碍を招く方が多い。但し薄着に失すると感胃にかゝるおそれがある。

(四) 襁褓 襁褓の材料は、内部は木綿、外部はフランネル等をよしとす。大小多くを調製し、常に取換へ濕りたるもの又は汚れたるものを用ふべからず。生後二三日間は母胎に在りし時腸に溜りたる排泄物即ち胎便を排泄す。母乳は自然の下劑となるなり。胎便排泄の間は軟かに揉みたる紙又は脱脂綿を襁褓の中に敷くべし。襁褓は下肢の運動に便にして緊束せざるやう注意すべし。三角襁褓を可とす。

資料

襁褓

(1) 襁褓は柔い木綿が最もよい。我が國では古い衣服等を解いて襁褓にする習慣があるがこれより餘りよいことではない。かゝる場合には煮沸して消毒して然る



後に用ふべきである。

(2) 襦袢を洗濯するには湯を用ひ、次で清水でよくすすぎ後之をよく乾かせなくてはならぬ。

(3) 襦袢が大小便にて汚された時は直に之を取り換へることが必要である。若し之を怠る時は小兒の皮膚がたゞれたり、濕疹ができたり、感冒に犯されたりすることがある。

三角襦袢 そのかけかたは前頁に示せるが如くである。

(五) 寢具 蒲團は暖かなる地質のものにて造り、綿を厚くすべし。被衾は軽くして暖かなるものを選び、枕には綿又は蕎麥殻を入れ、白布にて被ひ、白布は屢洗濯すべし。極寒には湯婆を入れ褥中を暖むべし。

資料

寢床 寢床は暖で柔かで平なることが必要である。

寢具 清潔を保たしめなくてはならぬ。掛蒲團の中味は羽毛が軽くて柔かいから一番よろしい。蒲團類は日光にさらし消毒と乾燥をはかるべきである。寒冷の候は湯タンポを用ふるがよい。置き所は足の方でも體側の方でもよい。但し餘り身體の近くに湯タンポをおいておくと熱きに失したり、又湯タンポの栓が抜けて熱い湯で火

傷させたりすることがあるから注意しなくてはならぬ。夏あまり厚い蒲團を着せてこどもに汗をかかせるやうなことがあると其の爲め汗疹が出来たりする。寢床が寒温其の度を過ぐるときはこれが爲め安眠することが出来ない。

枕は柔なるがよく堅いのは避くべきである。枕の内容は羽毛か綿がよい。夏期に乳兒が汗を出す場合には馬の毛を入れて造るのが便利である。枕は高いのはよくない。頸部が曲つて呼吸が妨げられる。

寢床は時々方向を換へて設けるのが宜い。こどもは明るい方のみを向いて頭の骨が變形し外觀が悪くなるのみならず、腦髓の發育が障碍を受けるに至るからである。寢卷は簡單なるがよい。澤山着せて固く帯をするやうでは却て害がある。

洗濯して清潔に保つ點から蒲團枕等は白布を以て被ひ、汚染した時は直に洗濯するやうにしたいものである。西洋建の室であれば西洋寢床を用ひた方が便利である。乳兒用のものは周圍に高い柵のあるものが適當である。柵のないもの又は柵の低いものは往々乳兒が滑り落ちる缺點がある。

母と乳兒の同衾はよいことか。

(一) 利益となる場合。

(1) 母體にて乳兒を温め得ること。

(2) 夜間母が乳を授ける際起きても乳児を連れて来て又連れて行く面倒が要らぬこと。

(二) 弊害となる場合。

- (1) 母の熟睡中こどもを寢床の外に押し出すことがある。
- (2) 乳房で乳児を壓迫し、往々窒息死をさせることがある。
- (3) 乳児が眼をさますと勝手に乳を呑むから胃が膨満し、消化不良を起すことがある。
- (4) 母親の呼吸する不潔の空気を吸ふ。(三田谷醫學博士育兒の心得による)

(六) 初毛 初毛は軟かなる頭部を保護するものなるを以て剃らざるをよしとす。頭部はよく洗ひ清潔ならしむべし。

(七) 抱き方 初生兒の骨は軟弱にして歪み易きものなれば、抱く時は脊骨を平かに支ふべし。内臓を壓迫し、血行を妨ぐるが如き抱き方を爲すべからず。

資料

抱き方 初生兒の骨は軟弱で歪み易いから抱き方には注意を要する。左又は右のみに偏すると身體がゆがむおそれがある。頸骨が固定せざる時に、手で頭部を支へずして抱くと頸がゆがむ。抱き方が悪いと脊骨が曲る。

兒頭を左方に向けて抱く時は、左腕の上に兒頭を載せ、右手を以て臀部と下肢を支へ

るやうにするのがよい。兒頭を右に向けて抱く時は此の反對にすればよいのである。まだ小さいときには水平に抱き、脊骨の固まつた後でないときと垂直に抱いてはならぬ。又頭の垂れるやうな抱き方は最もよくないものである。

小兒を背部に負ひ、冬などはその上を着物や蒲團を巻き紐で堅くしぼることがある。こはれ小兒の自由を妨げ、胸部、腹部を壓し、呼吸困難を來し、時に吐乳することもあり脚部が強くしめつけられて血液の循環十分ならざる等の缺陷がある。故に長時間負ふて居ることはよくない。時々おろして自由の運動を爲さしめなくてはならぬ。

第八章 嬰兒の養育

第一節 哺乳

嬰兒の食物中母乳は天授の食物なり。母乳は無菌にして之に依り養育せられたる者は傳染病に對する抵抗力強く、下痢を起すことも少し。死亡率の如きも人工哺乳に比すれば遙に少なし。

母乳は水分、蛋白質、脂肪、含水炭素、無機鹽類、ビタミン等より成り、嬰兒の成長

に最も適切なる栄養力を有す。母乳胃中に入り胃液にあふ時は微小粒に凝固するを以て消化極めて容易なり。

要するに母乳は完全なる小児の食物にして如何に進歩せる製造法による代用品も之に及ばざること遠しといふべし。

母乳の成分の分量は一定の比率を保つを要するも母の衛生状態及び食物の如何により其の比率に多少の變動を來し、嬰兒の爲めに悪しき影響を及ぼすことあり。かゝる時には左の如き注意を要す。

- (1) 蛋白質を増すには授乳の度数を増し、含水炭素及び蛋白質の食物を多く攝取し、運動を減ずべし。蛋白質を減ずるには之と反對にすべし。
- (2) 脂肪を増すには含水炭素及び蛋白質の食物を増し、脂肪を減ずるには之と反對にすべし。

- (3) 水分を増し、又は乳汁の分量を増すには液體の食物を多く攝取すべし。水分を減じ、乳汁の分量を減ずるには液體の食物を減じ、便通をよくすべし。

資料

自然哺育	母乳哺育……母親の乳によるもの
人工哺育	牛乳山羊乳驢馬乳煉乳粉末乳植物性乳等によるもの
混合哺育	……自然哺育と人工哺育とを併用するもの

乳汁は白色不透明で甘味を有し、乳球と水液とより成る。弱アルカリ性稀には中性の反應を呈し、比重は一〇二六乃至一〇三六の間に在り、化學的成分は固形分二一%水分八八・九%で、固形分は左の如くである。

蛋白	二〇(%)	一七(%)	〇・九—一〇(%)
脂肪	三・五	三・三	三・五—四・〇
乳糖	四・八	六・〇	六・七—七・〇
鹽類	〇・二七	〇・一九	〇・一九

古川丸山二氏が我が國の婦人の乳汁に就て調査したものは左の如くである。

水分	八七七・二七	含窒素物(蛋白)	一五三〇
脂肪	二九七四	乳糖	七六一三
鹽類	〇・一五六		

母乳の分量の多寡は嬰兒の營養上重要な問題なり。母の多くは嬰兒の要求に應ずるに足る乳汁を分泌し、其の成分の如きも嬰兒の成長に従ひ濃厚となり行くものなり。

母乳を以て嬰兒を哺育することは、母子の愛情を一層親密にして彼我の幸福を増すものなり。若し母の體質が薄弱なるか、結核性病毒を有する時は、母子の健康を害するを以て授乳を禁ずべし。殊に母親に脚氣病ある時は、嬰兒に影響を及ぼし、吐乳下痢を起し、青便を通じ、遂に健康を害するを以て、母乳によるか、又は人工哺乳によるを要す。

資料

母乳哺育の長所 母乳を以て小兒を哺育することは、種々の長所を有するものである。

(1) 乳兒の營養には母乳にまさるものなし。母乳は理想的の食物にして小兒の發育に伴ひ、濃度を増し、乳兒の消化力に適合する營養を供給すること。

(2) 母體の抗毒素が兒體に移行し、母乳によりて養はるゝ小兒は疾病に對して抵抗力強きこと。

(3) 母體の血行食欲消化力等を盛ならしめ、且つ子宮の復舊作用を速かならしむること。

(4) 母子の愛情を一層深からしむること。
それであるから、母親は、事情の許す限り、自己の乳を以て哺育することにとめなくてはならぬ。

母乳は乳兒に何故適當なるか。

(1) 母乳は自然の營養 乳兒の生活發育に最も理想的のものは母乳である。母乳は子を生みし母の持てる天與の特權にして、天上天下これに匹敵する最善の乳兒營養品はないのである。牛の子は牛乳が最適、馬の子は馬乳が最もよい。人の子は人乳に優るものを持たぬのである。

(2) 母乳は乳兒の理想的營養 母乳で育つ乳兒と人工營養とで育つ乳兒の死亡率を見るに、母乳で育てられる乳兒よりも人工營養の乳兒が數層倍多く死ぬる事實を見ること出来る。

(3) 母乳は人工的に造り得られぬ 學問の進むにつれて、化學の進歩も著しいが、母乳と同様の成分のものを人工的に造ることはまだ出来ない。母乳は一定の溫度を持つて居る。代用品を何時でも此の溫度に置くことは困難である。

(4) 吸乳はこどもの筋肉の發達をさせる。乳を呑むには一定の努力が要る。吸乳の際にはこれに關係のある筋肉は收縮して大に働くのである。

(三田谷醫學博士育兒の心得)

母の授乳は母にも利益。

(1) 内部生殖器の元に復することが早い。母乳をこどもに與へずに置くと内部生殖器が元の形に復するまでに多數の日子がかかる。母乳を與へて居ると子宮は早く確實になり、位置の異常が起らぬ。子宮の位置が變ると病氣になり易い。

(2) 乳房は漸次萎縮す。母乳を與へて居て數個月後に漸次離乳すると乳房は漸進的に萎縮するが、母乳を與へずに居ると妊娠中に膨大した乳房は俄に萎縮せねばならぬこととなり、後年に及び腫痛にかゝり易くなるとまで唱へられる程である。

(3) 次に生れる子供との間に一定の間隔が出来る。母乳を與へないと次の年に又こどもを生まねばならぬやうになることがある。尤も母乳で哺育して居る間に妊娠することがあるけれども割合に少い。

(4) 母の食欲が増し元氣になる。母が自分で子供に乳を與へると食欲が増し、又元氣になるのを覚えるものである。(三田谷醫學博士育兒の心得)

乳の分泌に關する諸種の關係

(1) 乳汁の性質及び分泌の多少は母體の體質並に榮養に關すること大なり。

(2) 分泌の多少は遺傳を有すること稀ならず。

(3) 乳房を冷却すれば分泌を減じ、マツサージを加ふれば之を増加す。

(4) 兩側乳腺は其の分泌力及び乳汁の性質を異にすること多し。又一回の授乳に於て初に分泌するものは脂肪に乏しきを常とす。

(5) 年齢十五歳乃至二十歳の婦人の乳汁は蛋白質脂肪の含量多く乳糖少なし。二十歳乃至三十歳の婦人に在りては蛋白質少なく乳糖量多し。

(6) 初産婦の乳汁は經産婦に於けるよりも水分に富み、従つてカゼイン脂肪乳糖の含量少し。

(7) 母體の疾病は大に乳汁の性質を變ずるものにして、劇甚なる下痢及び持久性高熱は其の分泌量を減じ、殊に脚氣は乳兒を害すること大なり。

(8) 精神感動により乳汁の分泌量及び其の性質に變化を來すべしとの説多きも未だ確證を得ず。

(9) 月經の來潮により乳汁の性質を變ずるや否やは未だ定説なし。多數の學者は乳兒に消化不良を起さしめ、又は下痢を起さしむるものなりとせり。

授乳を禁止すべき場合

母親の高度の衰弱をなせるとき、又は高度の貧血あるとき。分娩前又は分娩中の大出血ありたるとき。結核症又は結核疑症骨軟化症、痛腫脚氣腎臟病、心臓病、糖尿病遺傳性神經精神病(癲癇)高度のヒステリー(舞蹈病等)あるもの、授乳は禁止しなければならぬ。其の他母親が急性熱性病なる際には禁止すべきものである。これに反し一時的の發熱あるものは授乳を中止する必要がない。若し生來乳汁量の不足で、如何にするも増量せないものであれば、哺乳兒の月數や及び消化器の健康状態で、醫師の處方に従ひ、牛乳を代用してもよろしい。されども授乳婦は其の排乳の多少に拘はらず、忍耐に忍耐を重ねて授乳しなくてはならぬ。(原田醫學博士婦人衛生)

乳母は母親に代り嬰兒を養育すべきものなるが故に深き注意を以て之を選択すべし。

(1) 年齢は二十歳以上三十歳以下にして嬰兒の母の年齢と大差なく又出産期も略同一なるをよしとす。

(2) 體質は強壯にして癲癇・微毒・結核性の病氣なく其の生兒の健康に育ちたるものならざるべからず。

(3) 精神病なく、性質は溫和にして快活清潔を好み、言語舉動等卑しからず品行方正なるものたるべし。

(4) 乳汁分泌多量にして、乳房及び乳首の形宜しきものたるべく、乳汁量の多少良否は醫師の診断によりて定むべし。

資料

乳母の選定

(一) 身體 當人の體格榮養共に佳良にして齒牙の完備して居ること。殊に其の兩親兄弟共に健全なるを要する。左の如きものは絶対に避くべきである。

(1) 結核病精神病の遺傳あるもの。

(2) 現に微毒・結核性疾患・腎臟病・心臓病・脚氣症・癲癇・精神病・惡性腫瘍・其の他不良なる眼疾にかゝれるもの。

但し寄生虫性皮膚病廣汎なる濕疹・乳房に於ける局所性濕疹・乳嘴に於ける潰瘍・裂創等を有するものは、其の治癒を待つて後ならば差支はない。身體検査は醫師に託すべきである。

(二) 性質 溫順にして素朴清潔を好み、小兒を好むものがよい。此の點に於ては都會の婦人よりも田舎の婦人の方が乳母としてはまさつて居る。

(三) 年齢 二十歳乃至三十歳の間のものがよろしい。

(四)分娩回数 初産婦よりも經産婦の方がよろしい。經産婦は既に小兒保育の經驗があるのと其の保育した小兒の營養狀態疾病の有無等を檢することができ、且つ乳汁分泌の持續等をも知るに便であるからである。二回乃至三回の經産婦が最もよろしい。

(五)分娩の時期 乳母は乳兒の實母と殆んど同一時期に分娩したものがよい。三週乃至五週以前に分娩したものでも敢て差支はないが、左の如きものは見合せたがよい。

(1)分娩後未だ二週間を経過せず、生殖器の復舊不十分なるもの。

(2)分娩後八週以上を経過せるもの。

後の場合に於ては、其の乳汁に於けるカゼインの含量多きに過ぎ、初生兒をして消化不良に陥らしむるおそれがある。

(六)乳汁の分泌及び乳房 乳房の發育佳良にして分泌豊富なるもの。乳房殊に乳嘴の形狀大さ共に授乳に適し、輕壓により乳汁が線狀を爲して射出するやうなのがよろしい。

乳汁の性質分泌量等は醫師に託して検査をしてもらふがよい。

(七)乳汁の良否 乳汁の成分は生理的に種々の變動を來すものであるから僅に一回の検査で直に其の良否を決することはできぬけれども、

(1)甚だしく白色なるもの……………脂肪含量過多。

(2)帶青色なるもの……………稀薄。

の證である。試に指爪上に乳汁を滴下して、指を軽く振盪するも其の點下せる時の原形を失はないものは概ね良好であり、忽ち流下するものは稀薄なるものである。

顯微鏡で檢して乳球の數多く大さの甚だしく不同ならざるものは良質である。分娩後十日乃至十五日を経過した乳汁でも初乳體の多く存するものは、乳房の分泌機能の既に衰退に傾けるものである。(井上秀子氏分娩と育児)

哺乳上注意すべきこと左の如し。

(1)哺乳は安靜なる場所に於てすべし。哺乳中に泣かせ、身體を動搖せしむる等のことあるべからず。

(2)哺乳前には母の乳房を硼酸水を以て濕したるガーゼにて拭ふべし。若し黴菌附着し居る時は病毒の原因となるべし。哺乳後は一口清水を與へ小兒の口に乳汁の残らぬやうにすべし。

(3)哺乳の時間は十分間乃至十五分間を以て適當とす。哺乳の回数は約四時間の間隔を置き胃腸の作用を休止せしむるを可とす。生後五ヶ月までは

六回、五ヶ月以上は五回に減じ、夜の十時以後は哺乳を休止し、煮沸したる湯の微温となれるもの少量を與ふべし。

(4) 哺乳の際は母子共に眠らぬやう注意すべし。嬰兒眠れば乳房を離すべし。母は必ず眠るべからず。

(5) 哺乳は規律正しかるべし。時を守らず、分量も不規則なる時は必ず消化器を害するものなり。

資料

乳ののませ方 産後六時間か八時間経過したる時にのませる。初乳でうすいが二三日すると濃くなる。乳が十分出なくとも他の物で補ふ必要はない。

乳嘴は授乳前清潔な水か硼酸水で拭ふこと。産後一週間位は横臥したまゝのませ後に坐してのませる。

一回の授乳には一方の乳房だけをのませる。若し左右をのませる時は、初め一方をのませ、次に他に及ぶべきである。

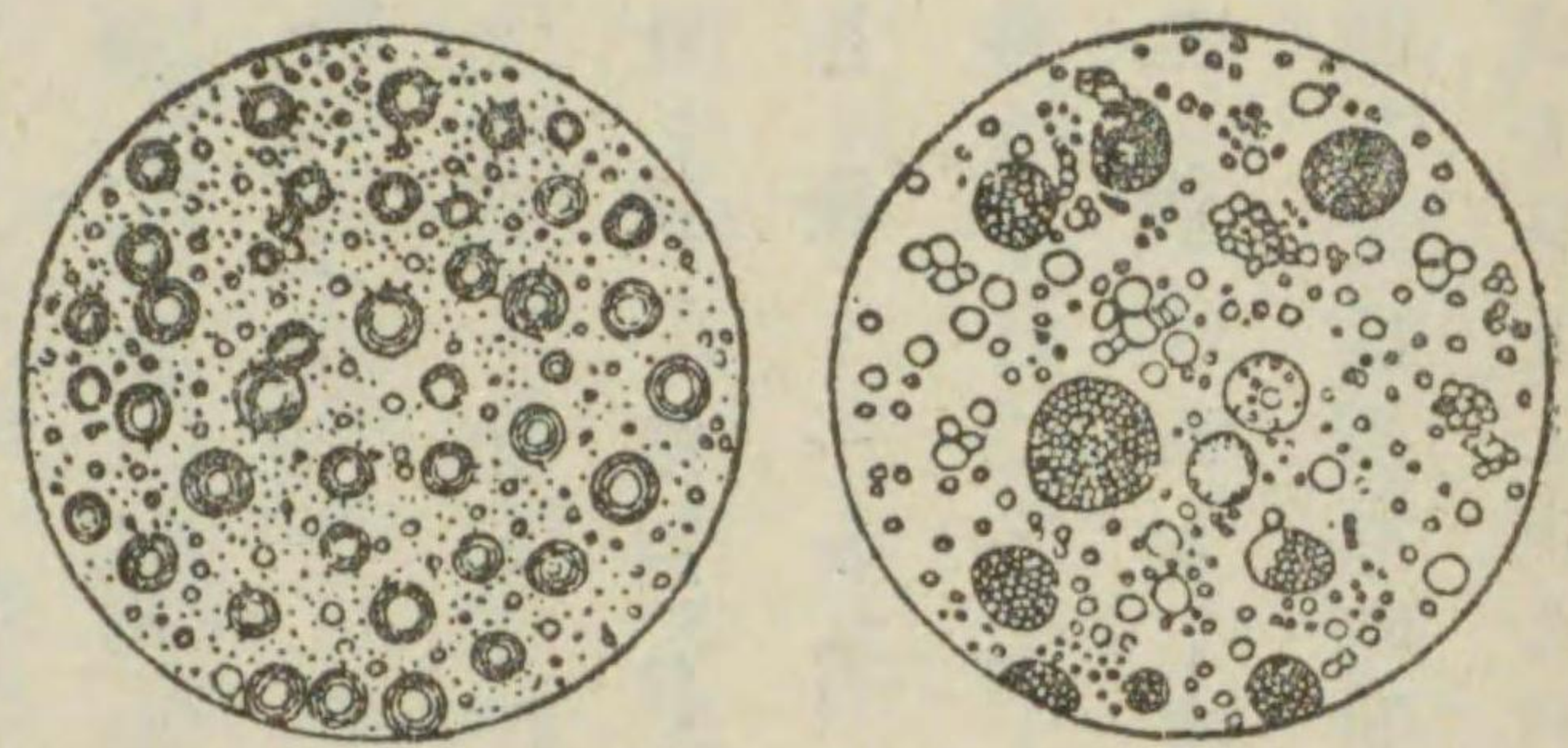
授乳の時期と時間

分娩後の疲労が恢復し、乳腺が少しく腫張するやうになると、乳汁の分泌量が僅少で

あつても授乳を開始するがよい。生兒も睡眠から覺めて食を求めるものである。此の時期は分娩後六時間乃至八時間である。

我が國の習俗で、初乳を與ふると下痢するといつて之を避けるものがあるが、これは間違つて居る。此の作用あるが爲めに却つて授乳し胎糞をよく排泄せしめなくてはならぬ。マクリなどを與へることは宜しくない。胃腸を害するおそれがある。

初めの三日間は乳汁の分泌量は少ないけれども、生兒も亦食を欲することは少ない。乳母又は人工哺育の開



初乳と普通乳

始は第四日からよく。

乳が出ないといつて直に他の栄養物で母乳を補ひ、又は全然人工栄養のみによるやうなことをすると、泌乳機能は減退し、小兒の發育は阻害せられる。

授乳はなるべく規則正しく一定の間隔をおいてしなくてはならぬ。人乳が胃腸内で全く消化せられてしまふには二時間を要する。それであるから三時間の間隔で授乳すると。

(1) 二時間……………消化に要す。

(2) 一時間……………休息。

かくの如き結果となつて好都合である。若し絶えず哺乳し、間断なく胃腸を働かせると、それが爲めに胃腸の障害を起すことがある。

夏季口渴を訴へて啼泣する時は、番茶又は微温湯を與へるがよい。かゝる時に時間厳守といつて湯水も與へずして時間を待つなどは、氣轉のきかぬしわざである。

哺乳と哺乳との間隔は、從來二時間乃至三時間が適當であるといふことになつて居たが、最近に於ては、四時間の間隔をおき、胃腸の作用を休止せしむるがよいといふ説を唱へる人がある。

生後 第一、二日間	二回乃至四回
生後 第三日以後	七回乃至八回
生後 一ヶ月以後	六回乃至七回
生後 二ヶ月以後	六回
生後 五ヶ月以後	五回

夜間などは、授乳時間が來ても、睡眠して居る時は與へないでもよい。夜の十時以後は授乳を休止し、其の代りに煮沸した湯の微温となれるものを少量與ふればそれでよ

ゝ。而して漸次夜中の哺乳を廢する習慣をつけるやうにすべきである。

一。回。の。授。乳。時。間。 一回の授乳時間は分泌量の多少、乳兒の強弱、授乳法の巧拙等によつてちがふけれども、乳汁の分泌が豊富であり、嬰兒が健康で授乳中に睡眠に陥らぬならば、概ね十分間乃至十五分間でよろしい。満腹すると自ら乳頭を捨て、又捨てなくとも之を放たしむるに、(一)敢て叫號し、(二)四肢を動かし、又は(三)哺乳前の如く指頭を吸ひ頭を左右にふることもなく、運動緩慢となるものである。或る學者の調査する所によれば、吸乳當初の五分間に於ては、母乳全體の六割出で、其の次の五分間には三割出で、最後の五分間には残りの一割が出るものであるとせられて居る。之によつて之を觀れば、餘り長く乳嘴をくはへさせておく必要はないのである。

授乳上の注意 乳の出方は、母親の體質、年齢、境遇等によつて異なるものであるが、母親の健康がすぐれぬとか、運動が不十分であるとか、過激な勞働とか、精神的感動とかの原因によつて、分泌が減ずるものであるから、常に健康を保ち、飲食物を十分に攝取し、適當なる運動を爲し、精神を平和安靜に保ち、睡眠を十分にするやうにとめなくてはならぬ。又授乳期間に妊娠した時は、早く授乳をやめなくては、母體のみならず、乳兒にも害が及ぶものである。

(1) 哺乳は周圍に小兒を脅かすやうな何物もない所で、靜に與へなくてはならぬ。哺

乳中に之を妨げ、泣かせ、又は身體を動揺せしむる等のことは避けねばならぬ。安心して十分哺乳し得るやうにしむけることが肝要である。哺乳前には母は乳房を硼酸水で濕したガーゼで拭ふがよい。哺乳後は一口清水を與へて、小兒の口に乳汁が残らぬやうにしておかねばならぬ。

(2) 哺乳の時間はなるべく正確に守るがよい。さうでないと、小兒の消化器官を破壊し、又自制力を失はしむることになる。但し嬰兒の状態を見て決定せず器械的に時間時間と其のこのみを氣にして一回の哺乳量のことを忘れて居ると榮養不良に陥らしむるやうなこともある。それで此の點は餘程活かして考へなくてはならぬ。

夜の十時以後は授乳を休止し、微温湯を代用するがよい。

(3) 哺乳の際は母子共に眠らぬやうに注意しなくてはならぬ。哺乳の十分でない時に乳兒が眠を催したならば軽く其の身體を動かし、又は頬のあたりを軽くたゞいで哺乳を催すべきである。小兒が十分哺乳して眠つたならば、乳房を離して差支ない。母は眠らぬやうにしないと危険が伴ふ。母が横臥して授乳すると、乳房で嬰兒の鼻を壓し、窒息死に至らしむることがある。

(4) 授乳に際し乳兒が哺乳に努めず、嬉戯して哺乳の時間を徒に遷延せしむる習慣は

よろしくない。怠惰性の基因を爲すものであるから注意しなくてはならぬ。

(5) 哺乳から哺乳迄の時間には、煮沸して冷ました微温湯を用ふるがよい。初めは清潔なるスポイトで口にさしてやり、少しく長じては匙で注いでやり、後には茶碗でのませるがよい。六ヶ月にもなつたならば、蜜柑の液汁に無菌の清水を半分混ぜて茶匙に一杯づつ毎日與へるやうにしたがよい。秘結した時は、茶匙三四杯も與へると通じがよくなる。但し、蜜柑汁を與へて一時間以内に哺乳させると、蜜柑汁の酸が胃中に残存して居て乳が之にあたつて凝固するから注意しなくてはならぬ。

(6) 六ヶ月頃の生齒時期にありては、齦のむづかゆさを覺えて物を嚙むものである。此の時期には、スープにつかつた鶏の大腿部の骨を二寸位にきり、之を十分洗つて肉のかけの附着して居ないやうにし、スベ〜の骨ばかりのものを與へ手に握らせておくと小兒はそれを口に入れて頻りに齦で嚙み合せる。これは齦を丈夫にし、生齒を早め、齒質を良好にするものであるから試みるがよい。

(7) 哺乳後乳兒を安臥せしめたるにもかゝらず、乳汁を吐出することがある。これは哺乳の過多、早飲み等によるか、又は便意の來るありて、腹壓を加ふるによるものである。哺乳過多による吐乳は、普通の嘔吐と異り、嘔吐運動をとまはないから

直に鑑定がつく。乳児は吐乳しても乳汁の喉頭内に流入しないやうに側臥位をとらせておくが安全である。

(8) 乳児が泣くと直に護謨製乳頭を啣ませることは、口内の不潔を來し易く、且つ悪習慣に導くものであるから之を禁止しなくてはならぬ。

すべて小児は哺乳後には安眠し、哺乳時になると號泣し、又は身體の不安状態を以て之を告ぐるものである。若し哺乳時間以外に、かくの如き状態を呈するならば、それは兩便排泄の要求でなかつたならば、身體に異状のある徴である。(井上秀子氏分娩と育児)

哺乳の時間 哺乳の方法は、今日では割合に誰しも一通り知つて居るやうですが、大體を申しますと、第一に、哺乳は時間をきめて與へることが必要です。殊に新生児で、お乳の少い時には、規則立つてやれまのでどうしても亂雑になりがちですが、この場合に於ても、やはりきちんとして規則立て、與へるようになければなりません。そして小さい中に、きちんと規則正しく與へる習慣をつけることが子供の健康上からいつても最も必要であります。哺乳が不規則でありますと、消化がわるく、従つて子供の保健にもよくないことは、申すまでもありません。

それで哺乳の時間をどうきめるかといひますと、新生児は三時間毎に一日六回乃至七回與へるが宜しいのです。これは新生児の哺乳の分量を計つて見て、これだけを斯ういふ方法で與へれば、榮養に丁度よろしいと證明された結果きめた回数です。それ故この方法で哺乳すれば、丈夫な子供なら立派に育つて行く筈です。

次に子供が生後一ヶ月の間は、三時間毎に六回乃至七回與へ、二ヶ月に入りましたならば、時間を三十分延ばして三時間半毎に一日に六回與へ、三週間たつたら又々三十分延ばして四時間毎とし、回数も一日五回とするのです。そして夜は原則として飲ませぬ方が宜しい。これは子供が睡眠すれば、丈夫に育つのは勿論母親に取つても、夜哺乳などに心を煩はさず、十分に熟睡すれば翌日お乳の分泌が良くなり、母子ともに利益があります。

授乳の時間は、大體左の如くであります。

第一三時間毎、一日六回(二三ヶ月まで)の場合

(第一回)	(第二回)	(第三回)	(第四回)	(第五回)	(第六回)
甲 午前六時	九時	十二時	午後三時	六時	九時
乙 午前七時	十時	午後一時	四時	七時	十時

夜間は授乳せず

第二、四時間毎、一日五回の場合

- (第一回)
- (第二回)
- (第三回)
- (第四回)
- (第五回)

甲	午前六時	十時	午後二時	六時	十時
乙	午前七時	十一時	午後三時	七時	十一時

夜間は授乳せず

こゝで一寸注意を要するのは、哺乳の時間をきめることに、餘りに拘泥してはならぬことです。三時間おきにお乳を與へるといつても、その時子供が能く寝てゐようが何うしようが構はず、時間が来たから飲ませねばならぬといふ風に、無理に寝てゐる子供を起してまでも與へる必要はないのです。又まだ時間には十五分位前であるのにも、う子供は目をさまして泣くことがあります。それをまだ四時間にならぬから與へられぬといつて、時間の來るまで構はず泣かして置く必要もないのです。三時間四時間といふのは、大體のきめで、之を餘りに几帳面に考へて、五分十分も疎かにせず、嚴重に守る必要ありません。子供の睡眠の都合で少々位の時間の伸縮を行つてよいのです。時間を嚴格に守るよりも、寧ろ回数の方を嚴守することが大事です。

(太田醫學博士育兒の實際)

授乳の方法 子供にお乳を與へる時にはいろ／＼の注意がいらいます。先づ第一に子供の口に乳首をふくませる前にお乳を能く拭かなくてはなりません。併しこれも餘りに重大に考へて、アルコールなどで哺乳の度毎に拭いたりしますと、乳首の皮膚の

脂肪が拭き取られて、皮膚が組織になり龜裂を生じます。そうなると痛みますし、その龜裂から微菌が入つて膿むこともありますから、無暗にアルコールなどで拭かずに授乳の度に煮沸したお乳にガーゼか脱脂綿をひたして、お乳を軽く拭く程度に止めるのが宜しいのです。

又授乳する母親は毎日清潔な肌襦袢に替へねばなりません。次にお乳を飲ませる時には、乳嘴だけでなく乳暈の部分、即ち乳嘴のまはりに月の暈の様になつてゐる黒く着色してゐる部分までも、子供の口の中に入れて吸はせるようにすべきです。それから寝かして飲ませる時でも、また抱いて飲ませる場合でも、乳房が大きいと子供の鼻が塞がつて、呼吸苦しくて飲めないことがあります。これは子供が小さい時ほど窒息させる危険がありますから、注意を要します。能く寝て居つて飲ませてゐる中、母親がつい眠つてしまつて、子供を窒息させたなどいふ例を聞きます。

お乳は左右を互ひちがひに飲ませ、一方を一度に完全に飲みほさせるのが理想的です。併し一方だけで足りない場合には、片一方の方で補はねばなりません。そして次の哺乳時には、その飲み残した方から飲ませるので、これは母のお乳も十分に分泌し、又子供の哺乳量も普通の場合ですが、次にお乳の分泌は豊富であるが、子供が弱くて哺乳量が少い場合には、一方だけでも飲み切れずに残すことがあります。かういふ場

合にはその飲み残した方のお乳は機械でしぼつて乳腺中にたまつてゐる乳汁を出してしまはねばなりません。これをそのままにして置きますと、漸次分泌の機能をわなくし、お乳が思ふようにならなくなります。(同上)

第二節 人工哺乳

嬰兒の胃は出生當時は極めて薄弱なるも、日を経るに従ひ、胃壁強くなり、胃液の分泌腺も發達し、ペプシン鹽酸の分泌も漸次進み、六ヶ月後に於ては唾液も分泌して澱粉を糖化するに至る。故に生後直に人工哺乳によるは危険なるも、五六ヶ月を経過すれば之によるも障害あることなし。

(一)牛乳の成分 牛乳は人乳に代るべき唯一の栄養品にして、其の成分は左の如し。

種類	成分					不明の含窒素物	ビタミン
	蛋白質	脂肪	糖分	無機鹽類			
牛乳	三・三	三・六	四・五	〇・七	〇・三	A B C	
人乳	〇・九	三・五	六・八	〇・二	〇・六	A B C	

更に蛋白質を分析すれば左の如し。

アルブミン 〇・二乃至〇・三
 カゼイン (乳牛) 二・七乃至三・〇 (乳母) 〇・六

かくの如く牛乳は母乳に比し、多量に蛋白質及び無機鹽類を含有し、糖分は少量なり。而して其の蛋白質はアルブミン少なくカゼイン多し。故に消化は母乳に比して困難なり。人工栄養を用ふる場合にはなるべく母乳に近くして用ふべし。

資料

人乳と其の他の乳汁

	(蛋白質)	(脂肪)	(糖)	(鹽類)
人乳	〇・九〇%	三・五二%	六・七五%	〇・一九七
牛乳	三・〇〇	三・五五	四・五一	〇・七〇〇
山羊乳	二・八〇	三・四〇	三・八〇	〇・九五〇
馬乳	一・九〇	一・〇〇	六・三三	〇・四九〇
驢馬乳	一・六三	〇・九三	五・六〇	〇・三六〇

母乳と牛乳の比較

(母乳)

(1) 胃中に細かく凝固するより消化し易し。消化時間二時間。

(2) 成分は自然に育児に適す。カゼインの量牛乳より少し。乳糖は牛乳よりも多し。灰分含量は牛乳の六分の一。

(3) 母乳には傳染病に對する免疫物質或は抗毒素を含むを以て之によりて養はれたるものは傳染病に罹り難し。

(4) 母乳中には微菌存在せず、何時にても飲み加減の溫度を有するを以て胃腸を害することなし。

(5) 稀釋する必要なし。飲用するに従ひ營養となる。

(牛乳)

(1) 牛乳の乾酪素は胃液により凝固すること緻密にして大片塊を爲すより消化し難し。消化時間三時間。

(2) 成分は牛の仔を養ふに適し、人の兒には不適當なり。

(3) 種々の病毒に對する抵抗力弱く病に罹り易し。

(4) 牛乳中には乳菌存在し、溫度の調節とれず、胃腸を害し易し。

(5) 消化悪しきにより年齢に應じて稀釋するを要す。營養分乳兒の發育に適應せず、殊に鉄成分に缺くる恐あり。

(6) 母乳にて養はるゝ乳兒は概ね壯なり。

(6) 牛乳にて養はるゝ乳兒は概ね弱く、死亡率高し。

牛乳の鑑別

(1) 牛乳は白色濃厚なるがよい。色淡く赤味青味などあればそれはよくない。

(2) 牛乳には特有の香がある。若し嫌な臭氣があるならばそれは腐つて居るのである。

(3) 牛乳は腐敗酸酵によつて固まる。豆腐様の凝固物あるは腐敗して居る徴である。

(4) 牛乳の一滴を硝子の上に落せば半球狀を呈する。流れ散るものはよろしくない。

(5) コップに水を入れ、其の中に牛乳の一二滴を落とすと牛乳は器底に向つて沈降する。若し水面に散亂するならばそれは不良のものである。

(9) 酸性の強いものはよろしくない。

(7) 牛乳に水を加へて薄めたものは比重計を以てはかわばすぐわかる。牛乳の比重は一〇三〇乃至一〇三五であるからこれより軽いものは水を加へたものである。

(8) 牛乳の脂肪含有量が三%以上あればよいのであるが、それ以下のは脱脂乳である。

(9) 不純物例へば毛砂木屑葉などが牛乳の中にあるのはよくない。

(二) 牛乳稀釋法 牛乳は人乳と其の含有成分を異にし、之を其の儘用ふる能

はざるを以て稀釋法を行ひ以て人乳に近似せしむるを要す。
稀釋の程度は學者により其の主張する所を異にするも標準的のものは左の如し。

年 齡	各食餌の間隔時間	一日の食餌回数	牛乳稀釋の割合	一回量(蚝)	一日量(蚝)	混合割合
一 月	三	六	1/3	牛乳二〇—二三〇	七二〇—七五〇	牛乳一 水二 砂糖一〇〇瓦中へ三五
二 月	四	五	1/2	牛乳一五〇—一六〇	七五〇—八〇〇	牛乳一 水一 砂糖一〇〇瓦中へ五瓦
三—四 月	四	五	1/2	牛乳一五〇—一六〇	七五〇—八〇〇	牛乳一 重湯一 砂糖一〇〇瓦中へ五瓦
五—八 月	四	五	2/3	牛乳一八〇	九〇〇	牛乳二 重湯一 砂糖一〇〇瓦中へ五瓦
九—一〇 月	四	五	全	乳一八〇	九〇〇	砂糖一〇〇瓦中へ五瓦

牛乳稀釋に際し添加する糖類は牛乳を甘くする爲めに用ふるにあらずして、實に小兒の體力を補給する大切なる營養素たるが故なり。されど一定量は必要なるも多量に過ぐる時は却つて害あり。

牛乳に混和すべき糖類は(一)普通の蔗糖(二)乳糖(三)ソクスレット氏滋養糖及び(四)滋養マルトトリーゼ等なり。蔗糖は四%其の他は五%を標準として混ぜべきなり。

牛乳と糖類を混和したるものによりて哺育せられ、發育佳良なりしもの、時として體重の増加緩慢となりたる場合には第二の含水炭素として玄米を粉末と爲し、之に少量の水を加へ十分煮沸しおき、五%乃至八%の割合にて牛乳に添加し殺菌すべし。此の場合には糖類は半減すべし。

資料

牛乳の稀釋 人工哺育は自然哺育に比して、根本的相違あると、幾多の危険を伴ふに
より、之を行はんとするには、最も慎重なる態度をとらねばならぬ。牛乳によるには、其の調合法を適當にし、乳毒法の徹底を期さねばならぬ。
牛乳中の大量の蛋白質脂肪及び鹽類の比例を變換せしめて、人乳と大差のないやうにするには、之を煮沸水で稀釋し、更に糖分を加へなくてはならぬ。稀釋の程度は乳兒の性質強弱消化の良否發育の状態等に鑑みて加減を要するは勿論である。

磐瀬博士

(年 齡)	(稀釋の割合)	(毎回の哺乳量)
初三 週間	牛乳 一 水 三	
四乃至八週間	牛乳 一 水 二	四〇立方糶乃至八〇立方糶

三乃至五ヶ月	牛乳 一	水 一	一〇〇立方糶乃至二〇〇立方糶以
六乃至七ヶ月	牛乳 二	水 一	下同じ。
七ヶ月以後	純乳		

太田博士

(年齢)

(稀釋の割合)

(一日の分量)

第一週	牛乳一と水二(三分一牛乳)	五〇〇瓦
第二週より第四週	牛乳一と水一(二分一牛乳)	五〇〇瓦
第二ヶ月より第四ヶ月	牛乳一と水又は一―三%重湯一(二分の一牛乳)	六〇〇瓦乃至八〇〇瓦
第五ヶ月より第六ヶ月	牛乳二と一―三%穀粉煎汁一(三分の二牛乳)	九〇〇瓦乃至二千瓦
第七ヶ月より第八ヶ月	同上(三分の二牛乳) 又は牛乳三%と三穀粉煎汁一(四分の三牛乳)	
第九ヶ月より第十ヶ月	全乳又は 四の分三牛乳	
第十一ヶ月より十二ヶ月	全乳又は 全乳とおまじり	

(三)殺菌法 細菌は牛乳中に於て非常なる速度を以て繁殖するものなり。今假に一ヶの細菌を有する牛乳を、華氏五十度の温度の室に二十四時間放置すれば、五箇に繁殖し、之を華氏七十度の温度の室に更に二十四時間放置せば、數千の細菌となる。故に熱氣消毒を行ひ殺菌を爲すこと必要なり。

牛乳はなるべく冷蔵庫中に貯へ、細菌の増殖乳汁の腐敗を防ぐことにつとむべし。

殺菌はなるべく短時間低温にて爲し、牛乳の性質を變化せしめざるを理想とす。家庭に於てはソクスレット氏殺菌器を用ふるを便とす。ソクスレット氏殺菌器中にて消毒するには、湯の沸騰してより五分乃至七分間煮沸し、然る後速に之を冷却すべし。これ普通の牛乳は搾乳場に於て既に殺菌の爲め熱せられたるものなるを以て、長時間煮沸する時は牛乳の性質を變じ、消化し難きものたらしむるに至るを以てなり。

資料

牛乳の變敗豫防法

(一)熱氣消毒法

(1)高熱殺菌消毒法 牛乳を攝氏百十五度にて十五分間熱する。確實なる殺菌を行ひ得べきも乳質の變化を來すこと多く、充分なる設備を要する。

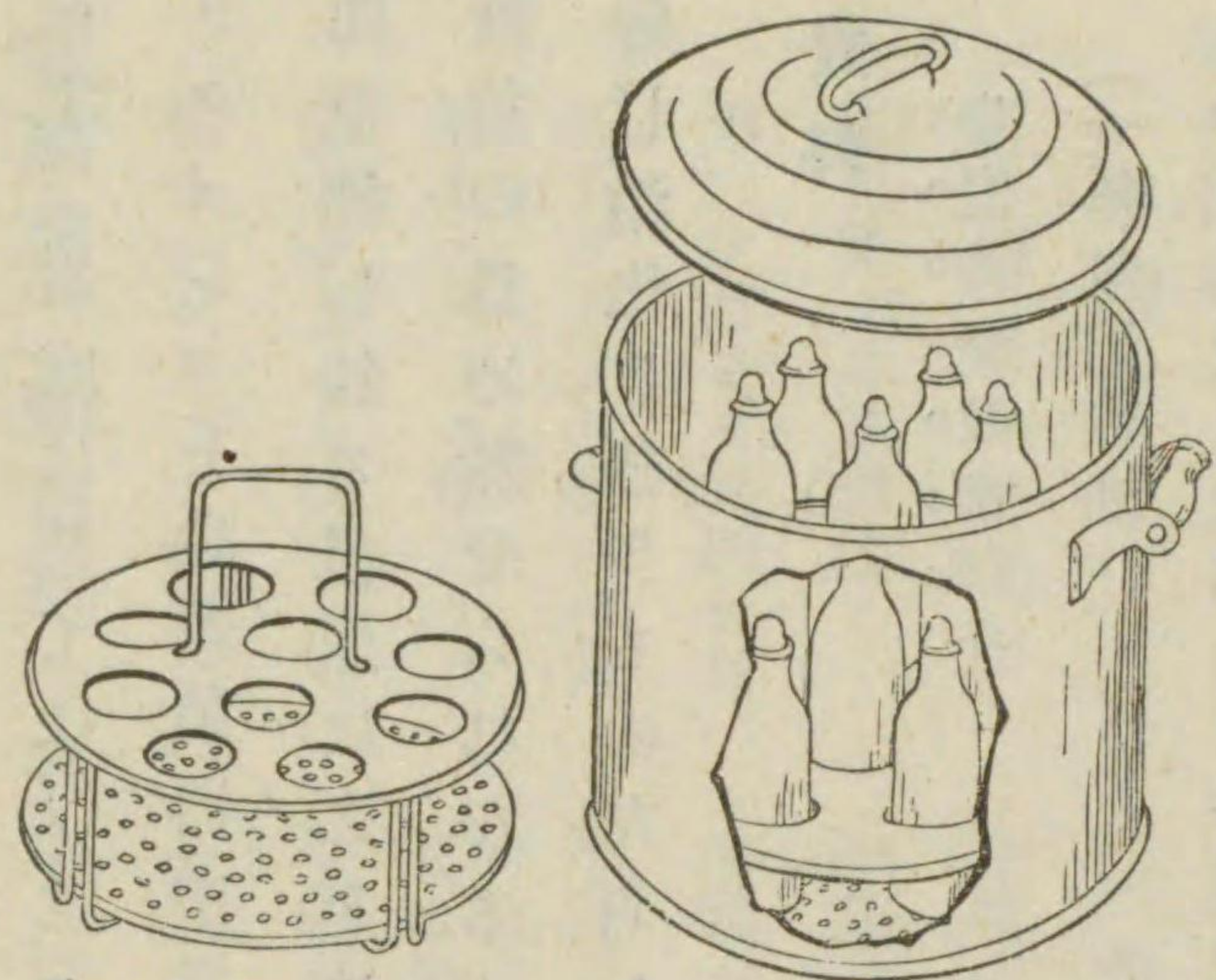
(2)低熱殺菌法 二十分乃至三十分間攝氏七十五度乃至八十度に熱したる後速に氷を以て冷却せしむる方法である。絶對無菌を望むことはできぬ。然し通常の乳

酸醱菌及び結核菌等は攝氏八十度に於て十分間六十八度に於て半時間熱すると、之を死滅せしむることができる。

(3) 煮沸法

(イ) 單純煮沸法 普通の鍋等を以て煮沸する方法であるが、殊に夏季などに在りては安全なるものではない。

(ロ) ソックスレット氏消毒器により消毒す。ソックスレット氏装置は一回に使用すべき乳量を各一罐に入れ、護謨栓を施し、此等の罐を更に其の器底に少量の水を有する金屬罐に收め、少くとも三十分間百度の蒸氣にあてたる後、冷所に貯へ用に臨み密栓を開き消毒せる哺乳器を以て攝取せしむるのである。此の牛乳は煮沸後と雖も、一日以上貯藏しておかぬやうにしなくてはならぬ。



ソックスレット殺菌器

(ニ) 冷蔵法 氷函又は冷蔵庫中に貯藏する方法で乳汁變敗を防ぐ效はあるが熱氣消

毒法の如く強力なるものではない。既存細菌の増殖を防ぐも之を滅殺する力はない。熱氣消毒を行つた後のものを貯藏するに適する。殊に夏季に必要である。

(三) 藥物消毒法 炭酸曹達、硼砂、硼酸、サリチル酸等によるものなるも今は行はれない。

(四) 牛乳代用品 牛乳の代用品として多く用ひらるゝものは、コンデンスミルク、粉乳、ラクトゲン等なり。コンデンスミルクは牛乳に砂糖を加へ、水分を蒸發せしめ、濃厚なるものとし、罐に密閉したるものにして貯藏に便なり。然れども糖分多きを以て小兒に用ひて其の成績よろしからず。其の稀釋法は一ヶ月乃至三ヶ月の嬰兒にはコンデンスミルク一に對し湯二、四ヶ月乃至五ヶ月の嬰兒には同一八、六ヶ月乃至八ヶ月の嬰兒には同一〇を以て適當とす。粉乳、ラクトゲンは澱粉を含む。生齒後の小兒に限り用ふべし。

資料

コンデンスミルク(煉乳) 牛乳中の水分の多量を去り、之に砂糖を加へ、罐に入れ密閉して貯藏に便ならしめたものである。米國瑞西製のものが良い。

初三ヶ月間は煉乳一に湯若くは燕麥煮汁を瀘過したるもの二十二を加へ、其の後漸次一と十八遂には一と十二の比に進める。勿論乳兒の消化の狀況に注意して加減す

べきである。

コ。ン。デ。ン。ス。ミ。ル。ク。 米。國。製。 鷲。印。の。成。分。

水 三一・三三

蛋白質 八三・九

脂肪 九・四六

乳糖 七・六五

蔗糖 四一・二九

鹽類 一・八八

コ。ン。デ。ン。ス。ミ。ル。ク。の。鑑。別。

(1) 酸臭腐敗臭あるものはよくない。

(2) 泡沫があるものはよろしくない。

(3) 黄色となり又は淡青色となれるものはよくなる。

(4) 温湯にかかして滓の生ずるものはよくなる。

ラ。ク。ト。ー。ゲ。ン。

コ。ン。デ。ン。ス。ミ。ル。ク。其。の。他。類。似。品。の。缺。點。と。す。る。所。を。改。良。し。た。粉。ミ。ル。ク。の。一。種。で。あ。る。 濠。洲。バ。ク。カ。ス。マ。ン。濃。乳。株。式。會。社。で。製。造。せ。ら。れ。る。 其。の。成。分。は。左。の。如。く。で。あ。る。

水分 三〇〇

脂肪 一三・四九

乳糖 四七・八六

蛋白質 二一・〇〇

灰分 四・六五

粉。乳。 粉乳は普通生の牛乳の約七分の一に濃縮されて居るのであるから、之を普通の牛乳にするには約七倍の水にうすめなくてはならぬ。粉乳にはビタミンがこはさで居ない。又粉であるから長く蓄へることも出来、一度口をあけても乾燥して居るから割合に黴菌もつかない。砂糖も澤山入つて居ない。簡単にいつでも乳がこしらへられて頗る便利である。然し、脱脂した方が粉乳にし易いので、脂肪が可なり抜かれてあり、乳脂肪以外の植物性の脂肪分を加へて作つたものもあるから、良否を選択しなくてはならぬ。

小。兒。粉。 デヤスターゼを用ひ小麦粉に糖化作用を行つてから、之に牛乳を混じて製したものである。

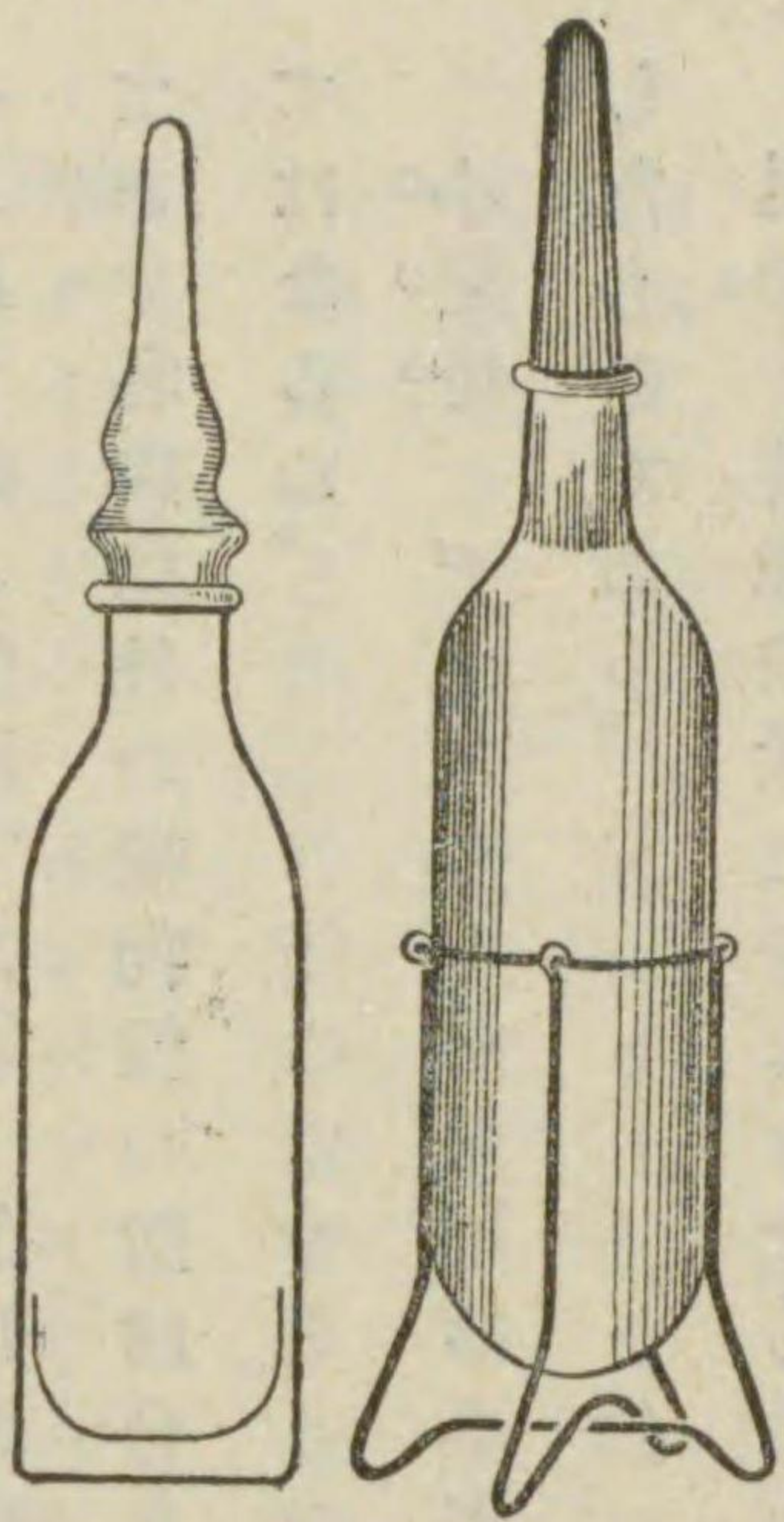
乳。粉。 普通白米を粉にしたものを乳粉といふ。時には白米と糯米とを粉にして製したものや、中には更に砂糖を加へたものもある。乳粉は穀粉に過ぎない。穀粉は重なる成分は澱粉であつて、蛋白質や鹽類に乏しく、脂肪も殆んど含んで居ない。單獨にこれだけ其の儘用ふると榮養障害を起す。

(五) 哺。乳。器 人工哺乳を爲すには哺乳器を必要とす。哺乳器には種々あるも、衛生上安全にして、器内の洗滌容易なるものを選ぶべく、吸口はガラス容器に直接附着せしめ得る護謨口を最も便なりとす。

哺乳器は使用後重曹水にて洗ふべし。殊に吸口・瓶底の清潔に注意するを要す。不潔なる時は往々下痢・驚口瘡の原因となることあり。

資料

哺乳器。乳嚢は内部の圓い掃除に便利なものがよい。其の洗ひすぎ消毒は毎使用前に必ず反復すべきである。清潔法其の當を得ざる時は、小兒は之によりて屢々消化障害を起し、殊に夏季に於ては、寒心すべき結果を來し易いものであるから大に注意を要する。故に哺乳器は毎回完全に洗



器 乳 哺

意を要する。故に哺乳器は毎回完全に洗滌し得る形のものを選ばねばならぬ。吸口はガラス容器に直接附着せしめ得るゴム口を便とする。而して乳首製造所では孔をあけずにおいて、使用の時に針で孔を造るがよい。乳首は殊に清潔に保つを要する。乳首の孔は一個でよい。あまり大きくない方がよい。孔が大きいとか、孔が多いとかいふ時は、乳が早く流れ込み、乳兒の吸乳運動が容易に過ぎ、筋肉運動の練習にならぬ。一個の嚢を約十五分で飲み終る位が適當である。其の他安全にして使用に便に安價にして耐久なるがよい。牛乳を飲ませるには

乳兒を腕か膝の上に乗せ、或は臥せしめたる儘でのませる。嚢は小兒に持たせて置いてはならぬ。のみながら眠り、又乳が氣管の方へ流れ込むやうな危険がある。

哺育上の注意

(一) 一般的注意 哺育上注意すべき點を掲ぐれば左の如くである。

- (1) 消毒した牛乳を體溫位に冷し、靜かに飲ましむべく、過熱過冷なるは宜しくない。又急に飲ませないやうにしないでならぬ。
- (2) 飲み残りのものを次回に用ひてはならぬ。
- (3) 哺乳用の器物は特に清潔なるを要する。毎使用前必ず消毒すべきである。
- (4) 授乳後は、一旦煮沸した溫湯に浸したガーゼで口内を清らかに拭ひ、驚口瘡にならぬやうに注意すべきである。

(二) 特別の注意 人工哺育が果して成功しつゝありや否や、小兒の觀察を十分にし、母乳哺育兒の發育状態とを比較することを怠つてはならぬ。注意すべき要點は左の如くである。

- (1) 榮養の良否 榮養の適否は、直に體重大便食欲等に影響を及ぼすものである。
- (イ) 蛋白質の少ない時は、大便は少量で、秘結する。體重は増加せずして停止又は減退する。此の状態が長く續くと貧血衰弱を來す。又蛋白質の多い時は、腹痛・吐乳を

來すものである。吐乳は大抵授乳後一時間又は一時間半以後に來る。大便に凝固せる灰色顆粒粘液を有し時としては青便を排出する。

(D)糖分の少ない時は、體重増加せず、秘結し、多きに過ぐる時は、食後一時間又は二時間にて吐瀉し、吐瀉物は普通酸性を有する。腹痛を起し青便を排泄する。

(E)脂肪少なき時は、體重増加せず。多き時は授乳後一二時間にして吐乳する。腹痛をともし、大便は薄青く、不消化の脂肪又は粘液を混じて居る。

(2)大便 大便は乳兒の建康狀態殊に消化の良否を知るに大切なるもので、母たるものは、其の性質分量に注意すべきである。

建康乳兒の便は殆んど無臭にして弱酸性を呈し、其の質其の色恰も卵黃の半熟に似て居る。一日二回乃至四回が普通である。牛乳便は、人乳便と其の色を異にし、色淡く灰色を加へた黄味を帯び、其の量は人乳便よりも多い。消化不良、營養障害等の時は、其の便の色及び臭に變化を來すものである。便の中に粘液あり、粒ある青便又は水様便は何れも異常便である。

(3)體溫 小兒は、朝夕の體溫の差が極めて僅かで三十六度六分乃至三十七度二分位である。體溫の非常に昇降ある時は、營養障害の前徴である。

(4)發育 漸進的でなくてはならぬ。發育減退の徴ある時は、營養に留意しなくては

ならぬ。皮膚は緊張して稍赤味を帯びて居るのがよい。

人工哺乳による小兒は、小兒科醫の監督の下に常に健康診斷を怠らず、發育狀態牛乳の稀釋法、食欲の如何、便通の回數と其の狀態、其の他小兒の機嫌等に注意を要する。

第三節 混合哺育

混合哺育とは、人乳の不足を牛乳若くは牛乳代用品とを以て補ふをいふ。

混合哺育による場合左の如し。

(1) 母乳不足なるとき。

(2) 母乳の疾病により授乳を差控ふる必要あるとき。

(3) 母乳の他に他人より乳汁を得難きとき。

混合哺育は全然人工哺育によるよりも其の成績概ね佳良なり。

母乳の不足を知るには、乳兒が何等の原因なくして體重の減少によりて推知せらるべし。母親たるものよく兒體に注意して哺育につとめざるべからず。混合哺育には人乳哺乳後毎に補ふ法と一日中の或る回數だけ人乳に代らしむる法とあり。

永久齒。永久齒は三十二枚ある。六七歳頃から乳齒が脱落して永久齒が之に代つて行く。乳齒が齶齒になつて神經が死ぬると抜けかはることが遅れる。而して齒列が悪くなり所謂亂抗齒となる。乳齒と交代するのは三十二枚の中二十枚だけである。六歳になると乳齒の奥に第一大臼齒が生える。此の齒は又六歳臼齒ともいひ生涯ぬけ代らない齒である。他の齒よりも咀嚼力強く最も大切なる齒である。乳齒の抜けかはりには上下の門齒から次第に奥の方へと進み、十三四歳頃まで、抜けかはりは終了する。第三大臼齒は十八歳から二十七八歳頃平均二十前後で生える。第三大臼齒は智齒又は親知らずともいふ。

(發生順序) (名稱)

(發生年齡)

- (1) 第一大臼齒(六歳臼齒)(四) 六歳前後
- (2) 内門齒 (四) 六歳乃至九歳
- (3) 外門齒 (四) 七歳乃至九歳
- (4) 第一小臼齒 (四) 九歳乃至十二歳
- (5) 犬齒 (四) 十歳乃至十三歳
- (6) 第二小臼齒 (四) 十歳乃至十四歳

$$\begin{array}{r} \text{上顎} \\ 3\ 2\ 1\ 4\ 1\ 2\ 3 \\ \hline 3\ 2\ 1\ 4\ 1\ 2\ 3 \\ \hline = 32 \end{array}$$

下顎

- (7) 第二大臼齒 (四) 十二歳乃至十六歳
- (8) 智齒 (四) 十八歳乃至二十八歳

生齒の時期には身體に異狀を來すものなり。

- (1) 齒齦は充血し、流涎、發熱、神經過敏、不眠等の症狀を呈す。
 - (2) 輕き消化不良を來し、食氣不振、便通頻數を來す。
 - (3) 皮膚に痒感甚だしき泡疹のあらはるゝことあり。
- 故に幼兒の衣食住に注意し、精神の刺戟を避けて安靜ならしむることにとむべし。

齒齦の痛痒を感じて泣き物を噛まんとする時は、微温湯に浸したるガーゼを以て齒齦を輕く摩するか、護謨製の玩具を與へ之を噛ましむべし。かゝる時哺乳せば、乳頭を噛みて傷けらるゝことあれば注意すべし。若し傷を受けたる時は直に手當を爲すべし。

齒は清潔にせざるべからず。重曹、硼酸等を溶かしたる微温湯を軟かなる布片に浸して洗ふべし。

乳齒腐蝕する時は永久齒に障害を來し、生涯齒に故障多し。幼兒長じて四

歳にもなれば自ら齒を掃除せしむべし。齒磨粉は香料の少なき良質のものを選び、齒揚子は柔かなるものをよしとす。揚子は先づ上下に次に左右に動かして磨くべし、腐蝕せざるやうにつとむべし。若し齶齒を發見したる時は直に其の手當を加ふべし。殊に注意すべきは咀嚼の中心たる六歳臼齒の保護即ちこれなり。

資料

生。齒。の。影。響。 齒が生える時には、齒齦に炎症若しくは流涎發熱神經過敏不眠症等を起すものである。其の他軽い消化不良を來し、食欲不振便秘頻數となることがある。又皮膚に痒感甚だしい泡疹があらはれることもある。

齒の生える時には微温湯に浸したガーゼで、其の齦を軽く摩すると快を與へることが出来る。

齒。の。養。生。 よい齒は健康なる身體をつくる上に何よりも大切である。良い齒で食物を十分咀嚼せねば消化が悪るい。よく消化されたる食物は滋養に富む。故に齒は健康の母といつてもよす。

齒は清潔にしてむし齒にならぬやうに注意しなくてはならぬ。むし齒は主として齒と齒との間にたまつた食物のかすが原因である。食物のかすにバクテリアが作用して酸を生じ、其の酸の爲めに齒が溶かされてむし齒が出来るのである。むし齒は齒の外側から起つて齒の内部へと進み、齒髓にまで達すると劇しい痛を起す。痛が止んでも齒がなほつたのではない。神經が死んだのである。神經が死んで腐ると齒の根の先に膿を持ち再び痛み出して顔がはれる。痛が起つたり止んだりして居るうちに齒は壞れてしまふ。

むし齒を防ぐには、食後に齒の間に食物を溜めておかぬやうにしなくてはならぬ。齒を清潔にするには齒ブラシで磨くのが一番よい。齒揚子は最初は軟かなものを用ひ、淡い重曹液を微温湯に浸して洗つてやるがよい。四歳にもなれば自分で洗ふやうにさせねばならぬ。齒みがき粉は香料の少ない良質のものを用ひ、齒ブラシは其の大きいさと毛の硬さに注意し、適當のものを選ぶべきである。齒ブラシは毛の稍硬いものがよい。齒の磨き方は齒ブラシを齒齦にあて、上顎は上から、下顎は下から、齒齦と齒とを一しよにシヤクルやうに運動させてこするがよい。上下にみがい後で横にみがき、入念に洗ふやう習慣をつけねばならぬ。

むし。齒。 むし齒は主に齒と齒の間に溜つた食物の渣が因で出来る。食物の渣にバクテリアが働けば酸が出来る。むし齒は酸の爲に齒が溶されたのである。

むし歯は歯の外側から起つて、歯の内部へと進む。そして俗にいふ神経——歯髓——まで達すれば劇しい痛を起す。

痛がやんだのは神経が死んだのである。むし歯が癒つたのではない。神経が死んで腐ると歯の根の先に膿を持つやうになる。そして再び痛み出して、顔が腫れる。

痛がやんだり起つたり繰返して居る内に、歯が壊れ、とう／＼使へなくなる。

膿が歯齦に破れ出ると、一時痛がやむけれど、病は決して癒つてゐない。膿は絶えず歯齦の傷口——瘻孔——から流れ出る。その膿を常に飲み込めば體を害し、後には重い病氣をひき起す。

むし歯を防ぐには

(1) 食後に歯の間に食物を溜めて置かぬやうにするに限る。歯を清潔に保てば、滅多にむし歯に罹らない。

(2) 歯を清潔にするには、歯ブラシと歯磨を使ふのが一番宜しい。食後に含嗽するの
もよい。澤庵や漬物、又は野菜、果物などをよく咀嚼のも、歯を清潔にする効がある。

(3) 中は外側も、内側も、咬む面も、すべて磨かねばならぬ。大さと毛の硬さの程よい歯
ブラシを以て上手に歯を磨けば、必ず清潔になる。毛は少し硬い方がよい。

(4) 歯の磨き方は、歯ブラシを歯齦に當て、上顎は上から、下顎は下から、歯齦と歯をいつ

しよに「しゃくろ」やうに運動させて擦るのがよい。歯だけを擦つてはならぬ。

歯齦をマッサージして血液の循環をよくするのは、歯齦を丈夫にする爲めになる。

(5) 歯を磨くのは一日に二度……朝起きた時と夜寝る前に行ふがよい。

(中山文化研究所齒の衛生)

第五節 離乳

離乳すべき時は、滿一ケ年より十五ヶ月の間を以て最もよしとす。生後一ケ年を経過せば、嬰兒は成長して母乳のみにては、其の分量に不足を感ずるのみならず、其の成分は既に變じて、榮養に適せず。故に八九ヶ月頃より他の食物を併用して、榮養を補足すべし。最初は一日の中一回代用食を與へ、之を四五日繼續して故障なければ、二回と爲し、三四日の後に至るも故障なければ、三回とすべし。かくする時は、乳汁の分泌も少なくなり、離乳を全うすることを得べし。

離乳は嬰兒の身體の強弱、發育の遲速等によりて、參酌を要し、又季節の六七、八九月に當る場合には、延期すべし。離乳すべき時期に達するも、之を實行せ

ざる時は、皮膚蒼白、脂肪弛緩、神經過敏等の異状を呈すべし。
 離乳期の食物としては、牛乳、重湯、スープ、輕きビスケット等を可とす。此等の食物を消化するに至れば、其の分量及び之を與ふる所數を増し、更に時日を經過せば、半熟卵、牛乳にて煮たる粥、スープを以て調理せる粥又はパンつぶせる馬鈴薯等を與ふべし。

離乳時の献立

(唐澤博士の考案)

(一) 離乳方法 (人乳兒第一案)

(1)	人乳	人乳	人乳	人乳	人乳	人乳	人乳
(2)	同	同	パン一切 おつゆ一合	同	同	同	同
(3)	同	同	同	同	同	同	同
(4)	同	ビスケット一個 人乳	同	同	同	同	同
(5)	同	同	同	同	同	同	同
(6)	同	同	パン二切 おつゆ一合	同	同	同	同
(7)	同	同	同	同	同	同	同
(8)	同	同	同	同	同	同	同
(9)	同	ビスケット一個 牛乳五勺一合	同	同	同	同	同
(10)	同	同	同	同	同	同	同
(11)	同	同	パン二切、かき たま、汁一合	同	同	同	同

(二) 離乳方法 (人乳兒第二案)

(1)	人乳	人乳	人乳	人乳	人乳	人乳	人乳
(2)	同	同	おもゆ おつゆ一合	同	同	同	同
(3)	同	同	同	同	同	同	同
(4)	同	同	同	同	同	同	同
(5)	同	同	同	同	同	同	同
(6)	同	同	おまじり五勺 おつゆ五勺	同	同	同	同
(7)	同	同	同	同	同	同	同
(8)	同	同	同	同	同	同	同
(9)	同	同	おまじり五勺 かきたま汁五勺	同	同	同	同

數日後お粥五勺
牛乳五勺

ビスケット及び
牛乳五勺一合

お粥五勺一合
鶏卵

ビスケット
カステラ等

同

(三) 離乳の方法 (牛乳兒)

	(朝)	(午前九時)	(正午)	(午後三時)	(夕)
(1)	牛乳	牛乳	牛乳	牛乳	牛乳
(2)	同	同	牛乳 お粥五勺一合又パ ン一切お粥一合	同	同
(3)	同	同	同	牛乳五勺一合	同
(4)	同	同	同	同	お粥五勺一合 又パン一切お粥一合
(5)	同	同	同	同	同
(6)	お粥五勺一合又パ ン一切お粥一合	同	同	同	同
(7)	お粥五勺一合又パ ン一切お粥一合	同	同	同	同
(8)	お粥五勺一合又パ ン一切お粥一合	同	同	同	同
(9)	お粥五勺一合又パ ン一切お粥一合	同	同	同	同
數日後パン、お粥	ビスケット。カ ステラ。カルヤ キ等。牛乳五勺	パン。かきたま汁 じやがいも 卵さしみ	又は粥午前九時と同	晝と同じ。	

第六節 便通

嬰兒の便通と健康とは密接なる關係あり。其の健否は便通の回数と性質とを點檢すれば概ね推測し得らるゝものなり。通便は朝起きたる時直にあるか哺乳後にあるをよしとす。平素此の習慣を養成することにとつとむべし。

人乳便はバターの如く黄色にして牛乳便は稍々灰色を帯び滑かなるをよしとす。褐色を呈し、粘液又は顆粒を混じ、色青く、惡臭あるものは異狀便なり。粘液あるは、食物が胃腸に適せざるか、人工哺乳の場合に於て牛乳の稀釋法の不適當なるが爲め消化不良を起したるに原因し、顆粒あるは、蛋白質・脂肪等の過剰より來る。人工哺乳の場合には顆粒便を見ること多し。若し母乳の場合に此の徵候あらば、そは母の食物が不適當なるか、又は運動不足より來るものなり。青便は消化不良の爲めなり。最も面倒なるは常習便秘なり。之を治するには、食物を以てするを有效なりとす。下劑を用ひ又は灌腸を爲すことは避くべし。蜜柑汁又は蜜柑汁に同量の湯を入れて稀釋したるものを哺乳と哺乳との間に與ふれば通じをよくす。又腹部を靜に摩擦するも有效なり。

資料

便通。健康なる乳兒の便は普通は有形で黄金色の平等に消化された軟膏様の軟かさで、いり卵を少し水で溶いたやうなもので、回数も一日に一回か二回か普通である。かゝる便は健康な母乳兒の模範的の便である。所が何の障りもなくとも模範的の便の

みは出て来ない。色が青かつたり、ブツ／＼の白い小さな塊が混つて居たり、形がましまつて居らず軟か過ぎたり、泥狀にドロ／＼して居る。即ち消化不良性の便であつても他に栄養障碍の症狀さへなくば差支はない。

何故に便秘が起るか。

- (1) 母乳が不足し栄養不十分なること。發育止まり、これまで肥えて居たこどもも瘦せ、手足の皮膚及び筋肉の緊張を減す。
 - (2) 生來腸の働き鈍く、腸の運動緩慢なること。
 - (3) 生來腸の粘膜の吸收作用旺盛にして攝取せし食物の養素の大部分を吸收利用すること。健康上何等の故障なく發育す。
 - (4) 先天的體質の異常により神質の小兒は灌腸の刺戟によらざれば排便機能起らざるもの。之を病的條件反射といふ。
 - (5) 食物の調和とれざる爲めに起るもの。蛋白質の多い食物のみをとらせ、野菜類を餘りとらせぬため腸の運動を刺戟する植物性纖維が少いたためである。
- 第一の場合は、母乳を補足すればよろしい。第二第三の場合は特別の手當は不要である。成長して離乳期に入り乳汁以外の普通の食物をとるやうになれば自然便通がよくなる。第四の場合は灌腸を中止し、自然に排便させるやうにしなくてはならぬ。

便秘の如何なる場合でも下劑を用ふることは絶対に禁物である。(太田醫學博士)

第七節 睡眠

生後一ケ年間は身體各部の發達速かなり。殊に内臟器官は非常なる速度を以て發育す。但し外圍に對する抵抗力は極めて弱く、些細の障礙にも其の影響を受け易し。精神上の發達も亦生涯の何れの時よりも大なり。故に身心の發達を完全ならしめんとせば、睡眠を十分ならしむべし。

睡眠は疲勞を恢復し、精力を増進する唯一の方法なり。殊に神經質の嬰兒には十分の睡眠を與ふること肝要なり。普通最少限度の睡眠時間は生後三週以後二十二時間、四週以後二十一時間、二ヶ月以後二十時間、十二ヶ月以後十五時間とす。

- (1) 睡眠には一人寢の習慣を養ふべし。添寢は衛生上有害なり。
- (2) 寢室は空氣の流通よろしき所を選ぶべく、室内の溫度に注意すべし。寢衣・寢具のみあつくするはよろしからず。
- (3) 熟睡は覺醒時の疲勞を醫し、精力の恢復をはかることを得べし。故に四

邊を安靜にして熟睡せしむべし。

(4) 就眠に際しては、背を上下に撫で又は子守唄により眠に入らしむべし。

(5) 目ざめし時は直に排尿せしむべし。寢床中に於て爲さしむべからず。

資料

睡眠。睡眠は小兒にとつて頗る大切なことである。初生兒乳兒などは哺乳の外は殆んど睡眠して居る。離乳時でも夜間十二時間晝間二時間計十四時間は睡眠するものである。睡眠によつて如何なる利益が得られるかといふに、

(1) 神経消化器筋肉等が休養するから疲勞から恢復する。神経系統の發育には睡眠が最も必要である。

(2) 精神作用も休養するため、再び精力を新にして活潑となる。

故に睡眠を妨げないやうにしなくてはならぬ。外圍を靜にするばかりでなく、床上に於ける位置にも注意しなくてはならぬ。床上に水平に位置せしめ、過度の屈曲を避け、枕も適當のものを與へるがよい。高きに過ぎ且つ硬いものはよろしくない。少くも初生兒は二十時間乳兒は十六時間乃至十三時間の睡眠は必要である。夜は早く寢かせても、朝が早いから晝寢をさせなければ十分の睡眠を與へることはできない。毎夜夜中に時々起きて泣くとか夜と晝とを取違へ晝はよく眠るが夜は眠らないと

か抱くと眠るが下におろすと直に起きるとかの睡眠異常につきては醫師の指導に従ふがよい。

第八節 啼 泣

啼泣には(一)生理的必要より來るもの、(二)痛苦を訴ふるもの、(三)何物かを欲求するもの、三あり。

(一)生理的に泣く 生理的必要より自然に泣くものにして、肺に深く空氣を吸入し、又それを吐出するによる。出生時に泣くは此の泣き方なり。此の泣き方は顔を赤くして強く泣き、泣きやめては又泣くなり。痛苦を訴へて泣くにあらず。故に泣きやめしめんと苦心するは無意味なり。入浴の時又は衣服襁褓を取替ふる時には往々此の泣き方を爲す。

(二)痛苦を訴へて泣く 襁褓汚れて皮膚を刺戟し、或は衣服に皺を生じ、或は衣服蒲團厚きに失し、或は秘結腹痛、不消化、瓦斯充滿、睡眠を催したる時等不快、苦痛が原因となりて泣くなり。かゝる場合には足を上下に動かしつゝ、強く泣き、又は唸るやうに泣く。弱弱じき聲にて連續的に泣くこともあり。原因

を除去すれば直に泣きやむ。

(三)何物かを欲求して泣く 何物かを欲求し、又は單に甘へて泣くなり。欲求満足せられれば直に泣きやむ。

母たるものは嬰兒の泣き方に注意し、其の原因を知り、適當の處置を爲すべし。甘へねだる等の意味の時は放棄すべし。然らざれば自制力なき放恣なる習癖をつくるに至るべし。

資料

こ。ど。も。の。泣。き。方。と。其。の。手。當。

(1)お腹の空いた時 眼は開いて居るが涙は大抵出ぬ節のある聲で唇を動かして哀れさうな相をして泣く、此の時に乳を與へる。子守の場合で乳が俄かに間に合はねば白湯を與へる。

(2)痛みのある時 眼が開いて居て涙が多く出る。びつくりする程高い聲で泣く、兩足は縮める傾きがある。

負ふて居た時は早速下して衣服をしらべて見る。針などの附いて居る爲めに痛みのあることがある。又抱きかえて見る。或は虫にさゝれて泣くこともあるか

らそれもしらべて見る。腹が痛い時は脚を腹の方へ引きつけて泣く、この時は腹を少しづつ壓して行くと痛い所へ來たときに一層強く泣く。まだそれでも痛むやうならば醫者に見て貰ふ。

(3)眠い時 だるさうにして眼を細くし、時々欠伸をする。頭をなで、歌でもうたつて靜かに眠らせる。それでも眠らぬときは抱き方をかへて見る。

(4)退屈及び我意の通らぬ時 手足を踏み張り、頭を振り、眼が開いて居て、ぢれて泣く。抱き直し、又寢返して何か目につくものを與へる。玩具を與へるか又歌つてやるか、變つたことをしてやる。乳を與へる必要はない。

(5)びつくりした時 俄かに泣く、手足をふるはし又はからだをふるはして泣く、聲が高い。顔をかくして抱いてやる。負ふて居る時なら下して居場所をかへる。

(三田谷醫學博士育児の心得)

嬰兒の啼泣 嬰兒の啼泣にはそれ／＼原因があるが、之を知ることが容易でない。生理的に泣くか、何か要求して泣くか、病氣を訴へて泣くか、賢明なる母親はよく察知しなくてはならぬ。茲に泣き方とその原因を列擧すると左の如くである。

- (1) 續けて泣く。空腹及び渴したとき、虫等にさゝれたとき、濕疹の痒いとき。
- (2) 激しい叫聲で泣く。耳の痛むとき。

(3) 下肢を腹部に向け引くやうな状態で、息の止まる程泣く、時に手を握つたり開いたりしつゝ、或は泣き或は止むは腹痛の發作的に來る證據である。大聲で泣くときは痛みの度愈々強きを訴ふるがためである。腹痛及び腹の張るときである。このときは腹部に手をあて、見ると腹部の緊張してゐるのを感じる。これは多く便秘の場合である。

(4) 氣むづかしく哀聲で泣く、一體に安眠せず泣いては眠り又さめては泣く。建康勝れず不愉快なときで、身體に故障あるか又は其の前兆であるからよく原因を究め手當を施す必要がある。

(5) かれ聲で泣く。咽喉に故障があるとき。

(6) 短かく押しつける様に泣く。肺に故障あるとき、特に咳の伴ふは肺炎の徵候である事が多い。

(7) 鼻聲で泣く。上咽喉に故障あるとき。

(8) 氣むづかしく泣く。口に故障あるとき。

(9) 飲食物を飲込む際に泣く。咽喉の痛むとき。

(10) 瞬きをなし日光を避ける様にして、頭を強く左右に振り、頭をこすりながら泣く、而も激しく泣く。頭痛のするとき、後者は多く腦膜炎を起すとき。

(11) 睡眠中急に泣出す。物に驚かされたとき。

(12) 突然高聲で泣く。身體の何處かに非常な故障のあるとき。

(13) 動かすときその動かし方によつて泣く。或局部の痛むときである。

(14) 聲を立てず低聲にて泣く。脚氣の時である。

(15) 喉聲を發して泣く。濕潤のとき。

(16) 弱聲で呻吟するやうに長時間泣きつゞける。衰弱したとき。(堀七藏氏家事實驗室)

第九節 運動

嬰兒の涕泣は呼吸を深くする爲め有效なる結果を生ず。四肢を屈伸するは必要なる運動なり。衣服の緊縛により自然の運動を妨害することあるべからず。

匍匐するに至れば、其の床を清潔にし、危険物を取除き、思ふまゝに活動せしむべし。起座起立又は歩行を始めたる時は自然のままに放任すべく、決して期に先だちて干渉し、強ひて起立せしめ、無理に歩行せしむることあるべからず。

第九章 小兒の衣食住

第一節 小兒の發育

小兒生れて一箇年間は、身長・體重相平衡して發達するものにして、體重は一ケ年間に於て出生當時の三倍となり、身長は約二一センチメートル伸長す。其の増加伸長率は之より以後の何れの時期よりも大なり。腦髓の如きも出生當時の三倍となるなり。

生後一ケ年間に増加せる體重は、以後五ケ年の増加に匹敵し、又其の後五ケ年間に於て生後一ケ年間の増量を加ふ。身長も亦之と同じく、生後一ケ年間に増加せしものを以後五ケ年間に於て増加し、又其の後五ケ年間に於て同じく生初一ケ年間に増加せしものを増加するなり。

此の時期は乳兒期といひ専ら哺乳によりて榮養分を攝取し、消化と排泄とは其の著しき作用なり。而して人間の發育期間中最も抵抗力弱き時期にして死亡率最も高し。

生後九ヶ月頃に至れば乳齒も次第に生じ、食物も軟かなる半流動食を攝取するに至る。

資料

乳兒死亡の事情

- (1) 遺傳 畸形先天性薄弱遺傳的疾患。
- (2) 母體の缺陷 母體の過勞母體の疾病母體の榮養不良早産分晚異常。
- (3) 乳兒榮養 人工的榮養不消化性食有毒性食榮養不良。
- (4) 住居設備 不衛生的家屋群集生活不潔飲用水の惡質遊園缺乏。
- (5) 氣候 寒暑劇烈濕氣多きこと。
- (6) 母親の育兒に無智なること 育兒の方法及び病兒の取扱に對する無智。
- (7) 社會的 乳兒保護機關の缺乏貧困生活。

一年末に歩行も漸次完全となるものなり。頭部の特に大なるは幼兒の特徵にして腦髓は滿二十五歳の時をひとすれば、滿七歳にして其の四分の三まで成長するものなり。其の發達の速かなるを見るべし。内臟諸機關は抵抗力薄弱なるを以て諸種の病に侵され易し。

満七歳以後は、骨格も定まり、四肢の筋肉發達し、戶外の大氣中に遊ぶを好む。満十歳頃までには乳齒脱落し、永久齒之に代る。此の時期は人生第二の危機して往々消化不良を來し、感情動搖す。

男女平均	體重	身長	頭圍	胸圍
初生兒	2.955斤	48.90厘	33.55厘	32.35厘
第一ヶ月	3.935	56.00	36.70	36.15
第二ヶ月	4.710	58.65	38.55	38.50
第三ヶ月	5.390	60.35	39.50	39.10
第四ヶ月	5.910	61.30	40.10	40.75
第五ヶ月	6.385	62.80	41.20	41.50
第六ヶ月	6.785	64.10	41.95	42.05
第七ヶ月	7.280	65.50	42.40	42.50
第八ヶ月	7.590	67.10	42.90	42.90
第九ヶ月	7.990	68.60	43.40	43.45
第十ヶ月	8.275	70.10	43.80	43.80
第十一ヶ月	8.545	71.95	44.35	44.35
第一年	8.750	73.40	44.75	45.05
第二年	10.350	74.20	46.25	46.50
第三年	11.950	85.15	47.25	47.65
第四年	13.300	91.35	48.35	49.05
第五年	14.850	96.95	49.00	50.15
第六年	16.250	102.60	49.95	52.30
第七年	17.500	107.75	50.25	53.55
第八年	18.900	112.90	50.55	54.75
第九年	20.750	117.25	50.85	56.65
第十年	22.600	121.60	51.40	58.60
第十一年	24.900	126.45	51.80	60.80
第十二年	27.500	131.55	52.15	62.80
第十三年	30.600	139.10	52.65	64.95
第十四年	35.050	142.35	53.20	67.20
第十五年	38.450	145.50	53.65	70.50

満十二歳より満十五歳頃には身長著しく増加し、満十六歳より満十五歳までの間に於て成熟完成するものなり。

資料

體重。初生兒を三千瓦あるものとして、各月に於ける體重増加の割合は磐瀬博士によれば左の如くである。

(月 齡)	(増加の量)(瓦)	(各月末の體重)(瓦)
第一ヶ月	八〇〇	三八〇〇
第二ヶ月	八〇〇	四六〇〇
第三ヶ月	七〇〇	五三〇〇
第四ヶ月	七〇〇	六〇〇〇
第五ヶ月	六〇〇	六六〇〇
第六ヶ月	五〇〇	七一〇〇
第七ヶ月	四〇〇	七五〇〇
第八ヶ月	三五〇	七八五〇
第九ヶ月	三〇〇	八一五〇
第十ヶ月	二五〇	八四〇〇
第十一ヶ月	二五〇	八六五〇
第十二ヶ月	二〇〇	八八五〇

三島博士は、乳児のみならず、幼児童の體重増加表をすつと以前に發表せられ、多くの
人々に常に引用せられて居るがそれは左の如くである。

(一) 乳児體重増加表

(月 齡)	(毎日の増加)(瓦)	(毎月の増加)(瓦)	(其終期に於ける體重)(瓦)
一月	三二〇	九三五〇	三九三五
二月	二六〇	七七五〇	四七一〇
三月	二三〇	六八〇〇	五三九〇
四月	一七〇	五二〇〇	五九一〇
五月	一六〇	四七五〇	六三八五
六月	一三〇	四〇〇〇	六七八五
七月	一七〇	四九五〇	七二八〇
八月	一〇〇	三一〇〇	七五九〇
九月	一三〇	四〇〇〇	七九九〇
十月	一〇〇	二八五〇	八二七五
十一月	九〇	二七〇〇	八五四五
十二月	六〇	一九〇〇	八七五三

(注意) 乳児は生後四ヶ月を經過し第五ヶ月に達すれば其の體重は初生児の體重に
倍するに至り、一ヶ年を經過すれば初生児體重の約三倍となるものである。

(二) 幼児及び兒童體重増加表

(年 齡)	(男 兒)	(女 兒)
初生 兒	一	一
一 歲	六〇(瓦)	五六(瓦)
二 歲	一八	一四
三 歲	一六	一六
四 歲	一三	一四
五 歲	一五	一六
六 歲	一三	一五
七 歲	一三	一二
八 歲	一三	一五
九 歲	一九	一八
十 歲	二〇	一八

其の終期に於ける體重 每年の増加 其の終期に於ける體重
 三〇(瓦) 一四八 五六(瓦) 八五
 一〇八 一二四 一四 一一五
 一三七 一四 一二九
 一五二 一六 一四五
 一六五 一五 一六〇
 一七八 一二 一七二
 一九一 一五 一八七
 二一〇 一八 二〇五
 二三〇 一八 二二三

十一歳	二一〇	二五〇	一一二	一四〇
十二歳	二二二	二七二	三三	二七八
十三歳	二六	二九八	三六	三一四
十四歳	三八	三三六	五二	三六五
十五歳	五一	三八七	一七	三八二

(注意) 小兒の體重は七歳の終末に至りて初生兒體重の約六倍(滿一歳時體重の約二倍)となり十三歳の終末に至りては初生兒の體重の約十倍となる。

身長。男兒は四九糶女兒は四八糶あるが普通である。三島博士の我が國の小兒の發育状態の表を見れば、其の大意がわかる。

(月 齡)	(男 兒)	(女 兒)
初生兒	四九・二(糶)	四八・七(糶)
一ヶ月	五六五	五五五
二ヶ月	五九〇	五八三
三ヶ月	六〇七	五九六
四ヶ月	六一八	六〇八
五ヶ月	六三〇	六二六

六ヶ月	六四三	六三九
七ヶ月	六五七	六五三
八ヶ月	六七二	六七〇
九ヶ月	六八八	五八四
十ヶ月	七〇四	六九八
十一ヶ月	七二二	七一七
十二ヶ月	七三五	七二九

臀部脚部も一ヶ年末には、著しく發達し、歩行も漸次完全となる。頭部の特に大なるは嬰兒の特徴である。

生後九ヶ月になると乳齒が次第に生じ、食物も軟かなる半流動食を攝取するやうになる。滿十歳頃までに乳齒脱落し、永久齒がこれに代はる。此の乳齒の脱落時期は人生の危機であつて、往々消化不良を來すものである。内臟諸機關は抵抗力が薄弱で諸種の病に侵され易い。

腦髓は生後一ヶ年の終には、出生當時の三倍となる。腦髓は其の發達が速かで、滿二十五歳の時をひとすれば、滿七歳迄に其の四分の三まで成育するのである。

脈博呼吸。脈搏と呼吸は、身體の發達するに従ひ、變化を來し、漸次大人に近づくもの

である。

(1) 脈搏 大人は六〇乃至八〇であるが小兒は多い。

(年 齡)	(一分時の脈搏數)
初生兒	一五〇乃至一二〇
一 歲	一四〇乃至一二〇
二 歲	一二〇乃至一一〇
三 歲	一一〇乃至一〇〇
五 歲	一〇〇乃至 九六
十 歲	九六乃至 八〇

(2) 呼吸 大人は一六であるが小兒は多い。

(年 齡)	(一分間の呼吸數)
初生兒	四五乃至三五
一 歲	三五乃至二五
二乃至五歲	二五乃至二〇
六乃至一〇歲	二〇乃至一八

小兒期の區分 學問上で子供は非常に長い間であり、人間がちゃんと育つて

自分を生んだ親と同じ様になるまでの間は動物の中で一番永い。大體二十五年迄は子供であります。無論男と女とは多少違ひますが先づ一番永くて二十五年である。其の二十五年の間に色々な働を現はして世に立つ準備がすつかり出来るやうになるのであります。それですから動物の階級が進めば進む程子供の間に永いのであります。一番下等の動物は生れると直ぐ親になるのであります。之を言ひ換へれば動物は兒童期の永い程高等のものになつて來るのであります。そこで、何ういふ風に人類の兒童期を分けるかといふ事は學問上の大きな問題であるのですが、私は先づ次の表のやうに分けるのであります。

胎兒期	前期	三ヶ月	後期	十ヶ月
嬰兒期	前期	一 年	後期	一・三 年
幼兒期	前期	三・七 年	後期	七・十 年
少年少女期	前期	十・十二 年	後期	十二・十五 年
青年處女期	前期	十五・十八 年	後期	十八・廿五 年

右の如く大體胎兒・嬰兒・幼兒・少年少女・青年處女の五期に分け、どの期も更に前期と後期とに分けるのであります。これから各期の區別に就いて一言致しますが、先づ胎兒期といふのは母の胎内に宿

つてから生れる迄即ち一月を廿八日として十ヶ月の間を云ふのであつて、其の中の三月位迄を前期といふのであります。其の間は人だか他の動物だか男だか女だかよく解らないのであります。二月目の終り頃になりますと、段々形が備はつて大分解るやうになり、三月目の終りになると男か女かといふ事も解るやうになるのであります。夫れから段々と大きくなつて十月目には生れ出るのであります。此の間は胎兒後期で所謂成形期であります。そこで其の生れる日数は人に依つて或は早いか遅いか云ふ少しの違ひはありますが先づ其の生れる迄の間を總稱して胎兒期と云ふのであります。

夫れから生れてから三年迄の間を嬰兒期といふのであります。其の前期即ち生まれてから一年の間は實に非常な發達をする時期であります。又一年から三年迄は第一充實期と申しまして非常に子供の肥る時であります。

幼兒期は三年から十年迄でありまして、其の前期は丁度幼稚園に行く時から小學校に行く頃まであります。我國の學齡とは少し違つて居りますが、學問上何故七年迄を幼兒前期の中に入れてかかと申しますに、子供は滿七年になるといふ機關が完全する。腦髓なども滿七年になりますと、大に發育して來て殆んど成人と同じ大さになるのです。それゆゑ七年を境としたのであります。すべて年齢を限るにはそれ

に理由があるのであります。決して無暗に分けたのではありませぬ。前期は第

一、伸長期というて脊が盛に伸びる時で後期は第二充實期です。

少年期は十年から十五年までの五年間でありまして、其の前期は尋常小學校の終の二年に當り、其の後期は高等小學校を終るか又は中學校の一年生或は二年生を終る頃に當ります。此の間は第二伸長期で脊が盛に伸びます。

夫れから青年期は十五年から十八年までを前期とし、十八年から二十五年までを後期といたします。此の間には心の中に色々な變化が起つて來る。それで子供の時期の分け方は學者によつて色々違つて居りますが、此の表に依れば大體何の方面にもあてはめる事が出来るのであります。(高島平三郎氏兒童心理講話)

第二節 小兒の衣服

(一)衣服 小兒は其の發育速かにして四肢の運動活潑なるは、其の特性なりと雖も、身體諸機關未だ軟弱にして、氣候の變化其の他の障害に抵抗するの力薄弱なるを以て、衣服の如きも之を保護するの目的を以て、其の地質仕立着せ方等に留意するを要す。

(1) 上着は清潔を保つに便なる木綿織とし、間着はフランネル・毛織等保温力大なるものを選び、肌着は軟かにして軽く洗濯に堪ふる白木綿を適當なりとす。

(2) 仕立は運動自在にして血液の循環を妨げざるやう寛濶なるべし。廣き筒袖か、ゆるやかなる西洋服を最も適當とす。

(3) 襯衣は木綿・メリヤス・綿ネル等にてつくり、十分身體を被ひ、且腹部を暖むるに適するやうに仕立つべし。腹部には腹當又は寝冷知らずを用ふべし。

(二) 附屬品 帽子は軽く軟かにしてよく空氣を通ずる地質のものたるべくゆるやかなるをよしとす。

履物は草履又は柔軟なる羅紗靴皮靴等を用ふべし。靴の形は指先の廣がりたるゆるやかなるものを選ぶべし。然らざれば軟かなる骨は畸形を呈し不具の状態となるに至るべし。

小兒の服装上注意すべき點は左の如し。

(1) 厚着は皮膚の抵抗力を弱むるのみならず、運動にも不便なり、注意すべし。

(2) 帶紐等にて強く締めず、ゆるやかなるべし。殊に胸部を紐にて締むるは避けざるべからず。

(3) 上張兼用の前掛を用ひ自由に活動せしむべし。

(4) 服装は清潔整正ならしむべし。汚れたるものは直に洗濯し、綻び破れたるものは直に補綴すべし。

第三節 小兒の食物

小兒の疾病死亡等は榮養の不適當に起因すること頗る多し。榮養の不良は小兒の身體組織を弱め、成長力及び傳染病に對する抵抗力を減少せしむるものなり。されば母たるものは、特に小兒の食物につき周密なる注意を要す。

(1) 食物はすべての榮養素を十分に攝取し得べきものたるべし。殊に蛋白質の如きは其の品質の優良なるものを選び、無機類鹽類・ビタミン等も相當の分量を攝取せしむべし。

(2) 小兒の食物は單純なるべきも決して偏すべからず。食品數品に限られ之に偏する時は必要なる榮養素を攝取するの機會を失し、爲めに種々の

障害を生ずべし。

(3) 食品は新鮮純粹にして調理は單純なるを尊ぶ。刺戟性の香辛料等を使用して調理する時は複雑なる味を好み、不知不識の間に刺戟性の物を好み却つて消化器を害するに至る。なるべく單純なる調理を好む習慣を養ふことにつとむべし。

(4) 食事時間は正確なるべし。猥りに間食を與ふべからず。小兒は身體の發育竝に活動の旺盛なるが爲め消費せらるゝ成分を補充する爲め十分の食量を與ふるを要するも、時間を定めず之を與ふる時は消化作用に故障を起し、疾病を招くに至る。故に定食以外の間食は絶対に避くべし。殊に睡眠中に消化作用を繼續せしむるは腸胃の健全なる發達を防ぐるものなれば、睡眠前に間食せしむべからず。食後菓子を與ふる場合には淡泊なるものを與ふべし。果物の不良なるものは與ふべからず。

(5) 食事は愉快なる氣分を以て爲さしむべし。愉快なる氣分は消化液の分泌を増すものなればなり。

(6) 食事につきては、左の心得を守らしむべし。

(イ) 十分咀嚼し、決して急ぐべからず。

(ロ) 食品の好惡をいふべからず。與へられたるものは必ず食する習慣を養ふべし。之れ母が注意して必要成分を選択し、調理せしものを食せしむるは健康増進上必要なればなり。

(ハ) 食前には必ず手を洗ひ清潔を尊ぶ習慣を養ふべし。

第四節 小兒室

食事・睡眠・入浴の時間を正確ならしむる爲めには、大人と離れたる小兒室あるを便とす。小兒室は日光適當に射入し、空氣の流通よろしく、溫度は三歲位までは寒冷の候は華氏六十度乃至七十度を適當とし、溫和の候には煖房の必要なし。室内の照明は電氣燈を以て最良とす。

室の周圍には棚を造り玩具などの置場にあて、なほ適當なる色彩の繪畫を以て之を裝飾すべし。小兒室に於ては自由に遊ばしめ、玩具を取散らすも放任すべし。但し、長ずるに従ひ、自ら整理整頓せしめ、自治獨立の氣風を養ふことに留意するを要す。

資料

小兒室

- (1) 採光及び空氣の流通よきこと。南向東南向の室がよい。
 - (2) 温度の適當なること。
 - (3) 閑靜なること。騒がしき街道鐵道線路電車線路等に面しない方がよい。
 - (4) 適當の廣さを有すること。
 - (5) 床は掃除に便なるものにして冷却せざるもの。
 - (6) 室内の設備は衛生を第一とし美的趣味を加味すること。
 - (7) 壁間には年齢に應じ趣味ある繪畫を掛くこと。
 - (8) 庭園に接すること。
 - (9) 洗場の設けあること。
- 小兒室の條件
- (1) 衛生的なること。
 - (2) 小兒の年齢男女別に適應すること。
 - (3) 危険なきこと。
- (4) 趣味訓練徳性を磨く資料を加味すること。

第十章 小兒病

小兒病とは特に小兒の罹り易き疾病をいふ。すべて小兒の疾病は經過甚だ急速なるを以て、當初其の手當を怠る時は忽ち重症に陥り、悔ゆとも歸らぬ不幸を見るに至るべし。

(一) 驚口瘡 黴菌の寄生によりて口内に白色の點を生ず。重症となれば白色の點は擴がり、咽喉に至り、音聲出でず、消化不良となりて往々生命に關することあり。不良なる乳汁又は口中乳房哺乳器等の不潔より誘引せらるゝことあり。

驚口瘡 生後二週間以後に起ることが多い。乳房哺乳器等の不潔又は牛乳の不良等の爲めに一種の黴菌の繁殖に基くものである。口腔の粘膜に乳の糟の如き白色の點を生じ、それがだん／＼咽喉及び呼吸器にも擴がり、乳を飲むこと困難で、聲はかれ、咳嗽を發する。速に醫師の治療を受けねばならぬ。

(二) 消化不良 哺乳兒に最も多き病なり。吐乳・下痢異常便等は其の徵候なり。飽食は小兒の消化器に障害を來す原因なり。

飽食となるは(一)授乳時の不規則なること、(二)渴したる場合に水を與へず乳を與ふること、(三)其の消化力に相當せざる濃厚なる食物を與へ過すこと、(四)早く飲ましむること等に原因す。

吐乳は普通のこととして看過すべからず。猩紅熱・麻疹・腦膜炎・急性胃腸カタル等恐るべき疾患に先行することもあり。吐乳を治するには乳の分量を少くし、三時間毎に與へ、或は一時間毎に一食匙づつ與へて治すべく、なほ治せざる時は胃の洗滌を行ふべし。

(1) 食後直に吐乳するは乳の分量多きに失する場合に多し。又急速に授乳せる場合にも吐乳す。

(2) 時を限らず吐乳するは、小兒の腹部を強く締め、腸を壓するに原因すること多し。蛋白質の濃厚に失したる場合にも此の現象を起す。但し此の時には腹痛を起し、大便中に顆粒を混ざるを以て容易に識別することを得べし。

(3) 食後一時間又は二時間を經過して吐乳するものは、酸味を有し豆腐狀に變ずるか、水樣液に顆粒を混ざるが常なり。かゝる吐乳は脂肪又は砂糖の分量過多なるによるなり。

下痢は氣候の變化する時殊に暑さに入る前に多し。其の原因は不適當不潔なる食物又は飽食による不消化の爲めなり。

小兒の便通は一晝夜二三回なるを普通とし、母乳哺育にありては黄色にしてバターの如く、牛乳哺育にありては灰色を帶べる黄色を呈す。新らしきものは弱酸性にして惡臭なし。便中にガスを有し、臭氣強きものは酸酵の兆なり。顆粒・粘液を含み其の性質の異なるもの、水樣便・青便又は硬きものは何れも異常便なり。

吐乳・下痢・發熱を見る時はヒマシ油一劑を與へ暫時飢餓療法を行ふべし。

資料

下痢。小兒の下痢は種々なる原因より來る。食傷による急性及び慢性の腸カタル消化不良・流行性感胃腸結核等は何れも下痢を起す。赤痢・疫痢・コレラ・食餌性中毒症等も下痢を起し頗る危険である。「本文」の下痢は主として消化不良によるものについて述べてある。

(一) 症狀。下痢と同時に腹痛を伴ふこともあれば腹痛のない時もある。急性下痢で

あると同時に嘔吐を伴ふことがある。此の場合に幼児は急速に脱力する。便の回数は一日數回のこととあれば十數回に及ぶこともある。通例初期に輕熱がでる。

(一)手當

- (1) 腸の内容を充分に排除すること。ヒマシ油下劑をかけるのが最もよい。
- (2) 食餌に注意すること。流動食(重湯葛湯野菜スープ等)を少量宛與へるがよい。下痢の輕快するを見て、其の量と濃度を増し、次第に半流動食から粥食にうつるやうにすべきである。
- (3) 腹部に溫卷法を施すとか、巴布懷爐等を用ひて腹部を暖めることがよい。

(三)神經系統の障害

神經系統の故障として一種感情に走り易き状態は、普通不平均なる栄養不十分なる食物より來ること多し。遺傳も亦間接に其の素因を爲す。疲勞不消化・蛔蟲便秘・中耳炎・濕疹・不適當なる衣服等も亦其の原因となるものなり。

其の症状は睡眠の妨害・惡夢・夜驚等を起し、之に附隨して性急となり、しかも

資料

素因 其の人が病に犯され易い種々なる弱點をもつて居ることをいふ。遺傳的に神經過敏であるものは神經系統の故障が起り易い。之を素質の遺傳といふ。神經性素質の小兒は、生れながらにして神經過敏で疲れ易く、聊かの刺戟でも強く感じ、睡眠淺く少しの物音にも眼をさます。

蛔蟲 人體寄生虫の一種で線虫類に屬す。蛔蟲は糞便と共に排泄せられた卵が野菜等に附着し、卵の儘飲食物と共に人の口に入り、腸で發育するのである。何等の症状を表はさないこともあるが時には、食思不振、唾液分泌過多、惡心嘔吐、鼓腸、腹痛を起し、腦膜炎様の症状を呈し、危篤に陥ることがある。侵入防止としては生水を飲まず、野菜などを生食せざることが肝要である。

便秘 便秘といふのは便通が三四日もなく、排泄困難のことである。母乳が不足し、栄養不十分なるために起ることが頗る多い。便秘は又秘結ともいふ。

中耳炎 感冒の爲め、中耳に炎症を起し、或は湯水等の耳内に浸入して、中耳に炎症を起し、頭痛を感じ、發熱して膿を出す等の症状を呈する。

濕疹 滲出性素質を有し、皮膚の弱いものにできる。生後二三ヶ月を経ると頭部に濕疹ができ、顔、頸、腋下、其の他に及ぶ。俗にいふ胎毒は濕疹である。

顔や軀幹に薄紅い圓い粟粒程の發疹が出来、屢水のやうな汁をもち、幾つも一ヶ所に集まる。搔痒強く、かけば汗が出て痂皮となり、濕疹となる。濕疹ができる、睡眠は妨げられ神経質となる。

夜驚 俗にいふ夜泣きのことである。これは神経性體質の小兒に多くあらはれる。夜驚の小兒は睡眠淺く少しのことに眠をさまし、晝と夜とをいりちがへ、寢床によく寝つかない。夜中屢起きて驚くので、母親も安眠が出来ず、取扱に頗る困るのである。

(四)麻疹 麻疹は幼兒に多き傳染病なり。潜伏期は黴菌繁殖期にして病人の呼吸より傳染し、稀には第三者より傳染す。麻疹は世俗之を輕視するも、實は重き病にして、取扱ひ其の當を得ざる時は、虛弱なる幼兒の爲めには恐るべき結果を來すものなり。

麻疹の始めは感冒の如く、眼赤く、鼻濕り、聲かれ、嘔、咳嗽を發し、咽喉は軽く痛み、舌は舌苔を生じ發熱す。かくて第四日に發疹あらはれ、顔面より軀幹四肢にひろがり、二十四時間にして全身に及ぶ。發疹は茶褐色を帯びたる紅色にして軽く浮き上り、小麥大より豆大となる。皮膚は一面に濃紅色となり、含膿疹の觀を呈す。一週間以内にして褐色の皮脱落して回復期に入る。之が毛

當は醫師の指圖を受くべく、強き光線を避け、なるべく暖かなる室に臥せしむべし。

資料

麻疹(はしか)

(一)原因 病原體は未だ不明である。侵入門は呼吸器、鼻腔又は咽喉頭である。觸接殊に飛沫傳染により、又物品が媒介することもある。

(二)症狀

(1)潜伏期は八日乃至十日で熱は特異の熱型がある。第一病日は惡寒戰慄によりて急昇し、翌日は弛張し、其後一二日は中等度なるも發疹と共に再び上昇し、一二日の後下降する。

(2)發疹

(イ)内疹 第二病日に口蓋に表はれる。

(ロ)皮疹 第四病日に先づ顔面に表はれ、軀幹四肢に及び、解熱と共に出現の順序に消褪する。

(3)第一病日に結膜、鼻腔にカタルを生じ、次で咽喉頭及び氣管支にも波及し、遂に肺炎を起すことがある。

三。看護法。

- (1) 病人は有熱中は絶対安靜ならしむべきこと。解熱後と雖も直に離床せしむべからず。
- (2) 食餌は淡泊にして栄養分多き流動食を與ふること。
- (3) 含嗽吸入を行ふこと。
- (4) 病室は温暖ならしめ、又常に水蒸氣を發散せしむること。
- (5) 結膜炎には硼酸水の洗眼を爲すべく、搔痒には亞鉛華澱粉を撒布すること。
- (6) 肺炎を併發すること多し。小兒には危険なるにより注意すること。

(五)百日咳

二三歳の幼兒に多き免疫性の疾患なり。始めは普通の氣管支カタルと同一の症狀を呈す。咳嗽増進し發作的となる。咳嗽は夜間に多し。咳嗽の發作は呼氣の連續にして、時々僅かに強き吸氣を爲すのみ、甚だしきは面部頸部暗赤色を呈するに至る。發作は二三分間にして止み、發作數は病勢によりて異なり、輕きは十回乃至十二回重きは三十回に至る。

病の経過は八週乃至十週なり。發作と共に吐逆すること多く爲めに栄養不十分となり、餘病を併發することあり。食物に注意し液體にして吸飲し得

るものを選び、發作後に與ふべし。

資料

百日咳。

(一)原因 病原體は百日咳菌で侵入門及び傳染経路は麻疹に同じ。二歳乃至五歳の小兒に多い。

(二)症狀 潜伏期は約一週間である。病の経過は之を左の三期に分ける。

(1)カタル期(一二週間) 軽度の發熱があり、結膜鼻腔咽喉頭にカタルを起す、咳嗽は漸次増悪する。

(2)痙咳期(四乃至六週間) 病兒は發作の襲來を前知し、不安を感じ母に抱かれんことを希ふ。

(イ)發作の回数 一晝夜に數回又は數十回に及ぶことがある。夜間には殊に多い。

(ロ)發作の長さ 一發作は十秒乃至三十秒位で二三回反覆することがある。

(ハ)咳嗽の特徴 始め吹笛様の深吸氣あり、次で咳嗽頻發し、咳嗽と咳嗽との間に吸氣なく又一發作の終りに深吸氣をする。

(3)恢復期(三週間) 發作少くなり治癒に赴く。全経過は四週乃至十二週で全治する。

(三)看護法

- (1) 病のは有熱中は勿論解熱後と雖も當分絶對安靜ならしむること。
- (2) 食餌は淡泊なる流動食殊に牛乳を與ふること。
- (3) 含嗽及び吸入を行はしむること。
- (4) 頭部頸部心臓部に氷罨法を施すこと。

(六) 實扶的利亞 咽喉・鼻・喉頭・氣管等を犯す病なり。感染部は炎症を起し汚穢なる白色又は黄色の苔を生じ、之より産出する一種の毒物は實に恐るべきものなり。

實扶的利亞は一歳乃至六歳の幼兒に多く、口粘膜・咽喉にカタルあるものは特に感染し易し。病毒の傳染は病者より直接傳染することあり、或は衣類器具・玩具等の媒介によることあり。

病毒は寒氣乾燥に堪へ、病室に數月若しくは數年間附着す。傳染せし當初は倦怠・不快・頭痛等を訴へ、食欲減退し、舌苔を生じ發熱す。一晝夜内外にして食物嚥下の際微痛を訴ふ。口腔内を検すれば咽喉は充血し、扁桃腺は腫脹し其の上に黄色若しくは白色の舌苔を生ず。呼吸には惡臭あり。

速に醫師を招き注射を施し、嚴重なる隔離を行ふ等すべて醫師の指圖に従

ふべし。

資料

血清注射は一刻も早いがいよい。喉頭デフテリアは氣管切開の時機を誤らぬやうにすべきである。

病原・症狀等は既に述べてある。
看護法

- (1) 病兒はなるべく新鮮なる空氣中にあらしむること。溫暖なる日に郊外の空氣を呼吸せしめ、夜間一二回寢室の換氣をはかること。
- (2) 食餌は消化よろしき滋養物を少量づつ與ふること。
- (3) 吸入含嗽を爲さしむること。
- (4) 恢復期には轉地せしむること。
- (5) 恢復後入浴運動早きは麻痺を起すおそれあり。麻痺を起したる時は按摩電氣治療を行ふこと。

(七) 猩紅熱 六ヶ月以上の幼兒を犯す。傳染性強く惡性なるものあり。微菌は衣服によりて運ばれ、衣服及び寢具中には一ヶ年以上も生活することあり。普通吐逆を以て始まり、皮膚の發疹は首より漸次全身にひろがる。然も

顔面には至らず。色は一樣に紅色を呈し、其の中に更に紅色のビンの頭の如き斑點あり。咽喉は紅色を呈し、發病の始めより、疼痛を感じ、口中には白き粘膜を生ず。舌も最初は紅色の斑點あり、白き舌苔を以て被はれ、後には紅色の輝けるが如き外觀を呈す。

猩紅熱は大抵一週間又は十日にして終り、發疹は五日乃至八日にて治すべし。虚弱なるものは餘病を併發し、中耳炎、リウマチス、心臟病等に罹り易し。患者は直に隔離し、醫師を招き、其の指圖に従ふべし。

資料

病原。症狀等は既に述べてある。

看護法。

- (1) 病兒は有熱中は勿論相當恢復するまで絶對安靜ならしむること。
- (2) 食事は淡泊なるものを與ふること。蛋白質を多量に與ふる時は腎炎を發し易し。
- (3) 頭部に氷枕、心臟部に氷嚢を貼すること。
- (4) 含嗽吸入を爲さしむること。
- (5) 病室は一定の濕氣を必要とす。水蒸氣を發散せしむるか又は噴霧器により硼酸

水を撒布すること。

(八) 疫痢 二歳乃至七歳までの幼兒に多く、夏秋の候流行する急性の傳染病なり。初めは軟便又は下痢を來し、腹痛、嘔吐を催し、次で四十度以上の熱を發し、粘液便を通じ、痙攣昏睡して二十四時間前後にて死するもの多し。豫防法としては患者に近づかず、過食、寢冷等を爲さざるに在り。若し不幸にして病に罹りたる時は速に患者を隔離して、醫師を招き、手當を施すべし。

資料

疫痢。

(一) 原因 赤痢菌又は大腸菌屬等である。主として食物の媒介によつて傳染する。二歳乃至七歳の小兒に多い。

(二) 症狀

- (1) 前驅症として全身倦怠を訴へ、頭痛、嘔吐、腹痛等によりて發病することが多い。
- (2) 熱は病の初に三十八度位に昇り、間もなく四十度以上に至るが常である。
- (3) 便は始めは軟便、不消化便をもらし、粘液便に變ずるのが特徴である。
- (4) 痙攣昏睡等腦症狀を呈し、腹部は膨滿する。

(5) 一晝夜位で心臓麻痺によつて死亡するものが多い。

(三)看護法

- (1) 病児は絶対安静ならしむること。解熱後も然り。
- (2) 發病時は一刻も早くヒマシ油十五瓦乃至三十瓦を内服せしむること。
- (3) 飲食物は渴を醫する外當分絶食せしむること。
- (4) 度々洗腸を行ひ、頭部心臓部に氷罌法、腹部に溫罌法を行ふこと。
- (5) 此の病は經過急激にして死亡率が多いものであるから看護には十分力を盡すべきこと。

(九)水痘 頸部軀幹に赤色の斑點を有する皮膚發疹を生じ、數時間にして豌豆大となり、水をもてる水痘に變ず。水痘は其の周圍に細き赤き線を以て區劃せられ、全身一千個に及ぶ。水疱は漸次乾痂となり、發疹一週間にして全快す。

此の病に罹りたる時は直に醫師の治療を受くべく、痂皮は無理に取去るべからず。取去る時は痕を残す。

資料

水痘

(一)原因 病原體は不明である。病毒は水疱の内容物及び痂皮中に存し、呼吸器から侵入するものゝ如し。傳染経路は麻疹と同じである。

(二)症状

- (1) 潜伏期は約二週間である。
- (2) 熱は時に缺如することもあるが、多くは三十八度乃至三十九度に上昇し、一二日で下降する。
- (3) 發熱と共に發痘する。顔面より軀幹四肢に表はれ、水疱をつくり、約一週間にして痂痕を貽さず落屑する。痘は橢圓形、大小不同、新舊相混することが多い。
- (4) 經過は約一週間である。

水痘と痘瘡との比較

(水痘)

(痘瘡)

- | | | |
|-----------|-----------------|-------------|
| (1) 年 齡 | 小兒に多し。 | 大人に多し。 |
| (2) 前 驅 症 | 缺如す。 | 缺如すること稀なり。 |
| (3) 熱 と 疹 | 熱と同時に發痘す。 | 發痘せば下熱す。 |
| (4) 痘 瘡 | 橢圓形、大小不同、新舊混在す。 | 圓形、一齊、痘瘡あり。 |
| (5) 化 膿 | 多くは化膿せず。 | 化膿すること多し。 |

(6) 經 過 短し。
(7) 癍 痕 のこさず。

長し。
のこす。

(三)看護法

- (1) 有熱中は安靜を守らしむること。
- (2) 痘疱には亜鉛華澱粉を撒布し、又は軟膏を塗擦すること。
- (3) 落屑中は健康兒と交通せざること。傳染せしむるおそれあり。

(一〇)痘瘡 膿疱内に含める病毒が接觸によりて傳染す。潜伏期は十日乃至十四日にして、惡寒戰慄を感じ、發熱眩暈頭痛腰痛を以て始まり、發熱三四日して熱の下降すると共に發疹す。初め赤き小斑にして後水疱となり、遂に化膿して中央に凹を生ず。化膿期九日乃至十三日間は再び發熱す。發疹は顔面より頸軀幹四肢に及び、口腔喉頭及び眼の粘膜をも侵す。十四日位より漸次乾き膿疱は痂皮を結び、熱は下降し、痂皮とれ三四週にして全治す。

此の病に罹りたる時は直に醫師を招き、隔離其の他の處置を爲すべし。發疹後は病人をして破疹せしめざるやう注意すべし。破疹する時は痘瘡の痕を隠すべし。

豫防法としては種痘を行ふに在り。生後三ヶ月以上六ヶ月迄の間は最も種痘に適す。天然痘流行の際は生後一ヶ月以内にも種痘を施すべし。極寒極暑の時生齒の時又は吐乳其の他幼兒の身體に異常ある時等は之を見合すべし。

- (1) 種痘前には入浴せしめ、身體を清潔ならしむべし。
- (2) 種痘善感する時は大豆大の水疱となり、其の周圍は赤くなり、發熱す。約九日にして水疱は膿疱となり、膿疱は漸次結痂す。種痘後は薄く綿をあて、其の上に繃帶を施すべし。
- (3) 種痘後一日は全身浴を見合すべし。其の以後にても種痘を濕し、又は擦るべからず。
- (4) 種痘の痂皮は無理に剝去るべからず。
- (5) 種痘後は身體を清潔にし、襯衣は毎日洗濯し、なるべく柔軟なる木綿を用ふべし。

資料

痘瘡の病原、症狀等は既に述べてある。

種痘。免疫力の發生は種痘後少くとも二週間を要する。種痘の有効期間は善感後五ヶ年位である。

(一)定期種痘

第一期 出生の翌年六月末日迄に行ふ。不善感なる時は更に翌年六月末日迄に行ふ。

第二期 數へ年十歳の十二月末日迄に行ふ。不善感なる時は更に翌年十二月末日迄に行ふ。

(二)臨時種痘 流行時年齢の如何にかゝはらず行ふ。種痘の猶豫

(1) 出生後九十日未滿のもの。
(2) 著しく栄養障害に陥れるもの。流行時には猶豫せず。

(3) 蔓延性皮膚病に罹れるもの。

(4) 熱性病又は重症疾患にかゝれるもの。
醫師より種痘證を交付せられたる時は十日以内に市區町村長に届出で種痘證は十ヶ年間保存すること。

第十一章 感官の發達

感官とは目耳鼻舌皮膚等の感覺作用を掌る機關をいふなり。感覺作用は其の掌る機關の異なるに従ひ視覺聽覺嗅覺味覺皮膚覺等に分たる。出生當初の感覺作用は左の如し。

(一)視覺 生後程なく開くも、眼瞼の開閉、眼球の運動等左右共同ならず。適當なる光明を好み、暗黒を嫌ふ。然れども色彩を見分くるの力なし。四ヶ月に至り眼球の運動整正となり、六ヶ月後に至りて漸く物體の形狀と色彩とを感ずるに至る。

(二)聽覺 初生兒は液體耳中を滿し、鼓膜は水平なるが爲め其の作用を爲さず。二週後に至りて始めて音を聽くことを得、三ヶ月に至り音響にて慰安せらるゝに至る。

(三)嗅覺 其の發達おそし。

(四)味覺 出生の時既に甘酸鹹苦の四味を分つ。

(五)皮膚覺 觸覺・溫覺・痛覺等何れも生初は鈍し。

感覺作用は滿一歳より二三ヶ年間に著しき發達を爲し、滿四歳以後に於て殊に著し。知識に最も關係深き視覺聽覺は勿論皮膚覺其の他の感覺も發達し、外界に對する認識確實となる。

(1) 初生兒の感官は十分に發達せず、刺戟に對する調節作用も亦不完全なるを以て、強き刺戟を避けて十分に保護するを要す。眼は生後二三週間は居室を薄暗くし、漸次日光に慣れしむべく、耳は入浴の際湯の入らざるやう注意すべし。

(2) 感覺作用 感覺作用を明敏ならしむるには感官の練磨を必要とす。握りて皮膚覺を働かせ、視て視覺を働かせ、振りて聽覺を働かすが如き玩具は感官の練磨に有效なるものとす。

資料

初生兒の感覺 初生兒は神經組織不完全なるも、感覺は既に不完全ながら存す。

(一) 視覺 光線に對し、明暗を感じる光覺は、一二週間にしてはたつきができる。色覺は滿二歳後でないとはたつきかない。生れて五六ヶ月は近視的である。

(二) 聽覺 生初は中耳に粘液が充ちてゐるので、聽覺は發現しない。四十八時間以内

に粘液は乾燥し、音の感覺は發現するも、明確なる聽覺は一二週間の後でなくてははたつきかない。

(三) 味覺 生初よりあらはれ、甘味を吸ひ、鹹酸苦味に對しては不快の感をあらはす。

(四) 嗅覺 味覺と同様早くからあらはれ、強い惡臭はこれをきらふ。

(五) 皮膚覺 觸覺、溫覺、冷覺等の所謂皮膚覺は、生命保存に關係ある感覺であるから早くから發達する。

知覺神經が他の刺戟を受け、其の興奮は神經中樞に傳はり、茲に對象物の位置が大小形狀距離等を知覺し、觀念を構成する。

視聽二覺は特に知力の發展に關係があり、其の缺損は心的缺陷の基となるものであるから、之を保護し、適當に練磨しなくてはならぬ。

生後一年より二三ヶ年間は感覺作用が著しく發達する。見聞を喜び、常に已の感官をはたらかさんとし、筋内骨骼等の發達と共に言語をあやつるやうになる。

感官の發達と共に神經の中樞たる腦髓も發達し、兩者の結合作用が著しく進歩して來る。

第十二章 精神作用の發達と教育

第一節 精神作用の發達

生後滿一ケ年を経過せば、感官の發達と筋肉骨骼等の發達とは相俟つて、幼兒の生活に活氣を生ぜしめ、聲帶を働かして言語をあやつる運動も漸くあらはる。又神經中樞たる腦髓と感官との連絡作用も著しき發達を爲し、従つて直觀作用も次第に確實となる。滿三歳頃より記憶作用も次であらはる。想像作用は實に自由奔放にして、諸種の模擬的遊戯となりてあらはれ、又童話を好む。滿五歳以後となれば、觀念の内容も豊富となり、記憶想像の二作用も長足の進歩を爲す。抽象概括の作用も發達し、概念も次第に明瞭となり、因果關係を推究するに至る。

資料

小兒の發達順序

- (1) 乳兒の笑ひかけるのは二ヶ月後であつて、玩具を見せると其の方へ視線を向けて凝視する。あやせば、其の方へ向く。
- (2) 三ヶ月になれば、腹這ひした時頭をあげることが出来る。此の頃になると何だかわけのわからぬ言葉を出す。
- (3) 四五ヶ月になると頭がしつかりとすわり、玩具を握らせると靜に握つて居る。可愛い聲を出して笑ふ。
- (4) 六ヶ月になると玩具を見せると手にとつて握る。七ヶ月になると座ること寢返りすることが出来、漸次人見知りを始める。
- (5) 九ヶ月になると後へするやうになり、十一ヶ月になるとつかまつて立ち、家族の人々をはつきりと見覺をする。
- (6) 一ケ年になると二足三足歩行する。他人の話を理解し、片言をいひ出す。歩行の確實に出来るのは十三ヶ月乃至十五ヶ月である。
- (7) 二年以後には言葉も漸次完全となり、二年半から三年になると何でも理解し、談話をするやうになる。

小兒の動作表

- (動 作) (最初動作して見る) (正當に動作し得る) (備考)
- 首をふる 一 週 十六週

自身で首を真直にする事の出来る	十一週	十六週	
握る	十五週	十七週	
身體の上部だけ真直にする	十六週	二十二週	臥て居て起直る
物を示す	三十二週	三十六週	
倚る(腰を掛る)	十四週	四十二週	倚り掛なしに
起つ	二十三週	四十八週	自由に起立つ
捉なしで立つ	二十八週	六十六週	自身で歩行
歩行	四十一週	七十週	
木に攀る	九十六週	百十週	
飛蹴る	百十週	百二十週	
言ひたいことを語でいひ出す		五十六週	男兒は女兒よりも遅し
思ふことをする		四十四週	食物を膳より取つて口へ入れる

(三島醫學博士調査)

嬰兒期の區分

(1) 仰臥期 運動自在ならず唯蒲團の上に臥て居て看護者任せになつて居る。
 (2) 安坐期 百日以上にもなると體の上部を真直にし漸く倚り掛かることなしに腰

を据えて坐つて居る。

(3) 匍匐期 六七ヶ月後になると漸く兩手と兩足を付けて匍ひ或は臀をすつて進み起つことを試みる。
 (4) 起立歩行期 滿一ケ年にもなると物に倚つて起ち日ならずして獨り起ちをするやうになり次第に歩行する。

小兒の精神の發達

(1) 胎兒期 これは字によつても分ります様に、受胎によつて母の胎内にやどりましてから、生れ出づる迄の間を云ひます。普通その期間は二百八十日間であります。この間の胎兒の發達程めざましいものはありません。私共人間の遠い遠い祖先と云ふべき單細胞の動物がこの世にあらはれましてから、今日の人間に至りますまでの長い長い間に行はれた進化が、この二百八十日間に行はれるのです。それ故初めはアミイバの様な單細胞でありましたが、分裂して二つの細胞となり、又分れて四つ、八つと云ふ風にだんだん複雑な組織をつくり、或時は、ナメクジの様な時代を経、又或時はオタマジャクシの時をすぎ、内臓が出来、手足が出来ると云ふ風にいろいろの發達を経まして、遂に人間の時代に到着する驚くべき時代であります。生理學者はこの時代において、遠い／＼昔から今の人間に至つた進化の道程を經過して來るものであると云つて

居りますが、全く私共人間の一生の中この間程、短日月の間に進歩し發達する時期は他にありません。けれどもこの時期は心理學上の立場から論ずる範圍ではなく、生理學の領分でありまして、心理學的に考案の出來ますのは、次に述べます。嬰兒期からであります。

(2) 嬰兒期 この期は赤ん坊が産聲勇ましくこの世への第一歩をふみましてから後三年間程の間を云ふのであります。この時期に屬する赤ん坊はその精神内容即ち見たり聞いたり、さばつて感じたりすることも貧弱でありまして、何も彼も本能的即ち生れついたまゝに行ふ時代であります。泣くこと、乳を吸ふことと、眠つたり放尿したりする外に何の能もない様な時代でありまして、たゞ嬉し相なお顔をしたり、お父さんやお母さんの顔を見て、にこにこ笑ひ出したり、音のする方へ顔をむけたりする様な時代であります。それ故この時代のことは大人になつて何も覺えて居らぬ程心に感じると云ふ様なことはないのであります。

(3) 兒童前期 これは四才から七才までの間を云ふのでありまして心もからだもこの時期の間に非常に發達してまゐります。即ち、よちよち歩きの時代から進んで、活潑に走りまわる様になり、片言かう正しい言葉へと變つて來ます。又この時代から記憶の力も出來て來ますし、いろ／＼の事を想像する力も出來て來る時であります。けれ

資料

本能。生れたてのこどもが誰からも教へられないのに乳を飲むことを知つて居たり、少しく成長すると匍匐したり、又歩くやうになる。これは幼兒が生れながら知つて居るのである。之を本能といふのである。

心のはたらきの十分に發達しないこどもは、自分の考で自分を律することはできず多くは此の本能によつて左右せられる。然し本能は遺傳的のものであるから、他から適當の處置を與へると發達させ進歩させることができる。

(三) 模倣本能 早くよりあらはれ、運動稍、自由となるや不完全ながらも、早く既に模倣を始め、満三四歳頃最も盛なり。

資料

模倣。人のまねをすることは小兒も大人も共通の強い本能である。こどもが友達の持つて居るものをほしがり、大人が着物の流行を追ひ、髪結び方をまねるなどは此の本能である。此の本能はこどもの時は一層激しい。

(四) 好奇本能 早くよりあらはれ、新らしき刺戟ある時は、直に其の方を注視し、手を延し、物を取り、之を振り動かし、或は口に運びて之を舐る等種々の試み

を爲す。言語使用に習熟し、想像作用の發達するや、好奇心は益々發達して質問を頻發す。

資料

好奇心。 退屈して新らしいものを求め、又珍らしいものを求めるといふことから、求知心即ち知識を求める心は現はれて来る。言語使用に習熟し、想像作用が發達すると、或る一つの現象を見ると直にこれはどういふわけか、これはどうなつて居るか、先から先に疑問を進め、其の解決を求めて行くのである。此の心あるによりて人の知識は進歩して行くのである。

こどもは如何なる物でも珍がり、聞きたがり、見たがり、或は手に取つて調べたがたりする。即ち外物を取り入れて我が心の材料とする傾向が著大である。故に此の心を巧に導き利用して行くことは頗る大切なることである。五月蠅い。だまつてお居で……など禁止せぬがよい。疑問を解釋してこどもに満足を與へてやらねばならぬ。「何」「誰」「どうしたの」「何故」といふ言葉はこどもの知識を開く鍵である。

(五)遊戯本能 生後六七ヶ月頃より玩具を遊び、十ヶ月以後には簡單なる戯れを喜ぶに至る。想像作用發達するに伴ひ、戦争遊び、姉妹遊び、飯ごと等の遊びを爲す。遊戯性に伴ひて歌謠性亦大に發達す。

資料

遊戯。 遊戯は平生つかはない筋肉を使ひ、平生働けない心をはたらかせるからこどもの發育上に最も大切なることである。

(六)社交本能 友を求め、他の承認を求むる本能は満二歳頃より漸く盛となり、父母の賞讃を喜び、羞恥の念を生じ、嫉妬、敵抗、争闘を爲すことあり。満三四歳頃には著しく發達し、同情、愛情等も發露するに至る。

資料

社交本能。 一人で居たくない仲間がほしい、一人ぼつちは特別の場合の外は苦痛である。特に子供は仲間をほしがらる。此の本能は將來社會生活をして行く上に必要なものである。自分の思ふことも通らず仲間と喧嘩することがある。其の結果何れかと讓歩する。讓歩せぬも物分れとなる。然しまた元の如く遊ぶ。遊んだり喧嘩したりして居る間に團體生活の訓練を受けることになるのである。

(七)所有本能 満二歳頃より玩具、其の他の自然物を多く蒐集し、所有を喜ぶ。満四歳頃には獨占せんとする念強く、朋友と衝突すること多し。

資料

所有本能 集め貯めたがる欲でそれから所有觀念が發達して來る。大人が見て何の役にも立たないやうな物でも若し之を取つたり捨てたりするとこどもは大に怒る。四歳頃は殊に所有本能が強い。獨占せねばきかぬ。共有などは絶対に出來ない。所有觀念は之を正當に發達せしめなくてはならぬ。自他所有の區別がつかないと他人のものを盗むやうになる。

(八)感情本能 啼泣歡喜憤怒恐怖等は何れも感情本能にして、最も早く現はるゝものは啼泣なり。恐怖は生後一二週間にしてあらはれ、憤怒は生後一二月よりあらはる。顔面の筋肉が笑の如き運動を起すことは早くより認め得らるゝも全く器械的にして眞の笑にあらず。眞の笑は生後四五十日にして始めて生ず。嬉しき時は笑と共に歡聲を發し、四肢の運動を伴ふものなり。満三歳頃までは、感情は概ね感應なるも満四歳以後より次第に情緒に移り喜怒哀樂の情緒最も強大となり好惡の情著しくあらはれ、我儘となる。

感應とは感覺に伴ふ快不快の感にして、情緒とは自他の利害に關係して起る快不快の感情をいふ。

母たるものは子女精神の發達に留意して、機會をとらへ、知情意各方面の鍛錬に留意し、徳性の涵養につとめざるべからず。

資料

歡喜啼泣 歡喜の情のあらはれとして笑が最も著しいのであるが、これは生後凡そ四五十日の頃始めて認めることができる。それよりも早く寝て居る時などに笑ふのは眞の笑ではない。生理的の刺戟に過ぎぬのである。

苦しいことを現はす表出は愉快を現はすものよりも遙に多い。これはこどもを保護する自然の妙用である。

憤怒 生理的怒りといふのは何等の意味もなく怒りの表出をする。自然の本能によつてかゝる表出をするのである。ダーウインは生れて四十日ばかりのこどもに怒りの表出を見たといつて居るのは、此の種の怒りである。一ヶ月にもなれば憤怒の情は表はれる。三四歳頃になると情緒的の怒りを發する。誰れが相手があつて自分の思ふやうにしないと、自分に害を加へたとかいふことを知り、復讐の考で怒るのである。即ち自分が害せられたといふ感じと、害を加へた相手方の觀念と之に復讐しやうとする情とが混じて居るのである。更に進むと其の智力で怒を抑へて居て復讐の時方法等を考へるやうになる。これは青年時代でなければ現はれない。

恐怖。危険を豫知したら之を避けて逃げんとする心は生れつきもつて居る。大きな音がすればびつくりしたやうな様子を、見なれぬ恐ろしげなものを見るとおそれる。又人見知りをするのも此の類の恐れである。三四歳頃になると種々の経験を、して恐れるやうになる。更に想像をして恐怖心を起すこともある。

同情愛情。此等の感情も初めは生理的のもので何等の意義なしに生理的刺戟から起るのである。それが心理的の同情道德的の同情といふやうに進んで行く。五六歳頃になると心理的の同情が起る。例へば母の病氣に對し自分の経験からさぞ痛いであらうと同情するのである。道德心が發達して來ると道德上からの同情心が湧くやうになる。

愛情もこどもの生理的要求を満足せしめてやることからこどもは自然と母や乳母を慕ふやうになる。乳をのませてくれる人を慕ふので愛の最も單純なるものである。次に聲とか形とか顔とかいふ外形上から感覺を満足せしむるより感覺的愛情が起り久しく一緒に居るとか、長く事を共にして居るといふことから固着的愛情が起る。

感情の種類

感情は感應情緒情操の三つの段階に分けることができる。感應は生理的で、情緒は憎い、可愛い、恨めしい、悲しいといふやうに對象物があつて其の物に依つて現はす感情である。情操といふのは眞理の爲めに眞理を愛し、美の爲めに美を愛し、善の爲めに善を愛する情であつて、青年の時に至つて發達するので、幼少の頃には現れはない。

第二節 言語

小兒は約六ヶ月にして種々の運動によりて發聲の準備を整へ、滿一ヶ年より三ヶ年に至る間に於て日常生活に必要な言語を理會し、使用するに至る。始めはバ・マ・ブなどの單音を發し、次に此等の單語を結合して意味なき音を續け様に發す。之を喃語期といふ。更に進みてはワンワン・ニャー・ニャーの如く自然の音を眞似、漸くイヌ・ネコ等の意味ある言語を發するに至る。之を單語期といふ。三歳頃より單語を結合して自己の思想を發表するに至る。言語は思想交換の要具たるのみならず、人の品格をも表はすものなれば、父母たるものは、喃語期の頃より、言語教育に留意して、正しき發音を爲さしめ、野卑なる言語を使用せしめざるやう注意すべし。又幼兒は模倣性に富むを以て、父母兄弟等は家庭に於ける言葉遣に最も注意せざるべからず。

資料

言語は初めは主として母音が出る。次に發音し易い子音が出る。生後三四ヶ月にもなるとパパママ等の語ができるやうになる。聲を出すには肺・喉頭・聲帯・口腔・舌・齒唇・鼻腔等の部分が其に作用するを要するのであるから、此等の器官の保護が大切である。一年頃になるとワンワン・オン・マ・モー・モト等の單語を發するやうになる。

第三節 玩具

玩具は感覺・知覺を練り、自己活動を促し、創造力を養ひ、手指の巧妙なる運動を奨め、愉快なる感情及び注意・忍耐等の意志を陶冶する等、其の效果頗る大なるものなり。玩具は生後四五週より始まり、満二歳より十歳頃までは盛に用ひらる。

玩具には種々あり。之れが選定には大に注意を要す。

- (1) 感覺器官の練習・知識の啓發上に效果あるものたるべし。
- (2) 筋肉の活動を進め、意志の鍛鍊を爲すに適するものたるべし。
- (3) 形態・色彩等調和宜しく、美的心情を養ふに足るものたるべし。
- (4) 可愛らしく、又楽しく遊び得られ、道徳上無害なるものたるべし。恐怖・野

卑殘酷の心情を起さしむるが如きものは排斥せざるべからず。

- (5) 形式・構造共に單純にして容易に遊び得らるゝものたるべし。
 - (6) 衛生的條件に合し、身體上の危害を生ずることなきものたるべし。
 - (7) 安價にして耐久性に富むものたるべし。
- すべて玩具は粗惡不適當なるものを多く與ふるよりも適切なるものを精選して與ふるを可とす。玩具は丁寧に取扱ひ、猥りに破壊せしむべからず。五歳頃より自己の玩具を正しく整理する習慣を養ふべく、稍長じては自ら玩具を製作せしめ、發明工夫の念を養ふことにつとむべし。

資料

玩具を目的より分類して見れば如何なるか。

智力的のもの……感覺・味覺・觸覺・聽覺・視覺の練磨。記憶・想像・推理等の作用を練磨するもの。

訓練的のもの……氣の短きものを長くさせ、ぐずぐずして居るものを機敏にせしめ、疎略のものを緻密ならしむ。

審美的……美的感情を起さしむるもの、色・形・排列の仕方等。

體育的のもの……ボール・輪投げ・お手玉等身體を動かして遊ぶもの。

兒童の發達と玩具

(1) 觸覺か味覺かに訴へる簡單なもの。(初期)

(2) 受動的に視覺と聽覺とに訴ふるもの。じつと見て居るとか聽いて居るもの。

(二三歳)

(3) 發動的のもの。自己の意思により、鳴らし、動かし、種々變化させるもの。(三歳以後)
小兒の發達と玩具遊具

(1) 嬰兒期 おしやぶりを弄び、物を把み、又は握る遊、でんでん太鼓、風車、人形遊、飯ごと等。

(2) 幼兒期 木馬、竹馬、獨樂、紙鳶、土握り、小石、貝拾ひ、繩飛び、鬼ごっこ、隠れん坊、戰爭遊、旗奪、追羽子、毬遊、學校遊、商ひ遊等。

(3) 少年少女期 前項の外、犬を愛し、猫を喜び、鳥を飼ひ、園藝を爲し、角力競争を好み、遠足を喜ぶ。

(4) 青年處女期 前項の外、ベースボール、フットボール、ローンテニス、擊劍、柔道、遠足、登山、水泳等。(乙竹岩造氏教育學)

玩具の選び方 玩具はかくの如く、心身の發達に伴ひ、其の選擇の標準を異にすべきであつて、衛生上教育上から見て、次の標準に合するやうなものを選ぶべきである。

(1) 衛生的條件に適し、且つ危険ならざるもの 材料、繪具、形體の上から見て、危険ならず、且つ時々洗滌し得られるものがよい。

(イ) 材料 プリキ、われ易き硝子などでつくつたものは、怪我し易く、危険であるからよろしくない。

(ロ) 繪具 有毒な繪具があつてあるものは、衛生上よろしくない。何でも口にもつて行く時代の幼兒には、色のづいて居ないものゝ方が安全である。

(ハ) 形狀 角のするどいもの、目や手をつきさうなものなどは、怪我をしやすい。

(2) 好感を與ふるもの「ある教師が東京土産にビツクリ箱をかつて友人のお嬢さん……五歳で頭腦の極めて鋭敏な……に與へた。キツト氣に入るにちがひないと思つてお嬢さんの前へ出し、トンとふたをたゞくとぬつと蛇が頭をあげた。舌切雀のわるいおばあさんのつらでした。お嬢さんは驚くまいことか、青くなつて暫くすると母にすがりついて泣いた。皆で笑つてなぐさめた。然しそのおもちやは決して手にせず、其の先生に對してまで好感をもたなくなつてしまつた。」といふことを聽いて居る。幼兒は第一印象の極めて強いもので、これに強く支配せられるといふことがこの一例でもわかる。こんな恐怖心を起させるものはよくない。可愛らしく好感を與ふるものでなくてはならぬ。

(3) 形式構造共に單純なるもの 形式構造のあまり複雑なるものは却つて小兒の興味をひかぬ。單純なるものは容易に使用することができ遊び得られる。又小兒の工夫力を導く上に於ても有效である。

(4) 美的情操を養ふもの 色彩だとか形状だとか音だとかが美的に調和して居るものがよい。いやな感じを與へるものはよろしくない。女の兒などは殊に然りである。

(5) 道徳上無害なるもの 徳性涵養に適するやうな玩具がよい。賭事に類するものや、争鬭本能を助成するやうなものは避けたがよい。

(6) 安價にして耐久なるもの 高價にしてこはれ易いものは避けたがよい。避けなければならぬ玩具。

(1) 危いものを避けること。材料がブリキ硝子などで造つたもの、繪具の有害なるものはよくない。

(2) 子供の恐れるものを避けること。びつくり箱から蛇のでるやうなものはよくない。第一印象がわるいと臆病になつてしまふ。

(3) 壓な感じを起さすものは避けること。どく／＼しい色彩や見た時いやだと思ふやうな形のもの、氣持のわるい音のするものはよくない。美的情操を養ふに足る

ものがよい。

(4) あまり複雑なるものを避けること。複雑すぎるとこどもの興味をひかぬ。又新しいものを工夫する導きにならぬ。單純で何か變つたものをつくり出せるやうなものがよい。

(5) 野蠻的なものは避けること。サーベル、鐵砲の如き尙武の氣象を養成するにはよいやうであるが、戦争に興味をもたせるのはよくない。

玩具の與へ方

(1) 玩具は、一時に多く與へない方がよい。心身の發達に適合せるものを精選し、少しづつ與へ、愉快に熱心に根氣強く工夫想像を働かせつゝ遊ばしめるがよい。小兒がある玩具にあいて粗末に取扱ふときは一時取りあげて保管しておいて、他日又與へるやうにすべきである。

(2) 小さい時期には男女共通でよいが、漸く長じては性別により其の性に適したものを與へるがよい。例へば女子には、人形、お手玉、羽子板等、男子にはボール、麻等を與へるが如きである。

(3) 小兒の性質を見て、其の性質の助長、矯正に資するに足るものを與へなくてはならぬ。

- (イ) 感じの鈍きもの 好奇心をそよるやうな玩具を與へる。
 - (ロ) 不仕末なるもの カード臺所道具などを與へて仕末をせしめる。
 - (ハ) 落つきなきもの 積木わなげ組立繪棒さし折紙等を與へて落ついて仕事をす
る習慣をつける。
 - (ニ) 憶病なるもの 輪竹馬木馬風羽子板等を與へて活動せしめる。
 - (ホ) 知力のすぐれたるもの 積木諸種の細工等創造力を十分はたらかせ得るもの
を與へる。
- これ等はほんの一例であるが、之に準じ、與へ方に注意すべきである。
- (4) 賭事に類するもの、危険なるものは與へぬ方がよい。小兒は他の者が持つて居るとそれを見て直にねだるものであるが、常に教育的の立場を失はぬやうに彼等を導くべきである。
 - (5) 季節に應じて玩具を與へなくてはならぬ。
 - (6) 稍長じては、小兒自ら玩具を製作せしめ、發明發見の力を練るやうにしたい。近來自作玩具が獎勵さるゝがこれは最も理想的である。

第四節 繪畫手工

幼兒は好んで繪畫を見、又之を描き、簡單なる手工は大に之を喜ぶものなり。彼等の描く繪畫は其の心意の表現にして仔細に之を研究すれば、よく彼等の精神活動の有様を知ることを得べし。

繪畫手工は感官を練習し、觀察工夫の心力を練り、知徳の啓發上に大なる關係を有す。繪畫の選定に關しては、智育上、徳育上、衛生上等各方面より考察すべきこと玩具に同じ。

資料

小兒は繪畫を見且つ之を描き、又簡單な紙細工や竹木細工等の手工をするものである。故に之を適當に指導すれば、覺官の練習となり、知力の啓發徳性の涵養ともなる。繪本はあまり色彩の濃厚でない、極氣持のよいあつさりとした色をつかつたものがよい。俗悪なものは避けねばならぬ。繪本中の文字もなるべく大きく印刷の鮮明なものがよい。

教育上から見て、内容の教育的なもの、こどもの生活に合致せるものがよい。悪戯又は脱線的滑稽的のものはよろしくない。娛樂のみならず知識感情を支配するよき感化を與ふるものを選ぶべきである。

第五節 童話

幼児が言語を發するに至れば、機會ある毎に自己の思想感情を發表し、他人の談話を聽かんとするものなり。故に此の傾向を利用して、言語を練習し、知徳の啓發につとむべし。而して之が方便として童話を利用すること最も適切なり。

童話には民族童話、武勇譚、寓話、假作物語等あり。

(一)民族童話 桃太郎の話の如く、民族間に流布し、老人より子孫に傳へられたるものにして定まれる作者なし。然れども民族精神は最もよくあらはされたるものなり。

(二)武勇譚 英雄豪傑の傳記を詩化したるものなり。

(三)寓居 教訓を中心としたる譬喩的説話なり、イソップ物語の類之に屬す。

(四)假作物語 太郎次郎花子等人爲的に或る主人公を設けて説話を構成したるものなり。

武勇譚は稍長じたる兒童に適し、寓話は動もすれば不條理に陥ることあり。

假作物語はあまりに人爲的にして興味うすし。民族童話は比較的有効なり。

- (1) 童話は兒童の心意の發達に應じ、理解せられ興味を惹起するに足るものたるべし。
- (2) 徳性涵養上有效なるものたるべし。殘虐なるもの、恐怖の念を起さしむるものは避くべし。
- (3) 題材は各方面にわたるを要す。

資料

お伽話 お伽話といふのは總稱であります。是れには大體次のやうな區別があります。(一)普通にいふお伽話は昔から誰が作ったといふことなしに其の國民の間に傳はつて居るもので、之を民俗お伽話と申します。我國の桃太郎の話や、かち／＼山の話などは即ち是れであります。又(二)教育者や文學者が特に子供の爲に作るお伽話があります。之を假作譚と申します。巖谷さんなどの作られるものは即ち是れであります。又(三)イソップ物語のやうな寓話もお伽話の中に屬しますし、(四)岩見重太郎や宮本武藏の話なども武勇談としてお伽話の一種に屬するのであります。武勇談は此の時

代の子供にはまだ早いのでありますが、前の三つは何れも此の時代の子供に喜ばれるのであります。お伽話を子供に聞かせるには注意して残酷のことや不條理のことや悪事をそゝのかすやうなことの含まれて居るものを避けねばなりません。幸にして我國のお伽話にはあまり極端な空想に馳せたり、不條理のことが多かつたり、或は悪事をそゝのかすといふやうなものが少いのであります。併し、かちく山の話のやうにお婆さんを臼で舂いて汁にして食べるなどといふことは、今日の人情に適しませんから、ほどよく變化して話すがよいとおもひます。(高島平三郎氏)

童話の效果。此等のうちから、材料を精選して、小兒の心意發達階段に應じたるものを話してやれば、小兒をして其の欲求の満足を得しむるのみならず、

- (1) 知見を増さしむること。
- (2) 言語を理解せしめ、語彙を増加せしむること。
- (3) 内容により、愛情忠實、勤勉、勇氣、協同、義俠、親切等の美德の涵養に資し、偉人崇拜、因果應報等の道德的信念を強固ならしむること。

等の効果を收むることができる。

童話は貴い効果をあらはすものである。

太田經濟學博士は「經濟讀本の」緒言に次のやうなことを書いて居られる。

「桃太郎は桃から生れた。彼に親はない。——人は、獨立心をもたねばならぬ。

彼は鬼を征伐に行つた。鬼とは、人でなしである。これを征伐するのは、世の正義をしらしめるにある。まことに貴い仕事である。

氣のやさしくて、力のある彼は、すでに働く力をもつてゐる。榮養分の多いキビダンゴは、さらに力づける。しかも、彼はただの男でない。雉の智と、犬の才と、猿の能とをよく利用し得る男である。分業の利を知り、犬と猿とを争はしめない。圓滿な指揮者である。そして彼は、目的どほり鬼を征伐した。寶を獲た。しかし、ただ、みづからの物とはしない。これをよく分けた。我利我利ではない。分配の道を忘れない。子供のとくに教へ込まれた、このおとぎばなしは、いまになつても、貴い話と思つてゐる。」

又穂積陳重博士の「法窓夜話」といふ書の序を長男なる重遠博士が書かれて居る。

「父は話好きであります。私が子供の時には、父は御定まりの桃太郎から始めて大江山鬼退治の話などをして呉れたものです。私が段々成人すると共に、父の話も次第に子供離れがして來まして、私が法科大學生の時代には、自然法律談が多く出ることになりました。併し父は六かしい法理論や、込み入つた權利義務の話は餘りしませんでした。私とても學校で散々聞かされた後ですから、面倒な話はなるべく御免蒙りたい

方です。父が好んで話した法律談は、法律史上の逸話、珍談、古代法の奇妙な規則、慣習、法律家の逸事、扱ては大岡勘吉と云つた様な所謂「アネクドット」でありました。毎夜十時と云ふのがいつか父と私との間の不文法になつて、私は父の話を聴くのが楽しいのか、或は自分の勉強を止めるのが嬉しいのか、いつも其時刻を待ち兼ねて父の書齋を叩きます。父も好い加減讀書に倦み執筆に勞れた頃とて、直ちに筆を擱き机を離れ、冬は「ストーヴ」を圍み、夏は「ヴェランダ」に椅子を並べ、打ちくつろいで、茶を啜り、菓子をつまみながら、順序もなく連絡もなく、思ひ附く儘に前申す様な法律談をするのが常でした。私は其昔桃太郎に目を丸くし、大江山に胸を躍らしたと同じ興味を以て其話を聴きました。したが、桃太郎や大江山の様に幾度となく繰返して貰つて覚え込んでしまふのは惜しいには行きませんので、中にはどうやら其談話を其儘聴き流しにしてしまふのは惜しい様な氣がするのもありまして、暇々に思ひ出しては書き綴つて置きました。云々

こどもの思想を支配し、將來の生活に如何に大なる影響を與ふるかはかり知ることにはできぬ。話題の選擇の必要なる所以もさとられるであらう。穂積博士の此の文を讀むとそこに親子の美はしい情があふれて居るのを感じしめられる。家庭の團圞が如何にうれしい美しいものかといふことも暗示される。

童話取扱上の注意

- (1) 談話は愉快にできかせ、理解能力に適したる言語を用ひなくてはならぬ。又お月見お節句などに其の季節に適合したものを話すと印象が深いものである。
- (2) 談話する時には、已れ話中の人となり、材料を活躍せしめなくてはならぬ。
- (3) あまり教訓に馳することなく、自由なる想像力に結合するやう自然的に話をすゝむる方がよい。
- (4) 材料は愉快、快活、安慰等の感じの残るものがよい。殘虐、冷酷、恐怖等のいやな感じの残るものもよろしくない。
- (5) 童話は六七歳頃までできりあげ、十歳頃から歴史的英雄談、發明發見談等の事實談を選擇すべきである。

童話で一番注意しなければならぬこと。かよい頭を強く刺戟するやうな慘酷なものや、繼母と繼子の話や、又全く理に合はぬ不思議なものは避けなければならぬ。何故なら子供には第一印象といふものが最も大切であるからである。初めにはちつとも犬をこはがらなかつた子供が一度犬にひどく吠えられたので、それ以後は犬をみるとむやみにこはがるといふやうなことや、又學校に上つた當時、何かのことでひどく先生から叱られたやうな場合、以後はその先生の前では一言も發することが出来ないやうになるといふまうな事がよくある。かように初めてうけた印象は、生涯頭に印せら

れながく忘れませんから、慘酷な話や恐ろしい話は避けなければならぬ。

第六節 徳性の涵養

吾等の品性の基礎は家庭に於て養はる。母たる者、特に注意して子女の爲め美徳の陶冶に努力せんことを要す。

(一) 誠實 誠實は萬善の基礎なり。虚言僞善を戒め、常に正道を踏み、至誠神に通ずるの人格を形成することにつとむべし。表裏ある言動はつとめて排除すべし。

(二) 従順 父母長上の命によく従ふは従順なり。従順は子弟第一の美徳なり。従順の美徳を養成せんには父母長上たるもの其の發する命令につき大に注意せざるべからず。

(1) 命令は其の數の少なくすべし。然も實行の可能性十分なるものたらざるべからず。

(2) 命令は一旦發したる上は之を取消し、又は變更することあるべからず。

(3) 命令は前後矛盾あるべからず。父母竝に家族の間に統一あるを要す。

(4) 命令は愛ある中に權威あるべし。報酬によりて實行せしむるが如きことあるべからず。

(5) 禁止的消極的ならんよりは、寧ろ積極的獎勵的なるべし。すべて機先を制するを要す。

(三) 秩序 食事起臥等の時刻を守ることより、整理整頓をよくすること等、すべての行動に規律秩序あることは、吾等の生活に最も必要なることにして、幼時に於て牢固たる習慣を形成することにつとめざるべからず。

(四) 克己忍耐 克己忍耐は處世上必要なる徳なり。奢侈怠惰放縱等は一生を誤るものなれば、幼少の時より、質素勤勉敢爲努力以て向上の途をたどるの美徳を養ふこと肝要なり。

(五) 禮讓 幼兒の天真の美を損せざる範圍内に於て、食事の仕方、父母長上への朝夕の挨拶出入の挨拶より、順次一般の事項に亘りて指導すべし。

資料

小兒の虚言。スタンレーホール氏は(1)想像的のうそ。(2)黨同性のうそ。(3)利己的のうそ。(4)義侠的のうそ。(5)虚榮的のうその五つに分類して居る。

今重なるものに就て述べて見やう。

(1) 想像に基づくもの 小兒は想像心が強いから、往々不知不識虚言に陥ることがある。朽繩を見て蛇が居たなどいつて走つて歸るなどは之に屬する。

(2) 利己的なるもの 學校におくれし時に朝寝したるにもかゝらず、おつかひをして居たとか、途中で鼻緒がきれたとか、自分に都合のよいことをいつて相手方をだますのである。

(3) 黨派心によるもの 自分の味方には眞實をいひ、敵には虚言をいふ。

(4) 義侠心に基づくもの 兄弟又は學友等が父兄又は教師に叱られる際に、自ら其の罰を着て「それは私がいたしました」など、義侠心を出してうそをいふことがある。

(5) 虚榮心に基づくもの 友達がいろ／＼の玩具を持つて居るのを見て、家にかへれば澤山玩具があるとか、何もあるかも知ると……まけん氣になつてうそをつく。

(6) からかひ半分のもの はげたる爺さんをかからかひ、「お爺さん頭に蠅がとまつて居るよ。」など、うそをつく。お爺さんは本當と思つてはげたる頭をとんとたく。子供等はヤンヤとはやしたてる。

悪意に基づく虚言を吐くやうになれば、普通的手段では矯正が出来ぬ。父母は公明

の精神を持ち、誠心誠意の存することを其の子にさとらせることが必要である。又、こども自身が虚言の非をさとし、自ら苦痛を感じるやうにすべきである。好模範を示し、之をこどもの心に染ましめ、約束を守ることを實行せしめなくてはならぬ。

服従の種類

(1) 暗示による服従 早くより現はれるのは親の暗示による服従である。小兒程暗示性に富むものはない。親や長上の人からあゝしろ、こうしろ、と命令せられたる時、それに對して何の考へもなく、たゞ従ふのである。此の頃の小兒には親は特に注意して、命令を發し、それに従はさせなければならぬ。

(2) 恐怖による服従 高壓的な命令には、感受性の強い小兒は其の聲、其の態度におびやかされて服従する。親が何時もこのような態度に出ると、遂には小兒は卑屈者になつたり、又親の顔色をみるやうになつたりして、本當の柔順でなくなる。

(3) 同情による服従 小兒が五六歳になると、同情心の芽ばえの如きものがあるから、自分が親のいひつけをきかぬと、親が悲しさうなふりをするのを見て、氣の毒に思つたり、又反對に自分が親の命令通りにすると、如何にもうれしそうにするのを見ては、自分もうれしいので、自然親の命令に服従するといふやうになる。此の心が段々發達して、眞の服従の根本となるのであるから、この種の服従は益々のばして

ゆくことが必要である。

(4) 利益関係による服従 小兒が五六歳以上になると、次第に利益関係の觀念が起つて来る。よいものが買つて貰ひたいとか面白い處につれていつて欲しいために親の命令に服従するのである。かゝる性質の小兒が成長すると、主義主張も利害関係のために賣るやうな無節操な人間となるものであるから、十分いましむべきである。

(5) 合理的な服従 小兒に正雅善惡の判斷がつくやうになると、初めて合理的に服従するやうになる。合理的の服従とは、父母や長上の人をよるこばせやうとする考へと、又これは正しいから従はうとか善だから服従しやうとかといふ判斷から服従するのである。これが本當の自覺的な服従で、一番高尚なものである。而してこれは青年期になつて初めて十分に發達するのである。

徳性の涵養上必要なる手段は左の如し。

(一) 模範 父母長上の模範は幼兒の躰上に絶大なる勢力を有す。故に家庭内に於ける人々は、常に好模範を以て其の子弟を教導せんことに注意すべし。

資料

小兒は自主獨立の念に乏しく暗示され易く、模倣性に富むを以て父母長上の言語動作を直に模倣するものである。従つて環境を整理して、自然のよき感化を小兒に與へるやうにしなくてはならぬ。「命令による時は其の道長く、示範による時は其の道短くして有力なり。」とは味ふべき言である。示範によつて導くことは、特に幼兒に効果があるものである。

父母の示範は特に有力である。又兄弟朋友等の年齢の接近し、性情相似たるもの、影響は頗る大である。よき兄弟、よき友、よき僕婢は此の點に於て必要である。

小兒の不正な欲望、不良な感情などは、みだりに抑壓せず巧に轉向して行くがよい。小兒は被暗示性に富むものであるから、此の轉向作用が比較的容易に行はれるものである。

(二) 賞罰 賞は善行を獎勵し、罰は非行を懲戒するの手段にして、其の目的とする所は共に善に導かんとするにあり。

(1) 濫賞濫罰は避くべし 濫賞は慢心を起さしめ、濫罰は意氣を銷沈せしめ、又は反抗心を起さしむるものなり。共に害ありて効果なし。

(2) 動機と結果とを考察し、正當公平ならんことにつとむべし。

(3) 兒童改悛せし時は愛を以て暖めんことを要す。過去の惡行をいつまで

も責むるは不可なり。

資料

懲罰上の主義 懲罰を課する主旨には種々の説がある。

(1) 應報主義 罰を悪行に對する應報であるとする主義が應報主義である。善因善果惡因惡果は正義の要求する所で、正義の實現は、吾等の理想であるとし、過去の惡行に對して報償として罰を課するので、あまり感心は出來ない。

(2) 威嚇主義 次に前者の如く過去を見ず、將來を見、將來惡行なからしめんがため、惡行すればかく罰を受けると警戒せしめる。罰の恐るべきことを示し、惡行をしないやうにする主旨で罰を課するものがある。これが即ち威嚇主義である。威嚇主義に於ては罰はいきほひ嚴酷になりやすいきらひがある。これもあまり感心はできない。

(3) 改善主義 それから今一つは改善主義といふのであつて罰を以て、其の惡行者をして改過遷善せしむる方便なりとするものである。罰はやむなく用ふるとすれば此の改善主義によつて課すべきで然も課罰の奥そこには愛の心がひそんで居らねばならぬ。

課罰上の注意 課罰上注意すべき點を擧げて見れば左の如くである。

(1) 自然的に課罰せられたる時は、其の上に罰することは必要がない。例へば、大食し

て下痢を起したとか、花を折らんとして蜂にさされたとかいふやうな場合には、其の上に殊更に罰するの必要はない。

(2) 濫罰は避くべきである。罰を多くすると無恥となり、効果がなない。

(3) 寬嚴宜しきを得なくてはならぬ。嚴に失するよりもむしろ寬に失する方がよい。嚴に失せば自信の念を失ひ、自暴自棄になつてしまふ。

(4) 多くの子女ある場合には公平を保つことに注意しなくてはならぬ。偏愛から來る不公平は子女の心情を邪ならしむるものである。

罰の誤用

(1) 反抗心を起す。

(2) 怨恨の心を起す。

(3) 過をかくす。

(4) 自暴自棄となる。

(5) 家出をする。

褒賞 褒賞は善行に對して快感を與へ獎勵を加ふるを目的とするもので誘導獎勵により善に進ましむる積極的方便である。命令の抑壓禁止の消極的方便に比し適用の範圍廣く、簡單なる一言の賞罰も長い叱

言にまさり、小兒を動かす力の大きなるものである。然し褒賞を誤用すると主客顛倒するやうになる。例へば「〇〇をあげるから使に行つておくれ。」などといった風に小兒を使ふと、あとからは其の報酬を目あてに行動し報酬なくば動かぬやうになつてしまふのである。

褒賞には、顔容で示すもの、言語にあらはすもの、物品を與へ、又はどこかへつれて行く等種々ある。年齢男女氣質等を考へ適當に處理すべきである。

褒賞を與ふる上につきて注意すべき主なる事項は左の如くである。

- (1) 濫賞を避けねばならぬ。賞に慣れて其の効果薄く、與へぬと却つて不平を起すやうなことがある。
- (2) 誤用なきやうに注意しなくてはならぬ。動機の不純、又は其の者の行爲でないのにそれと誤認して與ふる等は、小兒をして射僥心を起さしむるものでよろしくな
- (3) 懸賞的のことは避けたがよい。欲望によつて行動することになり、他人に當り自分に分得られなかつたやうな時には、嫉妬心を起すやうなことになる。
- (4) 賞は常に用ふると効果がなく、時々用ふべきである。年齢の加はるに従ひ賞は漸次に減少し、遂には良心の満足を以て喜んで善行を爲すやうに導くべきである。

之を要するに褒賞は懲罰と共に善行を勸奨誘導する一つの方便であつて、一つは積極的の一つは消極的のもので目的は一つである。

家庭教育の任務。教育の作用は養護教授訓練の三つに分けるのが普通であるが、家庭教育は主として養護と訓練に重きをおくべきである。

- (1) 養護。幼兒の身體は植物の幼芽の如く極めて軟弱で抵抗力に乏しい。故に發育に障害を及ぼすが如き事情を遠ざけ、其の健康と體力の充實とをはからねばならぬ。スペンサーは曰く、「成功の第一要件は強き動物たるにあり。國家繁榮の第一要件は又強き動物たるにあり。」と。兒童の身體の健否は將來の運命に關するものである。
- (2) 訓練。幼少の時は行動の方向一定せず、外事に動かされ易く、諸種の習慣を養成するに最も適當である。而して此の時期に養はれた習慣は根柢深く生涯を支配するものである。善良なる習慣の養成は家庭教育の一大眼目である。
- (3) 教授。學齡以前に強て教授を施すは不可。玩具を弄び或は運動遊戲を爲す際自然に事物の形狀大きさ性質等を辨へ、他人との交際によりて自然に言語を學ぶの程度に止め、其の他は、彼等の質問に應じ、之を導くの外、故らに時を定めて知識を授くるの要はない。

家庭教育者としての母。家庭の教育は主として父母之に任ず。就中、母は兒童の胎

内にあるときより、成長獨立するに至るまで、常に兒童の側を離れず、教育に當るものなれば、其の感化最も大なり。古來偉人と稱せらるゝものゝ傳記を見るに、其の多くは賢明なる母の手に養はれ、襁褓の裡よりして、已に周到なる教育を受けしものにして、偉人の徳を稱ふるは、是れやがて母の徳を稱ふるなり。子女の教育は母に與へられたる最も高潔なる任務にして、女子は凡て生れながらにして、教育者たるの使命を有す。世に或は社交を事として、兒童の教育を忽せにし、或は無智なる乳母、僕婢の手に最愛の子女を托して、顧みざるあり、思はざるの甚だしきものといふべし。

母は又教育者として最も必要な資質を自然に具有す。至純なる犠牲的の愛情是なり。純潔一點の私を交へざるに於て母の愛に比すべきものなし。愛は例へば春光の如く、冬枯れの野も之によりて甦る。愛のある所、子女の情自ら之に引かる。愛を以て之を行へば、戒むるも冷酷ならず、鞭つも怨まず、母子の感情は渾然として相融和し、母は子を愛し、子は母に信頼し、感謝の情自ら湧き、中心母の教に従順なるに至るべし。斯くてもなほ教育の行はれざるの理あらんや。故にペスタロッチは母の子に對する愛情を以て、道徳教育の基礎となし、母の愛は自ら兒子の心中に、愛情、感謝、信頼等の念を發せしめ、此の愛情、感謝、信頼等は引いて他人及び神に對する愛情、感謝、信頼の念となり、終に完全なる道徳心、宗教心に達するものなることを説けり。

上に述べたる如く、女子は凡て教育者たるべき使命を有し、又教育者として最も必要な資質を具ふ。されど教育には各々其の法あり。愛するにも道を以てせず、盲目的の愛に流るゝときは、其の弊や遂に及ぶべからざるものあるがごとく、凡て教育は兒童の精神及び身體の發達を考へ、適當に之を導くことをなさざるべからず。

(檜崎・篠原二氏教育學)

第十三章 就學・學校家庭の連絡

子女滿六歳に達すれば法規の定むる所に従ひ、尋常小學校に入學せしめ、其の課程を修了せしめざるべからず。これ父兄たるものゝ義務なり。

- (1) 子女入學の際は、父母自ら兒童を伴ひて出校し、學校の方針を聽き、家庭教育上の参考とすべし。懇談會にはつとめて出席し、諸事打明けて相談すべし。又時々學校に至り、兒童の學習状態を視察すべし。
- (2) 兒童の面前に於て學校又は教員を批難することあるべからず。
- (3) 疾病其の他已むを得ざる場合の外、遅刻、早引、缺席などせしむべからず。毎朝勇んで出校するやう、兒童を獎勵すべし。

4) 豫習復習は自力を以て爲さしむべく、猥りに助力して依頼心を起さしむることあるべからず。

5) 其の他身心の陶冶につき常に受持教員と其の意志を疏通し、學校にて獎勵禁止する所はよく家庭にて逐行せしめ、學校と家庭一體となりて兒童に對する教育力の増大をはかるべし。

資料

義務教育 現行制度では、兒童が滿六歳に達してから滿十四歳に至る迄八ヶ年間を學齡と定め、兒童の保護者は其の兒童が學齡に達した日以後の最初の學年から尋常小學校の課程を修了するまで教育を受けしめなくてはならぬ。即ち尋常小學校の課程は強制的のもので義務教育と稱せられて居るのである。故に保護者は、自己が貧窮の爲め兒童を就學せしめることができぬとか、兒童が白痴不具等の爲めに就學することができない場合は、台の外は、教育の義務を免れることはできないのである。

小學校令の就學に關する規定は左の如くである。

第三十二條 元童滿六歳に達したる翌日より滿十四歳に至る八箇年を以て學齡とす。學齡兒童の學齡に達したる日以後に於ける最初の學年の始を以て就學の始期とし

尋常小學校の教科を修了したるときを以て就學の終期とす。

學齡兒童保護者は就學の始期より其の終期に至る迄學齡兒童を就學せしむるの義務を負ふ。

學齡兒童保護者と稱するは學齡兒童に對し親權を行ふ者又は親權を行ふ者なきときは其の養見人を謂ふ。

第三十三條 學齡兒童瘋癲白痴又は不具廢疾の爲就學すること能はずと認めたるときは市町村長は監督官廳の認可を受け學齡兒童保護者の義務を免除することを得。學齡兒童弱弱又は發育不完全の爲就學せしむべき時期に於て就學すること能はずと認めたるときは市町村長は監督官廳の認可を受け其の就學を猶豫することを得。市町村長に於て學齡兒童保護者貧窮の爲其の兒童を就學せしむること能はずと認めたる時は亦前二項に準ず。

第三十五條 尋常小學校の教科を修了せざる學齡兒童を雇傭する者は其の雇傭に依りて兒童の就學を妨ぐることを得ず。

第三十六條 學齡兒童保護者は就學せしむべき兒童を市町村立尋常小學校に入學せしむべし。但し市町村長の認可を受け家庭又は其の他に於て尋常小學校の教科を修めしむることを得。

家庭と學校との連絡。參觀するとか、父兄懇談會に出席するとか、通知簿を活用するとかして、學校の意見も知り、家庭に於ける兒童の狀況も腹藏なく語り、方針を一にし、力を協せて子女教育の徹底を期すべきである。

(1) 學校の養護の趣旨をくみ常に榮養、休息、睡眠等を十分にし、身體被服を清潔にし、正しき姿勢を保持せしめ、覺官の保健を期すべきである。

(2) 學校の教授方針を體し、自學自修の習慣を養成すべきである。

(イ) 復習 學校で教授を受けたところを反覆練習せしめ、徹底的に理解せしむること。

(ロ) 豫習 未だ教授を受けない所を自力を以て下調べせしむ。父兄が教へたり、殊に家庭教師をやとひ入れ、先へくと教へ込むことは、教育上からいつて宜しくない。

(ハ) 學校からの家庭課題は自力でやらせねばならぬ。家庭としては、適當なる獎勵を加へ環境を學習に便なるやうにしてやるがよい。成績不良、又は缺席せし所などの外は、徒に干渉しないがよい。

(ニ) 十素の成績物、學期末又は學年末成績表は、よく之を檢閲すること。

(3) 家庭に於ては、學校の訓練の旨趣により、協力して健全なる情意の涵養と良習慣の

形成につとめなくてはならぬ。

(イ) 學校は共同訓練にまさるも、個別訓練には缺くる所が多い。家庭では個性に應じたる訓練に注意しなくてはならぬ。

(ロ) 良友を選んで交際せしむること。

(ハ) 學校の命令、訓誡を遵守せしめ、學校訓練の徹底を期すること。

以上の如く教育の作用の各方面に於て相連關して行かねばならぬ。家庭に於て學校乃至教員の惡口を爲し、輕蔑するが如きことあらば、兒童は教師を輕んじ、學校をよく思はず、教育力は著しく減殺されるものである。父兄たる者大に慎まなくてはならぬ。

第三篇 家庭管理

第一章 財の管理

第一節 生産と消費

吾等は精神上物質上各種の欲望を有す。此の欲望を満足せしめ得る外界の事物は即ち財貨なり。而して財貨の生産と消費とは經濟の二大部分を爲すものなり。

生産とは物を創造するの謂にあらず。自然物に勞力を加へ、其の形狀位置性質數量等を變化せしめ、以て吾人の欲望を満足せしむるに適する性能をつくり出すをいふなり。換言すれば、財の效用を創造し、増加せしむることをいふ。例へば農夫が田畑を耕して米麥を收穫し、坑夫が石炭を採掘し、企業家が會社を組織して種々の工業品を得るが如きは、何れも生産なり。生産には自然勞力資本を必要とし、之を生産の三要素といふ。

消費とは、吾等の欲望を満足せしめんが爲め、財貨の效用の一部又は全部を消耗するをいふ。消費には生産的消費と終局的消費とあり。生産的消費とは更に生産の結果を得んが爲めの消費にして、例へば紡績絲を生産せんが爲めに財を消費するが如き即ちこれなり。終局的消費とは財の效用を直接享受するをいふ。

生産と消費とは相反する活動なるも、其の間には最も密接なる關係を有す。即ち消費あるが爲めに生産あり、生産あるが爲めに消費あるなり。消費は生産の起因にして生産は消費の手段なり。消費は生産の最終目的たるものなり。故に吾等は正當なる消費を行はざれば、生産の目的を十分に發揮すること能はざるのみならず、生産を健全に發達せしむること能はざるべし。

資料

欲望。凡そ人間には常に不足の感と、絶えず之を充さんとの願をもつて居る。此の感と願との二者合成の心理作用を欲望といふ。欲望は充さるゝ時は快感を覚え、充されざる時は苦痛を感じる。貴賤老若男女各其の欲望をなるべく完全に充足せんことを欲するものである。

欲望の心理現象は左の如く分解することができる。

- (1) 不快又は不安の状態にあることの意識。
- (2) 此の不快不安の状態より脱却せんとする希望。
- (3) 此の希望により生じたる過去快感の追懐。
- (4) 此の過去の快感を再現せんとする希望。
- (5) 此の希望を實現するに必要な犠牲の想像。
- (6) 其の希望の實現と犠牲との比較。

欲望はかくの如く解剖することができる。

欲望の種別

第一種の區別

(1) 肉體的欲望 人渴すれば飲を思ひ、飢れば則ち食を思ふ。之を肉體的欲望又は體慾といふ。

(2) 精神的欲望 寡徳にして至仁の域に達せんことを庶幾するが如きをいふ。心慾ともいふ。心慾は獨り人間にのみ存す。人類の萬物の靈長たる所以である。

第二種の區別

(1) 現在の欲望 今日飲み且つ飽かんことを欲し、現在に於て一身一家の幸福を希望

するが如きは現在慾である。

(2) 未來的欲望 今日のみならず。明日も飲み且つ飽かんと望み、現世のみならず死

後の冥福を祈り、我れ無き後の子孫の繁榮をも希望する欲望は來世慾である。

人は現在を樂むのみならず、未來をも樂むものであるから、眼前の小欲望を忍び永久の大欲望を充さんとするは、文明進歩を促す基礎である。勤儉貯蓄の美風起り、財産の蓄積資本の構成、保險の普及を見るに至る。

第三種の區別

(1) 個人的欲望 一身一家の幸福をはからんとする個人慾である。個人の利己心の發現である。

(2) 社會的欲望 一般社會の幸福、國家の利益を希ふ所謂社會慾でこれあるにより、社會は進歩し、國家は富強に赴く。個人の公共心、博愛心、愛國心等の愛他人の發露に外ならないのである。

個人的欲望と社會的欲望とは、同時に満足せしむることが出来ない場合がある。かかる場合には社會慾を充さんが爲めには個人慾を犠牲にしなくてはならぬ。かくて社會は圓滿なる發達を遂げるのである。

第四種の區別

(1) 生存的欲望 生命を維持せんとする欲望をいふ。絶對的に必要な欲望で之を充すにより初めて生存し得らるゝものである。衣食住の欲望は之に屬する。肉體的現在の個人的欲望の如きは多くは之に屬す。

(2) 文明的欲望 生命を維持するに止まらず更に心身共に向上發展せんとする欲望である。人生の趣味は此の欲望あるにより解し得らるものである。高尚なる欲望で精神的欲望未來的欲望社會的欲望の如きは多くは之に屬する。

第五種の區別

(1) 自然的欲望 生命健康を維持する爲めに必ず満足せしめざる欲望である。

(2) 地位的欲望 社會上の地位品格を維持する上に於て満足せしめざるべからざる欲望である。分限に應じて満足せしむべき欲望である。人によりて異なるもので一定の標準はない。

(3) 奢侈的欲望 地位的欲望の範圍を超えたるもので生命健康を維持する爲めにも地位を維持する爲めにも毫も必要なきものである。

此の區別は獨逸經濟學の泰斗ロツシエル(Roscher)氏の分類で廣く行はれて居る。地位的欲望と奢侈的欲望の間に快樂的欲望といふのを入れて四種として居る人もある。人類欲望の發達階段。

(1) 生存維持の欲望 (食慾衣慾住慾)

(2) 性慾 (男女の慾)

(3) 聲聞を求むる欲望 (他人より認められんとする慾)

(4) 自衛安樂療養上の欲望 (健康を重んじ疾病を治し、長命幸福を欲す)

(5) 學問藝術道德宗教上の欲望 (學力を養成し智識を廣め、美術音樂文學上の趣味を解し、道德を高め信仰を得んとす)

欲望の進化 人類最初の欲望は衣食住の途を得ることと外敵を防禦することである。然しこれのみが人間要求の全部ではない。慰安清潔娛樂裝飾社交等の如きものは有力なる要求である。道具知識力特權保險財產技藝美術等を欲する念は衣食住の如く本能的ではなく、主として教育的及び社會的に得られるものであるが、人類の有力なる要求として人生に重要な役目を働いて居る。(上野陽一氏 事業の心理)

財貨 人類の欲望を満足せしむることを得る外界の有形物體を財貨又は財といふ。

(1) 財貨は人類の欲望を満足せしむるを得るものでなくてはならぬ。欲望を満足せしめ得る効用をもつて居なくては欲望満足的手段とはならない。

(2) 財貨は外界の有形物件でなくてはならぬ。有形とは吾人の五官に觸るゝ物の義であつて、外界の物件とは吾人の身體に屬せず吾人を圍繞する自然又は自然物の義で

ある。

財貨は之を自由財貨と經濟財貨との二つに區別することができる。

(1) 自由財貨 非經濟的財貨といひ其の數量頗る多く何等の犠牲又は反對給付を出さずして自由に使用處分のできる財貨である。例へば水空氣日光の如きものは生活に必要なものであるが數量多くして何等の對價なしに之を得ることかできる。但し場合により對價を要することがある。例へば都會に於ける水道の如きは其の一例である。これは自由財が特に經濟財となつたものである。

(2) 經濟財貨 貨物ともいひ其の數量に限りあり之を得る爲めには犠牲又は反對給付を出さねばならぬものをいふ。

(イ) 其の數量に限りあること。

(ロ) 従つて之を得んとせば若干の犠牲若くは反對給付を出すべきこと。

(河津法學博士 經濟學)

財貨。

(1) 物質即ち有形物なること。

(2) 欲望を誘發するものなること。

(3) 欲望を充足し得るものと認められたるものなること。

經濟行爲 經濟行爲とは主として經濟主義に基き經濟財を以て經濟的欲望を充足せんとする行爲なり。經濟主義とは最小の勞費を以て最大の効果を收めんとするをさふ。經濟主義によるもの必ずしも經濟行爲にあらず學者が書を講じ僧侶が布教するに當り時間と費用とを省きなるべく多くの成績を擧げんとつとむるも此の種の欲望は經濟的欲望にあらず従つて之を充す物も經濟財にあらず故に經濟行爲にあらず。

經濟行爲

欲望を充足せんとする行爲

- (1) 生産により財貨をつくる行爲
- (2) 交換により財を得る行爲
- (6) 分配により財を得る行爲
- (1) 消費により欲望を充たすの行爲
- (2) 使用により欲望を充たすの行爲

(津村博士)

生産 生産とは人爲によつて外界の物資の性質數量形狀位置等を變化せしめ財貨として其の效用を發生又は増加せしむることをいふのである。

(1) 外界の物資を捕へ效用を發生せしむるもの。漁獵。

(2) 既に存在する財貨を變質し數量を増加し效用を増加せしむるもの。農業牧畜。

(3) 物資の形狀を變化するにより效用を發生増加せしむるもの。工業。

(4) 物資の位置を變化するにより效用を發生増加せしむるもの。商業。

生産の三要素。人は無より有を生ぜしむることは出来ない。生産をするには必ず效用を發生せしむべき各種の自然物及び自然力がなくてはならぬ。自然物及び自然力は之を自然といふ。

次に生産は人爲により財貨としての效用を發生増加せしむるものなれば、物資を變化する勞力がなくてはならぬ。

更に現今の經濟組織に於ては、各種の物資を收得し、勞力を得る爲めには金銭其の他の財貨即ち資本がなくてはならぬ。

従つて生産には自然勞力資本の三者を必要條件とするのである。

自然。人類を包圍する外界の一部、自然物並に自然力を指すものであつて受動的生産要素である。土地、動植礦物、水力、風力等の類である。

自然が生産要素たる所以は左の如くである。

- (1) 自然は田畑の農業、河海の漁業に於けるが如く、生産に必要な場所を供すること。
 - (2) 動植礦物等の農工業に於けるが如く、生産に必要な材料を供し。
 - (3) 更に蒸氣力、電力の工業に於けるが如く、生産に必要な力を供する。
- 自然分類
- (1) 土地 山林、田畑、河海等の一切を含む。經濟上最も重要なものである。

土地が生産に必要な理由は左の如くである。

(イ) 土地は萬物を負擔、積載する能力があること。

(ロ) 土地が礦物等を包藏する能力があること。

(ハ) 更に植物等を培養する能力があること。

(ニ) 外圍 吾人を圍繞する外界の義であつて、氣候、邦土の位置、地形、水利等を含む。

(3) 自然物 魚介、穀物、鳥獸、草木、礦物の類である。

(4) 自然力 水力、風力の類は、原始的な自然力といひ、蒸氣力、電力の如きは誘導的な自然力といふ。原始的な自然力は人力を要せずして存し、人類はたゞ之を利用するのみ、誘導的な自然力は、人類が資本勞力によつて始めて發生せしめたものである。

勞力。人類の精神並に肉體上の活動で、或一定の目的を意識し、之を達する爲めの手段たる活動である。例へば農業を営み、利潤を得んとする場合に、利潤を得んとするところが目的で、農業を営むことは其の手段である。

資本。生産又は營利の爲めに使用し、又は保存せらるゝ勞働によつてつくられたる財貨をいふ。

(二) 生産資本 未來の生産を助くるものをいふ。其の種類は左の如くである。

(1) 工具機械 工具とは構造簡單にして之を動かすに特に動力を要せず、人力で使用

するもの例へば鋤の類である。機械とは構造複雑にして之を動かすに動力を以てすべきものをいふ。

(2)工場 其の他生産に用ひらるゝ建物。

(3)原料 生産物に其の形體の残るもの例へば鐵器類に於ける鐵織物類に於ける織絲の如きものを主原料といひ工業品の生産に用ひらるゝ石炭の如く生産の際全く其の形體を消失するものを副原料又は助原料といふ。

(4)生産用の牛馬家畜の類。

(5)土地に施したる改良工事 土地其の物は自然であつて資本ではないが土地に施した改良工事即ち灌溉排水工事の如きは性質として生産を助くるものであるから資本である。

(6)交通機關 鐵道運河を始め船舶汽車等を含む。

(二)營利資本 工業家が倉庫に貯藏する工業品商人が店舗に保存する商品の如きは之を保有しておいて適當の時に賣り利潤を得んとするものであるから營利資本である。

消費 消費とは財の効用の消滅又は減少をいふ。換言すれば財の効用の全部又は一部を消滅せしむることである。生産せられた財貨は消費によつて始めて欲望を充

し始めて財の財たる所以を發揮するのである。消費は左の二種に分けるのが普通である。

(1)生産的消費 生産の手段として之を行ふもので例へば機械を動かすが爲めに石炭を焚くが如きはこれである。消費の結果は生産品となつてあらはれる。

(2)終局的消費 財貨の効用を直接に消費するものである。食物衣服等の如きものは之に屬する。食物の如く一回で効用の全部の消失するものもあるが衣服の如く効用の一部が失はれるものもある。

消費 物を生産するのは消費して欲望を充し又は充たさせる爲めである。生産されたものを交換するのは消費者の手に入れ若しくは入らしめる爲めである。分配によつて所得を得るのは消費する爲めである。お互の經濟活動は欲に始り生産され交換され所得を得るのはみな消費を目ざして進み消費を以て終るのである。

消費といふうちにも色々ある。自然……水や火や風や雨など……によつて物がなくなり又は其の値打を少くする。けれどもそれは經濟學上の消費ではない。綿花は消費されるがそれは紡績といふ生産の爲めであつて眞の消費ではない。物の値打が少なくなるといつても流行おくれになるとか物價の下落するやうなことを指すのではない。つまり着物を着るとか米をたべるとか家に住ふとかいふやうに物をつかつ

てつかつた爲めに物の効用がなくなり、又は少なくなることをいふのである。もとより物の消費に當つても、上手につかふやうに經濟主義がはたらかねばならぬ。今の我が國のありさまを見ると此の點について心すべきものがある。

(太田經濟學博士 經濟讀本)

生産と消費。生産とは財貨の効用の創造又は増加をいひ、消費とは財の効用の消滅又は減少をいふ。故に兩者の間には自ら次の關係を生ずる。

- (1) 生産と消費とは全く反對なる經濟行爲なること。されど
- (2) 生産は消費の結果にして、又消費を目的とすること。従て
- (3) 生産と消費とは常に必ず因果關係を爲すこと。

生産と消費とはかくの如く密接なる關係を有し、消費は一面に需要を意味し、生産は他面に於て供給を意味し、消費せられないものは永く生産すること能はず、生産せられざるものは到底消費することはできない。需要に伴はざる供給は次第に消滅し、供給に伴はざる需要は遂に減少するものである。

生産と消費とは互に相調和するを要する。消費徒に多く生産之に伴はざれば、資本は減少して經濟衰退し、生産のみ膨脹し、消費之に伴はざれば、資本と勞力は空費せられ、生産過剰となり、財貨停滯、金融閉塞、信用杜絶、物價は暴落し、所謂恐慌を惹起するに至るのである。

第二節 合理的消費

吾等は常に不足不満を感じ、之を充足せしめんとする願望を有す。此の不足不満の感と之を充足せしめんとする願望とを併稱して欲望といふ。欲望には精神的欲望と物質的欲望との二種あり。物質的欲望は經濟的行爲の原動力を爲すものなり。

欲望は之を分つて四とす。

(一) 必要的欲望 吾人の健康を保持するに必要な程度に於ける衣食住に關する欲望にして、若し之の欲望を満足せしめざる時は、吾人は其の健康を害するものなり。

(二) 地位的欲望 社會的關係より發する欲望にして、社會的地位を保持する上に必要な欲望をいふ。

(三) 快樂的欲望 この欲望は之を満足せしめずとも身體の健康及び社會的地位を危くするものにあらず。之を満足せしむれば心身の休養慰安を得、更

に進んで生産能率を高むることを得るものなり。現代生活に於ては正當なる消費なるも、若し精神的訓練を缺くときは、奢侈的消費となるべし。注意を要す。

(四)奢侈的欲望 身分不相應なる欲望をいふ。即ち吾人生活上其の必要を超え個人及び社會の爲め不必要なるもの不合理なるものを得んとする虚榮心・好奇心より來る情慾なり。此の欲望を満足せしむる消費行爲は浪費にして、個人としては其の經濟を危くし、堅實なる精神と健康とを失ひ、社會の平和を破るに至るものなり。

必要的・地位的・快樂的欲望に満足を與ふる消費は之を經濟的合理的消費にして人生幸福を向上せしむる爲めに必要なるも、奢侈的消費は經濟的罪惡にして許すべからざる非合理的消費なり。

資料

消費の分類 消費は種々の見地より種々に分類することを得べし。

(1) 一時的消費・永續的消費 消費の目的物が不耐久物なりや耐久物なりやに基づく區別なり。例へば飲食物の消費は前者にして、家屋器具の消費は後者なり。

(2) 生産的消費・終局消費 消費の目的が直接なるか、間接なるかに基づく區別なり。生産的消費とは新なる財を生産する爲めに原料機械等を消費するを指し、直接吾人の欲望を充すものにあらず。之に反して終局消費とは吾人が飲食を爲し家屋に住し、家具を使用する等、財の効用を直接に享受することを指す。生産的消費に在りては滅失せる効用が作出せらるゝ、効用より小なるを常とす。終局消費に在りては効用の滅失ありて作出なきを原則とす。例外あり衣服の襪が製紙の原料となるの類これなり。

(3) 公的消費・私的消費 消費者の人格による分類なり。公的消費とは、國家地方團體の如き公法人が公共職務を行ふ爲めにする財の消費にして、私的消費とは私人の各個又は其の團體の經濟に屬する消費をいふ。

(4) 必要消費・快樂消費・奢侈的消費 吾人が人として生存に必要な財の消費を必要消費といひ、吾人が或社會上の位置を保ち相當の快樂を享くるを快樂消費といふ。奢侈的消費とは社會の少數者のみが享受し得べき比較的 unnecessary にして比較的高價なる消費をいふ。(田島法學博士 經濟學)

合理的消費 吾人は一定の收入を以て財貨の消費を爲し、家族の生活をして居るのであるから、支出を合理的ならしむることは經濟生活の幸福を増進せしむる所以である。

生命・健康の維持肉體上精神上の向上發展の爲めに、吾人の獲得せる財貨を最もよく利用するを要する。

(一) 欲望の合理化即ち奢侈及び浪費を避くること。

(1) 奢侈は欲望それ自身の問題ではなく、其の欲望の充足即ち消費が、其の國其の時代に於ける各人の地位身分に對して相當なるべきか否かの問題である。奢侈は産を破り、家族をして社會から扶養を受けしむるが如きことなり、又己れ購買力あればとて社會に及ぼす影響をも顧みず、餘り餘計な欲望を満足せしむることは社會連帶の責任を無視せるものといふべきである。

(2) 浪費は心身に有害無益なる欲望を充足し、又は財貨の効用を利用することなく、無益に之を消滅せしむることをいふ。浪費は價值なき消費で、個人の購買力を阻害し、不合理なる物價騰貴の原因となる等、個人及び社會に與ふる弊害は大である。

(二) 吾人の欲望に最も適當せる財貨を識別すること。

適當なる財貨の選擇は消費經濟上最も大切なる問題である。例へば飲食物につきても、

(1) 人は凡そ一日に如何程の食料を必要とするか。

(2) 人體は如何なる榮養素を必要とするか。

(3) 各飲食物の榮養素は如何なるものであるか。

(4) 如何なる調理法が榮養に適し、消化し易く、且つ家族の嗜好に適するか。等を知らねばならぬ。茲には財貨の選擇上必要な根本的條件を掲げて見やう。

(1) 共同的消費 各人が別々に財貨若くは施設を消費するよりも、共同的に消費する方が愉快であり、且つ經濟的である。交通機關、水道、瓦斯、電燈、學校、圖書館、公園等によつて示されて居るとほりである。されば一定の欲望が個人的消費によるも共同的消費によるも等しく満足される場合には、共同的に消費し得る財貨又は施設を選擇するのが合理的である。従つて一家中に於ても家族が共同的に消費する支出を先にし、個々別々に消費する支出は後にすべきである。

(2) 調和的消費 財貨は其の配合の巧拙如何により効用に大小を生ずる。食料品の配合、被服の色合、住宅の裝飾等財貨の選擇に際し、調和宜しきを得るやう注意すべきである。

(3) 融通力ある消費 各種の消費につき融通力を養成し、其の消費に變化あらしめ財貨も生産地の範圍の廣いものを選択して消費すべきである。

(4) 實質上價格の廉なる消費 財貨の効用と市場價格とを比較し、實質上の價格の廉なる財貨を選択すべきである。市場價格は必ずしも其の財貨の効用を表示せる

ものでない。安價なるものが不經濟的なることもあり、高價なるものが却つて經濟的なる場合は多々ある。

(三) 選擇せる財貨を最も有効に利用すること。財貨の選擇宜しきを得るも其の使用法が十分でないとは十分なる欲望の満足は期し難い。財貨の使用を適切ならしむるには知識技術兩方面の修練を必要とする。

(1) 財貨の使用を適切ならしむる知識

(イ) 節約 消費をなるべく少くし、欲望をなるべく多く充足すること。即ち財貨を最も有効に利用することは節約である。節約は浪費に對する語で最少の勞費を以て最大の効果を擧げんとする經濟主義の一應用である。節約には財貨其の物の節約の外勞力及び時間の節約につきても注意すべきで、家庭に於ける婦人の能率を増進し、教養の時間を得るためにも必要である。

(ロ) 無用と思はるゝ物の利用 消化を容易にし、嗜好を促し、食料品の含有する榮養素を充分利用するやう、調理法を改良し、又は殘物屑物を有益に利用する方法を發明し、なほ食品の貯藏法を研究し、其の利用の途を講ずる等從來無用と思はれた物に新に效用を發見することは消費の進歩の一である。

(2) 財貨の使用を適切ならしむる技術

科學的知識の基礎とし、其の知識を實際的に活用し得る技術を持つて居なければならぬ。食物の調理、食物の貯藏等につきても之を實現する技能なくば財貨の適切なる使用は出來ないのである。

之を要するに、欲望を正しくし、財貨の選擇及び使用の方法を適當ならしむれば吾人は正當なる欲望満足の最大量を得て消費の究極の目的を達し、家族の幸福を増進することができる。

第三節 消費と女子

人文未だ開けざる時代に於ては、家庭は經濟の中心にして、其の必要品はすべて之を生産し、所謂自給自足の状態にてありき。然るに文明の進歩は産業組織に大なる變動を來し、分業發達して、嘗て家庭に於て生産せられたる財貨の大部分は、大組織の工場に於て生産せらるゝに至れり。従つて從來生産者の地位にありし女子は消費者の地位に轉換せられ、茲に新に消費者としての重大なる使命を負擔することゝなれり。

或る經濟學者はいへり。「富の消費事務所を尊重すべし。如何となれば、一

國の貧弱・困窮の原因は、其の収入の缺乏よりも、之を消費する知識の缺乏より來るものなり」と。又曰く、「人類の幸福安寧を増進する要件三あり。(一)よりよき生産、(二)よりよき選擇、(三)よりよき消費即ちこれなり。而してよりよき消費は財貨の效用を大ならしめ、よりよき選擇と共によりよき生産よりも經濟上重要視すべきものなり」と。誠に味ふべき言にあらずや。

女子は此の大切な選擇消費を掌理するを以て、一家の繁榮は勿論一國の富強・人類の幸福をも左右するの鍵を有するものなりといふべし。

近來我が國の經濟界を見るに輸入は年々超過の傾向を有し、人口は増加して經濟難は刻々吾等にせまりつゝあり。女子たるもの大に覺醒して此の間に善處するの覺悟なかるべからず。

資料

自給自足 自給自足は自給經濟といふ。一家族又は一部落の者が消費する所の物を舉て自ら生産し、他の經濟主體即ち經濟を營むものと交換せざるをいふのである。

經濟學者デ・ハインの言、「人類の安寧幸福を増すには三つの必要なることがある。云々……富を使用する事務所を尊敬することは……云々。」

消費者としての婦人の責任 我が國最近の統計によれば一ヶ年間に衣食の原料として消費せらるゝものは實に五十億以上で、此の金額は直接・間接に婦人の手に觸れないものはない。而して此の多額の財を有効に使用するや否やは實に其の家庭の幸福・繁榮・人類の福祉に關することの大なるを思はねばならぬ。此の點からいふと婦人は實に人類に繁榮と幸福とを與ふる鍵を有するものであるといつても過言ではない。更に一步を進めて考へると消費者としての婦人は其の購買力を通して如何なる品質の財貨を生産すべきかを指揮決定する勢力を有するものである。婦人が社會的團體として此の力を利用するならば消費者として勢力は益、其の力を強め、其の國の工業界・產業界を統御指揮するに至ることは明らかである。若し此の重大なる關係を利用せず、其の力を悪用せば、自家經濟を亂すのみならず、產業界を惡化し、外面的なる製品をつくらしめ健全なる産業の發達を誤るに至るものである。消費者としての責任はかく大なるものである。(井上秀子氏 最新家事提要)

經濟の發達

經濟の發達は生業を中心として左の如く區分する。

(1) 狩獵及び漁業時代 水草を追ふて漂泊す。狩獵・漁業に従事し生命をつなぐ。一部落一酋族相共同して仕事に従事し得物は共有とす。

(2) 牧畜時代 前時代と同じなるも食料を得又は労働を助けしむる爲め動物を飼養す。動物は私有せしめ、私有財産の觀念起る。

(3) 農業時代 定住し、土地私有制度確立を得て始めて發達す。

(4) 農工時代 都市の人民は工業品を以て田舎の農業者に供給し、田舎の農業者は農産物を以て都市の人民に供給し經濟を營む。

(5) 農工商時代 農業工業の傍に商業が發達し、今日の如き時代となる。

輸出。 (大正十五年) 概況。
輸入。 (昭和元年) 概況。

大正十五年および昭和元年にわたるわが國の外國貿易額は、輸出二十億四千四百七十二萬一千圓、輸入二十三億七千七百四十七萬六千圓、輸出入合計四十四億二千二百二十九萬七千圓であつて、輸入は輸出に比して、三億三千二百七十五萬五千圓の超過を示して居る。

いまこれを前年と比較すれば、輸出は二億六千八百八十六萬八千圓、輸入は一億九千五百十八萬一千圓、輸出入總額において四億五千六百四萬九千圓を、いづれも減少し、その減少割合は輸出一割一分三厘、輸入七分六厘、輸出入合計九分三厘にあたる。しかして入超額は六千五百六十八萬七千圓を増加した。

貿易額前年比較 (單位千圓)

	(大正十五年)	(大正十四年)	(増減)	(割合)
輸出	二、〇四四、七二一	二、三〇五、五八九	△二六〇、八六八	△一・一三
輸入	二、三 七、四七六	二、五七二、六五七	△一九五、一八一	△〇・七六
計	四、四二二、一九七	四、八七八、二四六	△四五六、〇四九	△〇・九三
入超	三三二、七五五	二六七、〇六八	六五、六八七	

これに臺灣および朝鮮における對外貿易額を加ふれば、前者における輸出額四千九百三十一萬八千圓、後者におけるもの二千四百七十七萬四千圓となるから、總輸出額は合計二十一億千八百八十一萬三千圓となるべく、また輸入にあつては、前者六千二百九十九萬七千圓、後者一億二千三百九十二萬九千圓であるから、輸入總額は合計二十五億六千三百六十萬二千圓となつて、即ち輸出入總額は、四十六億八千二百四十一萬五千圓に上り、輸入超過は四億四千四百七十八萬九千圓となるのである。

いまこれを前年に比較すれば、輸出にあつては二億五千九百八萬一千圓(一割九厘輸入にあつては一億七千九十三萬一千圓)六分二厘、輸出入合計において、四億三千一萬二千圓(八分四厘)の各遞減を示し、輸入超過は八千八百十五萬圓を増加した。

内地および殖民地貿易總額前年比較 (單位千圓)